

トキハ成年者二人若クハ市町村又ハ警察ノ吏員ノ立會ヲ必要トス是レ債
務者ノ利益ヲ保護シテ執達吏ノ不當執行ヲ避クルノ立法上ノ趣旨ニ出テ
タルモノトス(第五三條) 證人ノ立會ナクシテ爲シタル執行ニ付テハ第五百四
十四條ニヨリ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ

(三) 執行許可

夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可ア
リタル場合ニ限リテ執達吏ニ執行ヲ爲スヲ許ス許可ノ命令ハ執行ノ際之
ヲ示ササルヘカラス(第五九條) 許可ノ命令ヲ示サスシテ爲スモ執行行為ノ無
效ヲ來スヘキニ非ス但許可ノ命令ナクシテ爲シタル執行ニ付テハ第五百
四十四條ニ因リ異議ヲ申立ツルヲ得ヘシ

(四) 記録ノ閲覧及ヒ書類ノ付與

強制執行ニ付キ利害關係ヲ有スル者カ執
達吏ニ對シ執行記録ノ閲覧ヲ求メ又ハ記録中ニ存スル書類ノ謄本ノ付與
ヲ求メタルトキハ之ヲ許ササル可カラス是レ執行行為ノ状態ヲ保存スル
爲メニ執達吏ノ作成シタル記録ヲ利害關係人ハ必要トスル場合アルヲ以
テ閲覧及ヒ付與ヲ許シタルモノトス(第五八條)

(五) 執行力アル正本若クハ受取證書ノ交付

執達吏カ執行ヲ爲シ債務者カ
其債務ヲ辨済シタルトキハ債權者ヨリ交付セラレタル執行力アル正本及
ヒ債務辨済ノ證トシテ受取證書ヲ交付シ又債務者カ一部辨済ヲ爲シタル
トキハ執行力アル正本ニ其辨済ヲ爲シタルコトヲ記載シ且ツ辨済受領證
ヲ債務者ニ交付セサルヘカラス但債務者カ後ニ債權者ニ對シテ受取證ノ
交付ヲ求ムルノ權利ハ妨ケララルモノニ非ス(第五五條) 債務者カ全部辨済ヲ
爲シタルトキハ後日債權者カ再ヒ執行ヲ爲スノ必要ナク且ツ執行力アル
正本カ債權者ノ手裡ニ存スルトキハ債權者ハ再ヒ同一正本ニ依テ執行ヲ
爲スノ虞アルヲ以テ之ヲ債務者ニ交付スヘキモノトス然レトモ債務者カ
一部辨済ヲ爲シタルトキハ債務者ハ其債權ノ殘餘ニ付キ更ニ執行ヲ爲ス
必要アリ且債務者カ一部辨済ヲ爲シタル事項ハ之ヲ明確ニシテ其部分ニ
付テハ債權者ノ再度ノ執行ヲ避クルノ必要アルヲ以テ執行力アル正本ニ
一部辨済ヲ爲シタル旨ヲ記載シテ其正本ハ債權者ニ返還スヘキモノトス
債務者ノ辨済ニ對シテハ執達吏ハ其辨済カ一部ナルト全部ナルトヲ問ハ

ス受取證ヲ交付ス其受取證書ハ執達吏カ職權内ニ於テ作成セルモノナレハ公正證書ナリトス

同一執行正本ニ基キ債權者ヨリ申立テタル執行ニシテ多數ノ債務者ニ對シテ執行スル場合ハ各債務者ニ對シテ右ニ述ヘタル方式ニ準シテ執行力アル正本ノ交付若クハ辨濟ノ記載及ヒ受取證ノ交付ヲ爲スヘキモノトス
(六) 調書ハ作成 執達吏ハ執行行爲ヲ爲ストキハ其調書ヲ作成セサル可カラス(第五四條)調書ニハ調書作成ノ場所年月日執行ニ參與シタル人ノ表示其執行ニ參與シタル者ノ署名捺印調書ヲ此等ノ者ニ讀ミ聞カセ又ハ閱覽セシメタルコト其承諾ヲ爲シタルコトノ表示執達吏ノ署名捺印及ヒ執行行爲ノ目的物及ヒ執行行爲ニ關シ目撃シタル重要ナル事項ヲ記載スルコトヲ要ス執行關係人ノ署名捺印調書ノ閱覽及ヒ關係人ノ承諾等ノ事項ハ之ヲ具備スル能ハサルトキハ其理由ヲ記載セサルヘカラス此等ノ事項ヲ調書ニ記載スルハ執行行爲ノ狀況ヲ明確ニシ後日債權者債務者其他ノ利害關係人カ執行ノ當否ニ付キ争アル場合ノ證據ヲ保存スル目的ニ出テタル

モノトス

執行調書ニ右ニ述ヘタル要件ノ欠缺アルトキハ其調書ハ公正證書タル效力ヲ失フニ止マリ執行行爲自體ヲ無効トスルモノニ非ス口頭辯論ノ調書ニ付テハ口頭辯論ノ方式遵守ハ一ニ調書ノミニ依テ證スルコトヲ得ルモノナリト雖モ(第一三條)執行調書ハ執行行爲ニ付テノ唯一ノ證據方法ニ非ス故ニ調書ノ要件ノ欠缺アルモ執行行爲ノ當否ハ他ノ證據方法ニ依テ之ヲ證明スルコトヲ得ルモノトス

(七) 催告及ヒ通知 執達吏カ執行行爲ヲ爲ス際ニ債務者其他ノ利害關係人ニ對シ催告若クハ通知ヲ必要トスルコトアリ催告トハ執行關係人ニ對シ或事項ヲ知ラシメ以テ或行爲ヲ要求スルコトヲ謂フ通知トハ執行關係人ニ對シ或事項ヲ知ラシムルコトヲ謂フ催告及ヒ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ爲シ且調書ニ之ヲ記載スヘク若シ口頭ヲ以テ爲シ能ハサルトキハ送達ニ關スル規定ヲ準用シテ調書ノ謄本ヲ利害關係人ニ送達シ若シ送達證書ヲ作成セサルトキハ調書ニ送達ヲ爲シタルコトヲ記載スヘシ又強制執行實

施ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄地域内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルト
キハ催告又ハ通知ヲ受クヘキ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ郵便ニ
付シタルコトヲ調書ニ記載スヘシ(第五四條)但債務者ニ爲スヘキ送達及ヒ通
知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ債務者カ外國ニアルトキハ之ヲ
必要トセス(第五四條)

第四 執達吏ノ責任

執達吏ナル官廳ヲ組織スル執達吏ハ官吏ナルヲ以テ其職務上ノ義務ニ付テ
ハ一般官吏ト同ク責任ヲ負フヘキモノトス其他執達吏ハ職務上ノ義務ノ違
背ヨリシテ債權者其他強制執行ノ關係人ニ損害ヲ與ヘ又債權者ノ委任ニ因
テ爲スヘキ執行行為ヲ實行セス或ハ完全ニ實行セサルニ因テ債權者其他ノ
執行關係人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ執達吏ハ私法上ノ損害賠償ノ責ニ
任ス(第五三條)是レ執達吏ニ對シテ職務ノ執行ニ付キ慎重ノ注意ヲ加ヘシメン
トスル立法上ノ旨趣ニ外ナラス法文ニハ第一ニ其責ニ任ストアリテ第二ニ
其責ニ任スル者アルカ如キモ茲ニ第一ニ其責ニ任ストアルハ單ニ損害賠償

ノ責アルコトヲ表明シタルニ外ナラス執達吏ハ官吏ナルヲ以テ職務ノ執行
上ニ於テ損害ヲ加フルコトアルモ一般官吏ノ法則ヨリスレハ損害賠償ノ責
任ナキモ特ニ損害賠償ノ責任ヲ負擔セシメタルコトヲ明確ニシタルモノト
ス第五百三十二條ハ法文アルヨリシテ執達吏ハ實施スル強制執行ニ際シ債
務者ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ其損害賠償ノ責アルモノハ常ニ執達吏ナ
リト誤解スル勿レ本條ハ執達吏ノ職務上ノ義務違背ヲ原因トシタルモノナ
リ執達吏ノ職務上ノ義務違背ナク執行力不法ナルニ因リ債務者ニ被ラシメ
タル損害ハ債權者之ヲ賠償スルノ責ニ任スヘキモノトス即チ一般不法行為
ハ原則ニ依リ債務者ハ債權者ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ

第五 執達吏ノ處分ニ對スル不服申立

執達吏カ執行ニ際シテ職務上ノ義務ニ違背シ或ハ債權者ノ委任ヲ拒絶シ委
任セラレタル事項ノ處理ヲ延滞スル場合ニ於テハ其利害關係人ハ抗告ノ方
式ヲ以テ執達吏所屬ノ區裁判所ニ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ此抗告ハ
司法行政監督權ニ屬スルモノニシテ執達吏ノ官吏タル身分ニ對シテ爲ス不

服申立ナリ(四〇條第一)然レトモ執行機關タル執達吏ニ對シ強制執行ノ手續ニ付テ利害關係人カ不服ヲ述フルトキハ執行裁判所ニ對シテ不服ヲ申立ツヘキモノトス(四五條)即チ強制執行ニ際シテ執達吏カ遵守スヘキ手續ニ關シテ不服ヲ主張シ或ハ執達吏カ執行委任ヲ受クルコトヲ拒ミ若クハ委託ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミ執達吏ノ手数料ニ付テ異議アルトキハ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得ルモノトス

第二款 執行裁判所

執達吏ノ職權ニ屬セサル執行ノ實施ハ執行裁判所ノ權限ニ屬ス執行裁判所ハ區裁判所トス執行行為ハ主トシテ有形的ニ或行為ヲ實在セシムルモノナレハ執達吏ニ實施セシムト雖モ其不適當ナルモノハ裁判所ヲシテ實施セシム而シテ法律上特別ノ規定ナキ限ハ執達吏ノ職權ニ屬セサル執行行為ハ執行裁判所之ヲ爲スモノトス
執行裁判所ハ法律ニ別段ハ定メナキトキニ限リ執行ハ手續ヲ爲スヘキ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所タルヲ本則トス(三五條)左ニ管轄權限方式

ニ付テ分説スヘシ

第一 執行裁判所ノ管轄

執行行為ハ事物ノ管轄トシテハ區裁判所ノ管轄ニ屬ス土地ノ管轄トシテハ執行行為ヲ爲スヘキ地及ヒ之ヲ爲シタル地ノ區裁判所ナリ(三四條)故ニ執行行為ヲ數個ノ區裁判所ノ管轄地域ニ於テ爲ストキハ數個ノ執行裁判所ノ存スル場合アリトス而シテ執行裁判所ノ管轄ハ專屬ナリトス(五四條三條)但法律ニ於テ別段ノ規定アル場合即チ債權(五九條)不動產(六四條)船舶(七一條)債權ノ假差押(七五條)等ハ例外トス

第二 執行裁判所ノ權限

執行裁判所ノ執行行為ニ關スル權限ハ執行行為ハ處分執行行為ハ共力及ヒ執行行為ハ監督ノ三種トス
(一) 執行行為ハ處分 執行行為ハ處分トハ法律ニ於テ執行裁判所ノ職務ト爲シタル執行行為ヲ實施スルコトヲ謂フ執行行為ニ付テモ特定ノ事項ニ付テハ私法上ノ權利ノ存否ニ付テ判斷ヲ爲ス必要アルヲ以テ斯ル行為ヲ

執達吏ノ職務ニ屬セシムルハ當ヲ得タルモノニ非ス是ヲ以テ特ニ執行裁判所ヲシテ之ヲ實施セシム執行裁判所ノ執行行為トシテハ債權其他ノ財產權ヲ目的トスル強制執行(第五九四條以下)配當手續(第六二六條以下)不動産船舶ニ對スル強制執行(第七四一條以下)金錢ノ支拂ヲ目的トセサル強制執行中ニテ引渡スヘキ物カ第三者ノ占有ニ屬スルトキノ執行(第七三條)假差押及ヒ假處分ノ一部(第七四條)ノ行為カ執行裁判所ノ執行行為ニ屬スルモノトス

(二) 執行行為ハ共力執行行為ハ共力トハ執達吏カ強制執行ヲ實施スルニ付キ補助ヲ與フルヲ謂フ即チ執達吏自ラヲシテ實行セシメ難キ事項ニ付キ執行裁判所カ之ヲ補助スルコトヲ謂フ即チ執達吏ノ執行ニ際シテ兵力ノ要求(第五三六條)夜間日曜日祝祭日ノ執行許可(第五三九條)官廳ノ援助(第五四五條)軍人軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用ノ廳舎又ハ軍艦ニ於テ執行ヲ爲ス場合ニ軍事裁判所又ハ所屬長官又ハ所屬隊長ニ對スル執行ノ囑託并ニ囑託ニ因リ差押ヘタル物ノ引渡(第五五五條)有價證券ノ記名ナル場合ニ其書替ヲ爲スノ權ヲ執達吏ニ與ヘ若クハ無記名證券ニシテ流通ヲ回復セシムル手段ヲ執達

第三

吏ニ爲サシムルコト(第五八二條)差押ヘタル動産ニ付テ特別競賣許可ノ命令(第五八八條)不動産船舶ノ明渡ニ關シ債務者ノ動産ヲ競賣スル許可ノ命令(第七三條)等是ナリ

(三) 執行行為ハ監督執行行為ハ監督トハ執達吏ハ執行行為ヲ爲スニ付キ執行當事者其他利害關係人ハ申立ニ因リテ其當否ヲ調査スルヲ謂フ即チ強制執行ニ際シテ執達吏ノ遵守スヘキ手續ノ違背執行實施ノ拒絕等ニ付テ利害關係人執行當事者ヨリ不服ノ申立アルトキハ之ヲ調査シ適當ノ處分ヲ爲ス權等ヲ謂フ例ヘハ債權額ニ超過シタル債務者ノ財産ヲ差押ヘ又差押フルコトヲ得サル物品ヲ差押ヘタル場合ニ不服ノ申立アリタルトキ其當否ニ付キ裁判ヲ爲スカ如キ是ナリ(第五四四條)

第三 執行裁判所ハ權限行使ハ方式執行裁判所カ其職務權限ヲ行使スルニハ或ハ裁判若クハ其他ハ行為ヲ以テス其行為ヲ以テスル場合ハ第五百五十五條第五百五十六條等ノ場合ニシテ主トシテ裁判ノ形式ニ依リ執行機關トシテ行動ス裁判ヲ以テスル場合ハ常

ニ執行當事者若クハ利害關係人ノ申立ニ因リテ之ヲ爲スヘキモノトス裁判所カ自ラ進ンテ執行ヲ實施スルモノニ非ス是レ不干涉主義ノ原則ニ起因ス」
 執行裁判所ニ對シテ執行當事者ヨリ執行申立ヲ爲ストキハ之ニ因リテ強制執行法上ノ法律關係ヲ惹起ス執行當事者及ヒ利害關係人ノ申立ハ裁判所カ執行裁判所ナルトキハ書面若クハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ
 裁判ハ常ニ決定ノ形式ヲ以テ爲シ口頭辯論ヲ經テ若クハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク(第五四三項)例外トシテ債務者ヲ審訊シテ之ヲ爲スコトアリ(第六一)執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經タルモノハ之ヲ言渡シ然ラサルモノハ職權ヲ以テ當事者ニ送達スルコトヲ要ス(第二四)執行裁判所ノ裁判ニ對シテ不服申立ヲ爲スハ即時抗告ノ方法ニ依ルモノトス(第五五)然レトモ凡テノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ許スモノト解スヘカラス即チ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニシテ強制執行ノ方法ニ屬セサルモノニ限リ即時抗告ヲ許スモノトス裁判ニシテ強制執行ノ方法ニ屬スルモノニ不服ナルトキハ異議ノ申立ヲ爲スヘキナリ其異議ハ裁判ヲ爲シタル裁判所ニ申立

ツヘク異議申立ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ヘク其裁判ニ對シテ即時抗告ヲ許ス(第五四)

第三款 受訴裁判所

受訴裁判所トハ訴訟ノ繫屬シタル裁判所ヲ謂フ判決機關ト執行機關トハ判決手續ト執行手續トヲ異ニスルヲ以テ其機關ヲ異ニスルヲ原則トスト雖モ便宜上例外トシテ受訴裁判所ヲ以テ執行機關ト爲ス即チ執行ニ關シテ或判斷ヲ必要トシ其判斷ヲ爲スニ付テハ訴訟事件ノ繫屬シタル裁判所カ之ヲ爲スヲ以テ實際ニ適シ且便宜トスル場合ニ於テ受訴裁判所ヲ以テ執行機關トセリ
 受訴裁判所カ執行機關トシテ行動スルハ第一審裁判所ト第二審裁判所ニ限ルモノトス上告裁判所ハ受訴裁判所タル場合ト雖モ執行裁判所ト爲ルコトナシ
 受訴裁判所カ執行機關ト爲ル場合ハ左ハ如シ

第一 民法第四百十四條第二項第三項ノ場合ニ於テ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ民法ノ規定ニ從テ決定ヲ爲シ(第七三)債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ債務者カ履行ヲ爲サ、ルトキニ於テハ第一審ノ受訴裁

判所カ債權者ノ申立ニ因リテ債務者ニ損害賠償ヲ命スル決定ヲ爲ス(四條七三)
右執行ニ付テハ債權者ノ申立ヲ必要トシ且決定前ニ債務者ヲ書面又ハ口頭
ヲ以テ審訊スルコトヲ要ス(五條七三)

第二 受訴裁判所カ假差押命令假處分命令ヲ發シタルトキハ第一審タルト第
二審タルトヲ問ハス執行裁判所タルコトアリトス(七三九條、七五〇條、第
二項、第七五八條、第七六二條)

第三 外國ニ於テ強制執行ヲ爲ス可キ場合ニ於テ其外國官廳カ日本ノ裁判所
ニ法律上ノ共助ヲ爲スヘキトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所
ハ之ヲ外國官廳ニ囑託スヘク又外國駐在ノ日本ノ領事ニ依リ強制執行ヲ爲
シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ亦債權者ノ申立ニ因リ其領事ニ執行
ノ囑託ヲ爲スヘキモノトス(七五五條)

以上受訴裁判所ノ第一、第二ノ職權ハ執行行爲ニシテ第三ノ職權ハ執行行爲ノ
共力ナリトス和解調書カ債務名義タルトキハ和解ノ成立シタル裁判所前示第
一乃至第三ノ執行行爲ニ付キ執行機關タルヘク公證人ノ作成シタル公正證書

カ債務名義ニシテ第三ノ囑託ヲ必要トスルトキハ公證人之ヲ爲スヘキモノト
ス(五六條)

第二節 執行當事者

第一 執行當事者ノ意義

強制執行ハ當事者トハ債權者及ヒ債務者ヲ謂フ形式上ヨリスレハ債權者ト
ハ債務名義ニ基キ執行機關ニ對シテ強制執行手續ヲ要求スル者ヲ謂ヒ債務
者トハ債權者カ執行機關ヨリ強制執行ヲ受クル地位ニアルコトヲ主張スル
者ヲ謂フ實體上ヨリスレハ債權者トハ債務名義ニ因リ給付請求權ノ存在ヲ
承認セラレタル者ヲ謂ヒ債務者トハ債務名義ニ給付義務アルコトヲ承認セ
ラレタル者ヲ謂フ債務者ハ必スシモ判決手續ニ於ケル原告ニ非ス被告ト雖
モ債權者タルコトアリ又判決以外ノ債務名義ニ基キ強制執行ヲ爲スコトア
ルヘキヲ以テ原告若クハ被告カ必スシモ債權者若クハ債務者ト爲ルモノニ
非ス又債權者債務者トハ民法上ニ於ケル債權者又ハ債務者ト同一意義ニ非

サルコトヲ注意スヘシ即チ債権者若クハ債務者トハ執行權利者若クハ執行義務者ノ意義ナリ
執行權利者及ヒ執行義務者ハ何人ナルヤハ債務名義若クハ執行文ニ因テ定マル執行權利者及ヒ執行義務者ハ常ニ債務名義若クハ執行文ニ表示スルヲ必要トスルヲ以テ債権者及ヒ債務者ハ常ニ其表示ノミニ因テ確定セラルヘキモノトス

執行當事者タル能力執行行為ノ能力法律上ノ代理訴訟代理ハ總テ民事訴訟法一般ノ原則ニ依ル

第二 執行當事者ノ變動

強制執行手續ノ開始後執行當事者死亡シ若クハ其法律上ノ地位變動シタルトキハ執行當事者ノ變動ヲ來ス強制執行ハ執行文ヲ付與セラレタル債権者ノ爲メニ之ニ表示サレタル債務者ニ對シテ執行スルヲ原則トス(第五二條)故ニ債務名義若クハ執行文ニ表示セラレタル當事者ノ一方若クハ雙方カ死亡シ又ハ法律上ノ地位ニ變更ヲ生シタルトキハ其債務名義ニ基キ執行ヲ續行セ

ントスルニハ更ニ變更シタル當事者ヲ表示セル執行文ヲ必要トスルモノト
言ハサルヘカラス然レトモ法律ハ便宜上強制執行手續ノ開始後ニ債務者カ
死亡シ又ハ法律上ノ地位ヲ變更シタルトキハ尙ホ執行ヲ續行スルコトヲ許
ス即チ左ノ如シ

(一) 債務者ノ死亡 債務者カ執行手續ノ開始後ニ死亡シタルトキハ已ニ其
相續人ノ定マリタルト否トヲ問ハス更ニ相續人ニ對スル執行文ヲ必要ト
セス又相續人ニ對シテ債務名義ヲ送達スルコトヲ要セス相續財産ニ對シ
テ執行ノ續行ヲ許ス(第五五條第一項)其執行ニ關シテ債務者ノ知ルコトヲ要スル
執行行為ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ相續人カ未確定ナルカ又ハ相續人アル
コトカ分明ナラサルトキ又ハ相續人カ不在者ニシテ已ニ選任シタル財産
管理人ナキトキハ債権者ノ申立ニ因リテ執行裁判所ハ遺産又ハ相續人ノ
爲メニ特別代理人ヲ選任スヘキモノトス(第五五條第二項)債務者ノ知ルコトヲ要
スル行為トハ動産ニ關スル執行ニ付テノ差押ノ通知(第五六條第六項)配當要求ニ
關スル通知(第五九條第一項)債權差押ニ付テノ通知(第五九條第二項)債權換價ニ付テノ通

知^(三第六)等はナリ

(二) 法律上ハ地位ハ變更、債權者カ強制執行ヲ開始シタル後債務者カ戸主タル地位ヲ辭シ又ハ之ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其變更ノ當時債務者ノ有シタル財産ニ付テ強制執行ヲ續行ス民法第九百六十四條第九百九十二條ニ因リ相續開始スルトキハ相續人カ單純承認ヲ爲スト限定承認ヲ爲ストヲ問ハス被相續人ノ權利義務ハ相續人ニ移轉スト雖モ便宜上相續財産ニ對シテ執行ヲ續行スルコトヲ許ス^(三五)民法ノ規定ニ因レハ隱居及ヒ入夫婚姻ニ因リ相續開始セハ前戸主ノ債權者ハ其前戸主ニ對シテモ亦請求スルコトヲ得ヘク又戸主ハ自己ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ相續人ニ相續セシメスシテ留保ヲ爲スコトヲ許スヲ以テ^(民法第九八八條)留保財産ニ對シテモ執行ヲ續行スルコトヲ得ヘシ

(三) 法人ニ對スル強制執行ハ法人ハ財産ニ對シテハミ實施スルヲ得ヘシ無限責任社員ノ財産ト雖モ之ニ對シテ實施スルヲ得ス如何トナレハ法人ト社員トハ其人格ヲ異ニスレハナリ而シテ法人カ清算中ト雖モ其財産ニ對

シ執行ヲ開始又ハ續行スルコトヲ妨ケス

(四) 破産者タル債務者ニ對シテハ強制執行ヲ開始スルコトヲ得ス又執行手續進行中ニ債務者カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ其手續ヲ續行スルヲ得サルモノトス^(破第九八七條)

右ニ述フル所ハ債務者ニ關スル事項ナリ然レトモ債權者死亡シ若クハ其他ノ原因ニ因リ債權者ニ承繼アリタルトキハ其承繼人カ強制執行ヲ實施セントスルニハ執行ノ開始前ニ於テハ一般ノ原則ニ從テ執行文ノ付與ヲ必要トシ執行開始後ニ於テモ更ニ執行文ノ付與ヲ得タル後ニ非サレハ執行ヲ續行スルコトヲ得サルモノトス如何トナレハ強制執行ハ執行力アル正本若クハ執行文ニ表示セラレタル債權者ノ爲メニノミ實施スルコトヲ得ルモノナレハナリ

第五章 強制執行ノ條件

強制執行ハ國家ノ權力ヲ以テ債務者ノ意思ニ關セス債權者ニ對シテ權利實行

ノ效果ヲ得セシムルモノナリ國家機關カ一人ノ權利ヲ保護スルカ爲メニ他人ノ權利ノ範圍ニ干涉スルモノナレハ其干涉ヲ爲スニ當リテハ力メテ不法ノ生セサルコトヲ期セサル可カラス是ヲ以テ民事訴訟法ハ強制執行ニ關スル條件ヲ定ムル必要アリ如何ナル事實ノ存在ニ因リテ各個人ハ執行ニ依ル私權保護ヲ求ムルコトヲ得ヘキヤ又如何ナル事實ノ存在ニ因リテ執行手續ヲ開始スルコトヲ得ヘキヤノ條件ヲ定メサルヘカラス

強制執行ノ條件ニハ實體的條件ト形式的條件トアリ實體的條件ハ債務名義ニシテ形式的條件ハ執行力アル正本及ヒ執行開始ノ條件ナリ以下節ヲ分チテ説明スヘシ

第一節 債務名義

第一款 債務名義ノ意義

債務名義トハ強制執行ヲ爲スニ適シタル債務者ハ債務ハ存在ヲ確定シタル公正證書ヲ謂フ債務名義ハ公正證書其モノニシテ公正證書ニ表示セララル權利

ニ非ス蓋シ強制執行ハ債務者ノ意思ニ關セス債權者ニ權利實行ノ效果ヲ得セシムルモノナレハ債權者カ債務者ニ對シテ有スル權利ノ確實ナルコトヲ期スルカ爲メ債權者ノ權利ノ範圍即チ債務者カ債務ヲ負擔スルコト及ヒ債務ノ種類範圍竝ニ履行ノ時期ヲ確定セサル可ラス其權利ノ確定ハ或ハ司法機關ノ裁判ニ因テ確定スルコトアルヘク或ハ司法機關ノ指揮ニ因テ當事者自ラ之ヲ確定スルヲ得ヘシ而シテ其確定セル權利ヲ何人ニ對シテモ又何時ニテモ明カニ認識シ得ヘキ方法ハ之ヲ書面ニ記載スルヲ以テ最適當トス是ヲ以テ強制執行ニハ債權者ノ權利即チ債務者ノ債務ヲ確定シタル證書ノ存在ヲ必要條件トセリ其公正證書ヲ必要トシ私署證書ヲ債務名義トスルヲ得サル所以ハ公正證書ハ官吏若クハ公吏カ權限内ニ於テ作成シタルモノニシテ公ノ信憑力アルモ私署證書ハ然ラサルヲ以テナリ殊ニ執行手續ニ於テ執行機關カ判決手續ニ於ケルカ如ク私權ノ存否ヲ調査スルハ全ク不必要ナルノミナラス執行手續ハ迅速ニ實施スルノ妨害ト爲ルヲ以テ執行機關ノ審査權ハ單ニ形式上ノ條件ノミニ制限シ私權ノ存在ヲ明確ニ認識シ得ヘキ公正證書ヲ債務名義トシ執行ノ實體

上ノ條件トセル所以トス而シテ公正證書カ債務名義タルニハ其内容タル債權者ノ權利カ強制執行ヲ爲スニ適シタルモノナラサル可ラス強制執行ヲ爲スニ適ストハ債務者ノ債務カ給付ヲ目的トスル場合ナルコト是ナリトス現行法ニ於テ債務名義ハ左ノ如ク區別スルコトヲ得ヘシ

第一 裁判所ノ裁判

裁判所ノ裁判ニハ判決ト決定トアリ即チ通常訴訟手續爲替訴訟證書訴訟人事訴訟ニ於テ爲ス判決及ヒ假差押若クハ假處分手續ニ於テ爲ス判決並ニ執行判決(第五條)督促手續ニ於テ爲ス執行命令假差押假處分手續ニ於テ爲ス決定抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定ハ債務名義タリ(第五條)刑事附帶ノ私訴判決モ亦債務名義ナリトス(刑三三條)

第二 當事者ノ行爲ニ因リ債務名義タルモノハ公證人カ其權限内ニ於テ金錢代替物若クハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ作リタル證書受訴裁判所ニ於テ訴ノ提起後爲シタル和解調書及ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解調書(第五條)是ナリ破産手續ニ於テ確定シタル債權モ亦債務名義タルヲ得ヘシ

第二款 判決

判決トハ必要の口頭辯論ニ基キ裁判所ハ爲シタル裁判ヲ謂フ判決ニハ其方式ニ因リ區別スルトキハ終局判決ト中間判決トアリ終局判決トハ訴訟事件ヲ其審級ニ於テ終了スル判決ニシテ中間判決ハ終局判決ヲ爲ス準備トシテ訴訟進行中ニ爲ス判決ヲ謂フ終局判決ニシテ訴訟事件全部ヲ完結スルモノヲ全部判決一部ヲ完結スルモノヲ一部判決トス又判決ヲ其内容ニ因テ區別スルトキハ訴訟判決及ヒ本案判決ノ區別アリ訴訟判決トハ訴訟條件其他訴訟法上ノ事項ニ付キ爲シタル判決ニシテ本案判決トハ訴ヲ以テ主張シタル私法上ノ法律關係ニ付キ爲シタル判決ヲ謂フ又中間判決ニハ上訴及ヒ強制執行ニ關シテ終局判決ト看做スモノアリ上訴ニ關シテ終局判決ト看做スヘキモノハ妨訴抗辯棄却ノ判決請求ノ原因ヲ正當トスル判決控訴審ニ於テ防禦方法ノ行使ヲ留保スル判決證書訴訟ニ於テ權利行使ヲ留保スル判決ニシテ證書訴訟及ヒ控訴審ニ於テ爲ス留保判決ハ強制執行ニ關シ終局判決ト看做サルモノトス

判決ハ前述ノ如ク種々アリト雖モ債務名義タル判決ハ二ノ條件ヲ必要トス即チ給付判決ナルコト及ヒ確定ノ終局判決若クハ假執行ノ宣言ヲ付シタル終局判決ナルコトヲ要ス(第四九條)左ニ之ヲ分説スヘシ

第一 給付判決ナルコトヲ要ス

給付判決トハ債務者ニ行爲若クハ不行爲又ハ耐忍ハ履行ヲ命令スル判決ヲ謂フ訴ニハ給付ノ訴確定ノ訴及ヒ創設ノ訴ノ三種アルニ從ヒ判決ニモ給付ノ判決確定ノ判決及ヒ創設ノ判決ノ三種アリトス

確定ノ判決ハ法律關係ノ成立若クハ不成立ヲ確定スル判決ニシテ當事者ニ對シテ行爲若クハ不行爲又ハ耐忍ヲ命スルモノニ非ス即チ判決ノ確定ニ因リ當事者間ノ權利狀態ヲ確定スルニ止マルモノナレハ判決ノ内容ヲ實在セシムルニ付キ執行機關ノ共力ヲ必要トセス

創設判決ハ當事者間ノ權利變更ヲ宣言スル判決ニシテ其判決ノ確定ニ因リ當事者間ノ法律關係ノ變動ヲ惹起シ判決ノ内容ヲ實在セシムルニ付キ亦執行機關ノ共力ヲ必要トセサルヲ原則トス

給付判決即チ債務者ニ對シテ行爲若クハ不行爲又ハ耐忍ヲ命シタル判決ニ當事者カ服從セサルトキハ執行機關ハ權力ヲ以テ權利者ヲ保護スル爲メ判決ノ内容ヲ實在セシメ權利者ニ對シテ權利實行ノ效果ヲ得セシムル必要アリ故ニ債務名義タル判決ハ給付判決ナルコトヲ原則トス然レトモ給付判決ト雖モ法律ニ強制執行ノ方法ノ規定ナキ給付ヲ命シタルモノハナルトキハ之ヲ執行スルニ由ナキヲ以テ債務名義タル能ハス幼者ノ引渡夫婦ノ同居ヲ命シタル判決ノ如キ是ナリ斯ル判決ノ執行方法ニ付テハ現行法ニ其規定ナキヲ以テ執行機關ハ執行ヲ實施スルニ由ナク又債務者ニ意思表示ヲ爲スヘキコトヲ命シタル判決ハ其判決ノ確定ニ因リテ意思表示ノ效力ヲ生スヘク(第七三六條)執行機關カ執行行爲ヲ實施スルノ餘地ナキヲ以テ亦債務名義タルヲ得ス故ニ債務名義タル給付判決ハ執行行爲ノ規定アル給付ヲ命シタルモノニ限ルモノトス

給付ノ訴ニ基ク判決ト雖モ訴訟物タル請求ヲ排斥シタル判決ハ給付判決ニ非ナルヲ以テ債務名義ニ非ス而シテ總テハ判決ニ於テ訴訟費用ハ裁判ハ敗

一〇〇六
訴者ニ給付ヲ命シタル判決ナリト雖モ訴訟費用ノ執行ヲ爲サントスルニハ
第八十四條ニ從ヒ訴訟費用額確定決定ヲ必要トシ該決定ハ第五百十九條
第一號ニ規定セル獨立ノ債務名義タルヲ以テ判決ニ於テ訴訟費用ノ負擔ヲ
命シタル事項ハ債務名義ニ非ス判決ニ基キ費用ノ辨濟ヲ命シタル費用額確
定決定カ債務名義ナリトス或ハ說ヲ爲ス者アリ曰ク訴訟費用額確定決定ハ
訴訟費用ノ數額ヲ定ムルモノナリ何人カ訴訟費用ヲ負擔スヘキヤハ判決ニ
因リテ定マルモノナレハ訴訟費用ノ負擔者ヲ定メタル判決ハ債務名義ナリ
ト然レトモ訴訟費用ノ辨償請求權ハ費用額確定決定ヲ俟テ初メテ定マルモ
ノナリ判決ハ訴訟費用ノ全部若クハ一部ヲ何人カ負擔スヘキヤヲ明カニシ
タルニ止マリ其負擔スヘキ數額確定セス即チ債務者ノ履行スヘキ給付ハ確
定セサルヲ以テ判決ノ右部分ハ債務名義ノ要件ヲ具備セサルモノトス
判決ニ基キ強制執行ヲ爲スニハ判決主文ヲ唯一ノ標準トシ判決主文ニ因リ
執行ニ適シタル給付判決ナルヤ否ヤヲ決セサルヘカラス故ニ判決主文ト判
決理由ニ齟齬アルトキト雖モ執行ニ關シテハ判決理由ヲ斟酌スルコトヲ許

ナス唯判決主文ノ意義不明瞭ナルトキハ判決理由ニ依リ之ヲ解釋スヘキナ
リ又判決主文其他判決ノ成立部分ニ誤謬アル場合ニハ判決ヲ受ケタル當事
者ハ受訴裁判所ニ對シテ判決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ルモ執行機關ニ於テ
其誤謬ヲ發見シタルトキハ正當ノ意義ニ基キ執行ヲ爲スヲ妨ケス
第二 確定ハ終局判決又ハ假執行ノ宣言アリタル終局判決ナルコトヲ要ス(第
九七條)

(甲) 判決ハ確定

裁判所カ各個人ノ私權ニ付キ爲シタル判斷ヲ永久不確定ノ狀態ニ置キ不
服ナル者ニ反對ノ主張ヲ爲スヲ許ストキハ私權保護ノ目的ヲ達スル能ハ
ス是ヲ以テ各個人ヲシテ權利伸張ヲ得セシムル爲メ裁判所ノ審級ヲ設ケ
下級審ノ判決ニ不服アル者ハ上級審ニ不服ノ申立ヲ許スト雖モ其不服ノ
主張ハ一定ノ時期ヲ限リ永久不服ノ主張ヲ許サス即チ裁判所ノ判斷力事
實ノ真相ト一致スルト否トヲ問ハス一定ノ期間經過後ハ各個人ニ對シテ
裁判所ノ判斷ニ對スル不服ノ申立ヲ禁止シ且判斷ノ内容ニ當事者カ羈束

セラルヘキ效力ヲ生セシムル必要アリ是レ判決ノ確定力ナル制度ヲ認メタル立法上ノ理由ニシテ即チ一定ノ期間經過ニ因リ各個人ハ裁判所ハ判決シタル事項ニ反對ハ主張ヲ許ササルモハトセリ其效力ヲ判決ハ確定力ト謂フ判決ノ確定力ハ形式的確定力ト實體的確定力ノ二トスルコトヲ得形式的確定力トハ判決カ故障若クハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルヲ得サルコトヲ謂ヒ實體的確定力トハ判決ノ内容カ當事者ヲ拘束スル效力ヲ謂フ形式的確定力ハ凡テノ終局判決ニ對シテ發生スルモ實體的確定力ハ實體上ノ權利ニ付テ判斷シタル判決ニ非サレハ發生セサルモノトス判決ノ實體的確定力ヲ認メタル根據ハ判決セラレタル事項カ私法上ノ法律關係ト相一致ストノ推定ニ基クニアラスシテ國家ノ威力アル宣言トシテ當事者ヲ拘束スルモノトス

(一) 判決ハ確定力發生ノ時期 判決ハ故障若クハ上訴ハ申立ニ付キ定メタル期間ノ滿了ニ因テ確定ス(第四九八條第一項)故ニ對審判決ハ上訴カ當事者ノ一方若クハ雙方ニ許サル期間ハ確定セス上訴ヲ許ス判決ハ上訴期間内

上訴ヲ提起セスシテ之ヲ經過シタルニ因テ確定シ上訴ヲ許ササル判決即チ上告裁判所ノ判決ハ言渡ニ因リテ確定ス關席判決ハ故障ヲ許スモノナルトキハ故障期間ノ滿了ニ因リ又故障ヲ許サス上訴ヲ許スモノナルトキハ上訴期間ノ滿了ニ因テ確定ス

判決ハ確定ハ故障若クハ上訴ヲ法定ノ期間内ニ提起セラレタルトキハ之カ爲メニ遮斷セラレ(第四九八條第二項)上訴ノ提起ハ之ヲ申立テタル判決全部ハ確定ヲ妨クル結果ヲ生ス假令判決ノ一部ニ對シテ不服ニシテ上訴ヲ提起シ變更ヲ申立ツル場合ト雖モ不服ヲ申立テサル部分ニ付テモ確定ヲ妨ケラル如何トナレハ不服申立ノ範圍ハ上訴審ニ於ケル審理ノ終局ニ至ルマテ擴張スルヲ得ルモノナレハナリ又判決ハ故障若クハ上訴ヲ提起シタル後ト雖モ之ヲ取下ケタルトキハ確定ス如何トナレハ故障若クハ上訴ノ取下ハ故障ヲ爲スノ權及ヒ上訴權ヲ喪失スルモノナレハナリ第二百七條第二百二十八條ハ上訴ニ關シテ終局判決ト看做スヘキ判決ヲ爲シタルトキハ其中間判決ハ確定ニ至ルマテ其後ニ爲シタル本案

ハ終局判決ハ實體的確定力ヲ生スルモノハニアラズ如何トナレハ此等ノ中間判決ハ本案判決ト相俟テ一個ノ判決ヲ構成スルモノニシテ中間判決カ上訴ノ結果變更セラルルトキハ本案ノ終局判決ハ其效力ヲ消滅スヘク即チ後ノ終局判決ハ前ノ中間判決ノ確定ヲ條件トシテ存在スルモノナレハナリ第五十條ニ規定セル共同訴訟人ノ一人カ判決ニ對シテ上訴又ハ故障ヲ提起シタルトキハ各共同訴訟人ニ對シテ上訴若クハ故障ヲ申立テタルト同一ノ效力ヲ生スルヲ以テ一人ノ故障上訴ノ爲メ各共同訴訟人ニ對シテ確定力ヲ生セス

(二) 判決確定ノ證明 強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決正本ニ基キ爲スヘキモノナリ(第五一六條)判決正本ニ執行文ヲ付シタルモノヲ執行力アル正本ト謂フ執行力アル正本ハ裁判所書記訴訟記録ニ基キ調査シタル上付與スヘキモノナレハ強制執行ニ關シテハ判決ノ確定ヲ證明スル手續ノ必要ナシト雖モ訴訟當事者カ判決ヲ經タル私權ニ付テ後日ノ争ヲ避クルカ爲メ判決ノ確定セル事實ヲ證明スル材料ヲ保存スル必要アリ又判

決ノ内容カ法律關係ノ成立ヲ承認スヘキコト若クハ被告カ其他ノ意思ヲ表示スヘキコトヲ命セラレタルモノナルトキハ第七百三十六條ノ規定ニ依據シ判決確定ノミニ因リ承認若クハ意思表示ノ效力ヲ生スヘキヲ以テ斯ル場合ニ判決ノ確定ヲ明カニスル必要アリ是ヲ以テ判決ノ確定ヲ證明スル手續ヲ規定シタル所以トス然レトモ該手續ヲ強制執行編ニ規定セルハ立法上其當ヲ得タルモノニアラス

(イ) 判決確定證明手續 判決確定ノ證明書ハ當事者ノ申請ニ因リテ裁判所書記之ヲ付與スルモノトス(第九四九條)其方式ハ左ノ如シ

(1) 判決確定ノ證明書ハ判決ヲ受ケタル當事者ニ限リ之ヲ求ムルコトヲ得故ニ原告若クハ被告又ハ其承繼人其他從參加人ニ限リ求ムルヲ得ヘク訴訟ニ關係セサル者ハ之ヲ求ムルヲ得ス證明書ヲ求ムルニハ第一審裁判所書記ニ對シ申請スルヲ原則トス如何トナレハ訴訟記録ハ常ニ第一審裁判所書記ニ於テ保存スヘク隨テ判決確定ノ事實ヲ調査スヘキ訴訟書類ハ常ニ第一審裁判所書記ノ保管ニ屬

(2) 訴訟カ上級審ニ繫屬スルトキハ訴訟當事者ハ上級裁判所ノ書記ニ申請スヘク上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ニ付テ證明書ヲ付與スヘキモノトス訴訟カ上級審ニ繫屬スルトキハ訴訟記録ハ常ニ其審級ニ存スルヲ以テ第一審裁判所ノ書記ハ判決確定ノ如何ヲ審査スルヲ得サレハナリ訴訟ノ繫屬トハ本來ノ意義ヨリスレハ上訴ノ提起ヨリ上訴判決ノ確定ニ至ルマテヲ謂フト雖モ第四百九十九條第二項ニ繫屬中トアルハ裁判所ノ職權ヨリ觀察スヘキニアラス裁判所書記ノ職務ヨリ觀察シテ解釋スヘキモノニシテ判決確定ノ證明書ヲ付與スルニ必要ナル訴訟記録カ上級審ニ存在スル間ヲ稱シテ繫屬ト謂フ上訴ノ提起アルトキハ上訴裁判所ノ書記ハ第一審裁判所ノ書記ニ對シ訴訟記録ノ送付ヲ請求シ第一審裁判所ノ書記ハ之ヲ上級審ニ送付シ上級審ノ判決言渡アルトキハ判決ノ謄本ト共ニ第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ヲ返還スヘキモ

ノトス(第四三一條、第四四條、第四五條、第四六條)其記録カ上級審ニ存スル間ヲ繫屬ト稱スルナリ第四百九十九條第二項ニ判決ハ確定ト爲リタル部分ト言フハ一分判決ニ對スル規定ナリ一分判決ハ獨立シタル終局判決ナルヲ以テ特ニ上訴ノ提起アルニ非サレハ一分判決ヲ以テ裁判セラレタル事項ハ上級審ニ移審ノ效力ヲ生セサルモノトス全部判決ニ對シテ上訴ヲ提起シタル場合ハ不服申立ノ範圍カ判決ノ全部ナルト一部ナルトヲ問ハス判決ハ全部確定セサルモノトス隨テ判決ノ確定ト爲リタル部分トハ一分判決ヲ爲シタル場合ニノミ適用セララルモノト解釋セサル可カラス

(3) 上訴ヲ爲シ得ヘキ判決ハ其判決ノ言渡後訴訟記録ノ第一審裁判所ニ存スルモ或ハ上訴ノ提起アリタルコトアリ如何トナレハ控訴若クハ上告ハ控訴裁判所若クハ上告裁判所ニ直チニ控訴狀若クハ上告狀ヲ差出スヘキモノナレハ判決ノ送達及ヒ上訴期間經過ノ事實ノミニ因テ下級裁判所書記ハ判決ノ確定ヲ認ムルヲ得サレハナ

リ故ニ判決確定證明ノ申請アルモ第一審裁判所書記ハ訴訟記録ノ調査ノミニ因リ證明書ヲ付與スルヲ得サルヲ以テ上訴提起ナキコトノ證明書ヲ以テ判決確定ノ證明書ニ代ユル規定ヲ設ク即チ訴訟記録ヲ保存セル裁判所書記カ判決ニ對シテ上訴ハ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記ハ申請ニ因テ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ付與スヘク其證明書ハ前(1)(2)ニ述ヘタル判決確定ハ證明書ト同一ハ效力ヲ有スルモノトス(第九九條第四項例ハ上訴ノ提起アルトキハ第一審裁判所ノ書記ニ對シテ上訴裁判所ノ書記ヨリ訴訟記録ノ送付ヲ求ムヘキモノナレトモ(第四三條第四項)其書類ノ往復等ニ日數ヲ要シ或ハ上級裁判所ノ書記ノ過失懈怠ニ因テ訴訟記録ノ送付ヲ求ムルコトヲ怠リタル場合若クハ第一審裁判所書記ノ過失ニ因リ訴訟記録ヲ上級審ニ送付スルコトヲ怠リタル場合等アルヲ以テ記録ノ下級裁判所ニ存スルノミニ因テ判決確定シタ

ルモノト認ムル能ハス故ニ上級裁判所ノ書記カ上訴期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ證明スル手續ヲ設ケ判決確定ノ證明書ニ代ユル規定ヲ設ケタル所以トス

(口)

判決確定ノ證明ハ訴訟當事者從參加人其他第三者ノ申請ニ因リテ付與ス申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ裁判所書記ニ爲スヘク裁判所書記カ證明書ヲ付與スルニ付テハ裁判所書記獨立ノ職務トシテ判決ハ確定ト爲リタルヤ否ヤヲ調査スヘキモノナリ裁判所ハ其調査ニ干與スルヲ得ス裁判所書記ハ當事者カ何故ニ證明書ヲ必要トスルヤノ理由ヲ調査スルコトヲ得ス證明書ヲ求ムル申請アルトキハ次ノ事項ヲ調査スルノ權ヲ有スルニ止マル

(1) 判決カ形式的確定力ヲ生スヘキ判決ナルヤ否ヤヲ調査セサル可カラズ若シ獨立シテ形式的確定力ヲ生セサル中間判決ノ如キモノナルトキハ證明書ヲ付與スルコトヲ得ス

(2) 判決カ確定セリヤ否ヤヲ調査セサル可カラズ若シ判決カ故障若

クハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノナルトキハ判決ハ言渡ヲ以テ確定スルモノナレハ證明書ヲ付與スヘク若シ上訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル判決ナルトキハ期間内ニ故障又ハ上訴ノ申立アリタルヤ否ヤヲ調査シ其申立ナキコト明カナルトキハ證明書ヲ付與スヘシ故障若クハ上訴ノ拋棄又ハ取下ニ因リ確定シタルトキ亦同シ故障又ハ上訴ヲ爲シ得ル判決ニ對シ明カニ不適法ナル故障又ハ上訴ノ提起アリタルトキト雖モ裁判所書記ハ確定證明ヲ爲スヲ得ス如何トナレハ故障若クハ上訴ノ適否ハ裁判所ノ審査スヘキ事項ニ屬シ裁判所書記ノ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニアラサレハナリ

右ノ條件ヲ備ヘタルトキハ裁判所書記ハ證明書ヲ付與セサル可カラス證明書付與ノ申請ニ對シテ裁判所書記之ヲ拒ミタルトキハ申請シタル當事者ハ其處分ノ變更ヲ記録ノ存スル裁判所ニ對シテ求ムルコトヲ得ヘク其裁判所ハ裁判所書記ノ處分ノ當否ニ付テ決定ノ形式ヲ

以テ裁判ヲ爲シ其裁判ニ對シテ申請者カ不服ナルトキハ抗告ノ方式ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得又申請ニ因テ裁判所書記カ證明書ヲ付與シタルトキ申請人ノ相手方カ證明書付與ニ對シ不服ナルトキハ裁判所書記ノ證明書付與ノ處分ノ變更ヲ求ムル爲メ裁判所ノ裁判ヲ求ムルヲ得ヘク其裁判ニ對シ不服ナルトキハ亦抗告ヲ爲スヲ得ヘシ(第四六條)茲ニ述フル裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ハ即時抗告ニ非ス或說ニハ確定證明ハ強制執行ニ關スル事項ナリトシ裁判所ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヘキモノナリトノ說アリト雖モ前述セル如ク判決確定證明ハ執行ト關係ナキモノナレハ裁判所ノ裁判ニ對スル抗告ハ普通抗告ニシテ即時抗告ニアラストス

以上述ヘタル判決ノ確定證明ニ關スル規定ハ一定ノ期間經過ニ因テ形式的確定力ヲ生スル決定若クハ命令ニ對シテ準用セラルルコトハ特別ノ規定ナシト雖モ學說上一致スル處ナリ

(三) 強制執行ハ其手續ヲ開始スルトキハ之ヲ停止セサルハ原則トス然レ

トモ、其判決ニ對シ原狀回復ハ申立(第一七條)若クハ再審ハ訴ハ提起アルト
キハ申立人若クハ原告ハ申請ニ因リ裁判所ハ左ノ命令ヲ爲スコトヲ得
ヘシ

一〇一八

(イ) 申立人又ハ原告ニ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメスシテ強制
執行ノ一時停止ヲ命スルコト

(ロ) 被申立人又ハ被告ニ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ許スコト

(ハ) 申立人又ハ原告ニ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制執行處分ヲ取
消スヘキコト

右ノ命令ヲ求ムル申請ハ(イ)(ロ)ノモノハ強制執行ノ開始前ト雖モ之ヲ爲
スコトヲ得ヘクハ(ハ)ノ場合ハ執行開始後ニ限ルハ當然ナリ(第五〇條)其他後
述スル假執行宣言ノ效力ニ關スル説明ヲ看ルヘシ

(乙)

(一) 假執行宣言ハ意義 假執行宣言トハ未確定ハ判決ハ強制執行ヲ許ス
裁判上ハ宣言ナリ此制度ヲ認メタルハ便宜ニ基クモノナリ債權者ハ勝

訴ノ判決ヲ得タルトキハ迅速ニ權利實行ノ效果ヲ發生セシムルコトヲ
望ムヘク隨テ當事者ノ主張スル權利ニ付キ疑ナキモノ若クハ迅速執行
ヲ必要トスルモノニ付テハ裁判ノ確定ヲ俟タズ判決ノ内容ヲ實行スル
ヲ得セシメ若シ債權者カ不當執行ヲ爲シタル爲メ債務者ニ損害ヲ被ラ
シメタルトキハ之カ賠償ヲ爲スノ責ヲ負ハシメテ執行ヲ許スハ債權者
ノ利益ニシテ敢テ弊害ナケレハナリ然レトモ假執行ノ爲メ債務者ニ回
復スヘカラサル損害ヲ被ラシムルトキノ如キハ判決確定前ニ執行ヲ許
スコトハ不適當ナルヲ以テ假執行ヲ禁止スル規定ヲ設ケサルヘカラス
假執行宣言ノ意義ヲ分説スレハ左ノ如シ

(イ) 假執行ハ宣言ハ裁判上ハ宣言ナリ 裁判所ノ爲ス宣言ニシテ原則
トシテハ判決ヲ爲シタル裁判所之ヲ爲シ例外ノ場合ニ於テ上級裁判
所カ下級裁判所ノ裁判ニ對シテ假執行ノ宣言ヲ爲スコトアリトス(第五〇條)

五〇九條(第
一一條)

(ロ) 未確定ハ判決ニ對スル宣言ナリ 確定判決ハ直チニ強制執行ヲ爲

シ得ヘキヲ以テ特ニ假執行ノ宣言ヲ必要トセス假執行ノ制度ハ判決確定前ニ於テ假ニ判決ノ内容ヲ實在セシムルノ必要ニ基クモノナレハ未確定ノ判決ニ付テノミ爲スコトヲ得ヘキ宣言ナリトス

(ハ) 判決ニ對シテハミ付スルモノナリ、假執行ノ宣言ハ強制執行ヲ許ス命令ナレハ強制執行ヲ爲スニ適シタル給付判決ニ對シテノミ之ヲ付スルコトヲ得ヘシ又給付判決ト雖モ法律上言渡ト同時ニ執行シ得ヘキ性質ヲ有スルモノハ假執行宣言ヲ爲スノ必要ナシ假差押假處分ノ裁判(第七四條)假執行ノ補充判決(第八四條)ハ言渡ニ因テ當然執行シ得ヘキモノナレハ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキモノニアラス又決定命令ハ假執行ノ宣言ヲ爲スヲ得ス如何トナレハ決定命令ハ之ヲ爲スト同時ニ執行シ得ヘキ性質ヲ有シ例外ノ場合ニ限リテ執行停止ノ效力ヲ有スルモノナレハナリ(第四六條)

右ハ意義ヲ有スル假執行宣言ハ訴訟當事者ハ申立ニ因リ又ハ裁判所ハ職權ヲ以テ爲スヘキモノニシテ法律ニ規定セラレタル處ナレハ訴

認當事者ハ裁判所ニ對シ假執行宣言ヲ求ムルハ訴訟的請求權アリトス

(二) 假執行宣言ハ裁判所ハ職權若クハ債權者ハ申立ニ因リ之ヲ爲スヘキモノトス

(イ) 職權ヲ以テ爲ス場合左ノ如シ(第五條)

(1) 認諾ニ基キ被告ニ敗訴ヲ言渡ス判決ヲ爲ストキ、債務者カ請求ヲ認諾シタルトキハ債權者ノ權利ハ判決カ確定セサルモ確實ノモノト看做スヘケレハナリ

(2) 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決、證書訴訟竝ニ爲替訴訟ノ簡易訴訟手續ヲ認メタル立法上ノ理由ハ迅速ニ債權者ニ債務名義ヲ得セシムルノ精神ニ出テタルモノナレハ此等ノ手續ニ於テ被告ニ敗訴ヲ言渡ス判決ハ假執行ヲ許ササル可カラス第五百一條第二號ノ規定ニ因レハ廣ク證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決トアリテ原告ノ敗訴ノ場合若クハ原告ノ訴ヲ不適法トシテ却下

スル場合ニ於テモ原告ノ訴訟費用ノ負擔ニ付キ假執行宣言ヲ爲スヘキカ如シ獨逸學者ノ多數ハ此說ヲ主張シ我國ノ實際ニ於テモ假執行ノ宣言ヲ爲セリ然レトモ假執行ヲ認メタル立法ノ趣旨ハ判決確定前ニ債權者ノ實體法上ノ權利實行ヲ許スヲ目的トセルモノナレハ原告敗訴ノ判決ニ假執行ヲ許ストセハ其結果被告ノ訴訟費用請求權ニ付キ假執行ヲ爲スニ過キスシテ立法上ノ趣旨ニ反スルノミナラス第五百十條第二項ニ原告ノ申立ニ因リ原告ノ給付シタルモノノ辨濟ヲ言渡スヘキ事ノ規定ナキニ因リテモ之ヲ知ルヲ得ヘキナリ反對說ハ法文ノ字句ニ重キヲ置キ假執行ヲ認メタル立法ノ精神ヲ鑒ミサルモノト云フヘシ

(3) 同審級ニ於テ同一ハ原告若クハ被告ニ對シテ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ハ闕席判決 此等ノ判決ニ對シ假執行宣言ヲ爲スハ迅速ニ判決ノ執行ヲ爲サシメサルニ於テハ債務者ハ屢々闕席判決ヲ受ケ判決ノ確定ヲ妨ケ強制執行ヲ免レントスルノ虞アルカ

故ナリ而シテ茲ニ本案ト云フハ中間争ニ屬セサル部分ニ付キ言渡シタルモノヲ謂フ原告ニ對シテ第二ノ闕席判決ヲ爲シ假執行宣言ヲ付スル場合ハ被告ノ反訴ニ付キ言渡シタルモノナラサルヘカラス然レトモ前(2)ニ述ヘタル如ク訴訟費用ニ付テモ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノナリトノ說ニ從フトキハ闕席者ノ原告タルト被告タルトヲ問ハス第二以後ノ闕席判決ニ於テ假執行宣言ヲ爲スヘキナリ又新闕席判決(第二六)ニ付テハ學說分ルルモ第二ノ闕席判決ナルコトハ明カナリ而シテ故障棄却ハ單ニ故障ニ付キ言渡シタルモノニシテ本案ニ付キ言渡シタル判決ニ非ストノ說アリト雖モ故障棄却ハ前闕席判決ヲ正當トシテ認可シ前闕席判決ニ對スル不服ヲ理由ナシトシテ棄却スル判決ニシテ即チ本案ノ判決ナルヲ以テ亦假執行宣言ヲ爲スヘキモノトス次ニ執行命令ニ對スル故障申立アリタル後被告ニ對シテ言渡ス闕席判決ハ第二ノ闕席判決ナルヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付セサルヘカラス

(4) 假差押又ハ假處分ハ裁判ヲ取消ス判決 假差押若クハ假處分ノ命令ヲ決定ヲ以テ爲シ債務者不服ナルトキハ異議ヲ申立テ其決定ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘク又判決ヲ以テ假差押若クハ假處分ノ裁判ヲ爲シタルトキハ控訴又ハ上告ノ方法ニ依リ不服申立ヲ爲スコトヲ得異議若クハ上訴ニ因テ假差押若クハ假處分ノ命令ヲ取消サレタルトキハ職權ヲ以テ假執行宣言ヲ爲スヘキモノトス假差押竝ニ假處分ノ裁判ハ當然執行シ得ヘキモノナレハ之カ取消ヲ爲シタルトキハ債務者ノ地位ヲ直チニ原狀ニ回復スルノ必要アリ是レ職權ヲ以テ假執行宣言ヲ爲ス所以トス

(5) 扶養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ハ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ハ三ヶ月間ハ爲ニ支拂フヘキモノニ限ル(民第九五四條以下參照) 扶養料ノ請求ヲ爲ス者ハ日常生活ニ餘裕ナキ者ナレハ判決言渡ト同時ニ其假執行宣言ヲ爲スヘキモノトセル所以ナリ

右ノ外第五百四十八條ニ於テ職權ヲ以テ假執行宣言ヲ爲スヘキコト

(ロ)

ヲ規定セルモ後ニ説明スヘシ

債權者ハ申立ニ因リ假執行ハ宣言ヲ爲スヘキ場合左ノ如シ(第五條)

(1) 貸借借占有雇傭及ヒ旅行上ノ關係ニ付キ起リタル訴訟 此種ノ訴訟ニ假執行ヲ許シタルハ訴訟事件ノ性質上急速終局ヲ必要トスル精神ニ外ナラス而シテ第一審タルト第二審タルトヲ問ハス債權者ノ申立アルトキハ債權者ニ勝訴ヲ言渡ス判決ニ限り假執行宣言ヲ爲スヘキモノトス

(2) 財産權上ノ請求ニシテ訴訟物ノ價額カ二十圓ヲ超過セサル訴訟、財産權上ノ請求トハ金錢ニ評價シ得ヘキ請求ヲ謂フ此場合ニ假執行ノ宣言ヲ許スハ事件輕微ニシテ確定以前ニ執行ヲ許スモ當事者ニ回復シ難キ損害ヲ被ラシムルコトナキノミナラス斯ル請求ヲ爲ス者ハ財産上餘裕ナキモノニシテ迅速執行ヲ必要トスルモノナレハナリ訴訟物ノ價額ノ算定ハ第三條乃至第六條ヲ適用スヘキモノナレハ起訴ノ日時ニ依リ價額ヲ算定スヘキナリ

以上二個ノ場合ニ假執行宣言ヲ付スヘキ判決ハ被告ニ敗訴ヲ言渡シタルモノニ限ル法文ニ單ニ申立ニ因リトアリテ債權者ハ申立ナル文字ナキヨリシテ被告ハ申立ニ因リ原告ニ敗訴ヲ言渡ス判決ニ付テモ假執行ノ宣言ヲ付スルコトヲ得ヘキカ如シ然レトモ假執行ノ性質タル權利者ニ假定的ニ權利ノ實行ヲ得セシムルコトヲ目的トスルモノナレハ訴ニ因リ權利ヲ主張セサル被告ニ訴訟費用ノミニ付キ假執行ヲ許ス目的ニテ法文ヲ設ケタルモノト解スルヲ得ス故ニ第五百二條ハ申立ハ債權者ニ限リ爲スヲ得ヘク被告ハ申立ハ許ササルモノト解スヘキナリ

(ハ) 財産權上ノ請求ニ關スル判決ニシテ債權者ニ勝訴ヲ言渡スモノハ付テハ次ニ述フル場合ニ限リ債權者ハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトス(第五條)

(1) 債權者カ執行前ニ保證ヲ立テシコトハ申出ヲ爲シタルトキ債權者カ勝訴ノ判決ヲ受クルコトヲ條件トシテ保證即チ債務者ニ假

執行ニ因リ被ラシムルコトアルヘキ損害ノ擔保ヲ供センコトノ申出ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ原告勝訴ノ判決ヲ爲スヘキ場合ニ於テ假執行宣言ヲ爲スヘキモノトス保證ハ申出ヲ以テ足レリトシ現實ニ之ヲ供託スルヲ要セス保證ヲ立ツルノ目的ハ假執行宣言ヲ付セラレタル判決カ後日廢棄若クハ變更セラレタル場合ニ其判決ニ基キ爲シタル假執行カ不當ニ歸シ債務者ハ之カ爲メ損害ヲ被ルコトアルヘキヲ以テ其損害ヲ擔保スルノ主旨ニ出ツルモノナリ

(2) 債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ償ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受クヘキコトヲ疏明シタルトキ償ヒ難キ損害トハ償フニ困難ナル損害ヲ謂ヒ計リ難キ損害トハ損害ノ範圍ヲ確知スルニ困難ナルヲ謂フ右損害事實ヲ疏明シタルトキハ保證ヲ立ツルコトナク假執行ヲ許ス宣言ヲ爲スヘキモノトス損害ノ如何ハ事實問題トシテ裁判所ノ認定ニ因ルモノトス

前述ノ場合ハ債權者ノ利益ノ爲メ假執行ノ宣言ヲ許シタルモノトス

然レトモ債権者ノ利益ノミニ着眼シ債務者ノ利益ヲ度外視スルトキハ
爲メニ債務者ハ損害ヲ被ルコトアルヘキヲ以テ法律ハ債権者ノ爲メニ
スル假執行ニ對シ債務者ハ防禦手段ヲ認メタリ即チ左ノ如シ

(イ) 債務者カ判決ハ執行カ自己ニ回復スルコトヲ得サル損害ヲ受クヘ
キコトヲ説明シタルトキ

即チ債務者カ判決ヲ執行セラレルトキハ
恢復スル能ハサル損害ヲ生スルコトヲ説明シ假執行宣言ノ免除ヲ申
立テタルトキハ職權ヲ以テ假執行ヲ爲スヘキ第五百一條ノ場合ニ於
テハ判決ヲ執行スヘカラサルコトヲ宣言シ又債権者ノ申立ニ因リ假
執行宣言ヲ爲スヘキ第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債権
者ノ假執行ノ申立ヲ却下セサルヘカラス(第四百五〇條)

(ロ) 假執行宣言ヲ爲スヘキ總テハ場合 即チ第五百一條第五百二條第
五百三條ノ場合ニ於テ債務者ノ申立ニ因テ債権者豫メ保證ヲ立ツル
ニアラサレハ假執行ヲ許ササル旨ヲ宣言スルコトヲ得ヘク又債権者
カ執行前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申立テサルトキハ債務者ノ申立ニ因

テハ判決ヲ執行スヘカラサルコトヲ宣言シ又債権者ノ申立ニ因リ假
執行宣言ヲ爲スヘキ第五百二條及ヒ第五百三條ノ場合ニ於テハ債権
者ノ假執行ノ申立ヲ却下セサルヘカラス(第四百五〇條)
假執行宣言ヲ爲スヘキ總テハ場合 即チ第五百一條第五百二條第
五百三條ノ場合ニ於テ債務者ノ申立ニ因テ債権者豫メ保證ヲ立ツル
ニアラサレハ假執行ヲ許ササル旨ヲ宣言スルコトヲ得ヘク又債権者
カ執行前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申立テサルトキハ債務者ノ申立ニ因

リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ目的物ノ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免
ルルコトヲ許ス旨ヲ宣言スルコトヲ得ヘシ(第四百五〇條)

(四) 假執行ニ關スル申立及ヒ裁判 假執行ニ關スル申立即チ債権者カ假
執行宣言ヲ求ムル申立(第四百五〇條)又債務者ノ假執行免除若クハ制限ノ
申立(第四百五〇條)ハ本案ト共ニ辯論ヲ爲スヘキモノナレハ判決ニ接着ス
ル口頭辯論ノ終結前ニ申立テサル可カラス獨リ第一審ノミナラス第二
審ノ辯論ニ於テモ申立ヲ爲スヲ得ヘシ但口頭辯論ノ終結後ニ於テハ申
立ヲ爲スコトヲ得ス上告審ニ於テハ闕席判決ヲ爲スヘキ場合ニ於テノ
ミ假執行宣言ヲ求ムル必要アリ如何トナレハ上告審ノ對審判決ハ其言

渡ニ因リテ確定スルモノナレハナリ
假執行ニ關スル申立ハ第二百二十二條ニ所謂判決ヲ受クヘキ事項ハ申
立ナルヲ以テ書面ニ基キ之ヲ爲スヲ要ス然ラサレハ其申立ハ無効ニ歸
シ又豫メ相手方ニ通知シ置クニアラサレハ相手方カ闕席シタル場合ニ
闕席判決ニ假執行ハ宣言ヲ爲スコトヲ得ス(第二百二十五條)或ハ法律ニ特定シタ

第五編 強制執行 第五章 強制執行ノ條件 第一節 債務名義
一〇二九

ル場合ニ假執行宣言ヲ爲スヘキコトハ相手方ハ豫知シ得ヘキ事項ナレハ特ニ其申立ヲ通知シ置カサルモ關席判決ヲ爲スコトヲ得ヘシトハ説アリ然レトモ當事者カ果シテ假執行宣言ヲ求ムル申立ヲ爲スヤ否ヤハ相手方ノ知リ得サル事項ナレハ豫メ其通知ヲ必要トス假執行ニ關スル裁判ハ本案ノ終局判決ト共ニ爲スヘク假執行ノ許否ハ判決主文ニ之ヲ掲ケサルヘカラス(第七條)職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ第五百二條ノ場合ニ於テ裁判所カ假執行ニ付テノ裁判ヲ爲サス又ハ第五百二條第五百三條ノ場合ニ於テ債權者カ假執行ヲ求ムル申立ヲ爲シタルニ裁判所之ヲ看過シ裁判ヲ脱漏シタルトキハ第二百四十二條及ヒ第二百四十三條ノ規定ニ依テ判決ノ補充ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第八條)假執行ニ關シテ債務者ノ爲ス防禦的申立即チ第五百四條第五百五條ノ申立モ亦口頭辯論終結前ニ書面ニ基キテ申立ヲ爲スヘク其裁判ハ終局判決ト共ニ爲スヘキモノトス若シ其裁判ヲ脱漏シタルトキハ上訴若クハ故障ノ方法ニ依テ不服申立ヲ爲スコトヲ得ヘク補充判決ハ之ヲ求ム

ルコトヲ得ス如何トナレハ假執行ノ防禦的申立ハ民事訴訟法ノ主タル請求若クハ附帶ノ請求中ニ包含セス又第五百八條ノ如キ規定ナキヲ以テ補充ノ裁判ヲ爲スヲ得サルモノトス
假執行宣言ヲ求ムル債權者ノ申立及ヒ債務者ノ爲ス防禦的申立ハ條件的申立ナリ即チ原告ニ勝訴ノ判決アルコトヲ條件トセル申立ナリ故ニ原告ニ敗訴ヲ言渡ス判決ヲ爲ストキハ假執行宣言若クハ債務者ノ防禦的申立ニ付テハ特ニ之ヲ却下スル言渡ヲ必要トセサルモノトス
(五) 上級審ハ假執行宣言ニ關スル手續 第一審若クハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ保證ヲ立ツル條件ノ下ニ假執行ノ宣言アリタルモノハ控訴若クハ上告ニ依リテ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ控訴審又ハ上告審ノ口頭辯論ノ進行中ニ於ケル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ其審級ニ於テ決定ヲ以テ判決ノ不服ナキ部分ニ限リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキモノトス(第九條)當事者ノ不服ナキ部分ノ裁判ハ其確定前ニ執行ヲ許スモ相手方ニ損害ヲ加フルコトナク却テ債權者ノ爲メニ

利益ナレハナリ而シテ假執行ノ宣言ヲ爲ス決定ハ當事者ノ口頭辯論ニ基キ爲スヘキモノナレハ之ヲ言渡スコトヲ要ス(第五條第二四)右ノ外第二審ニ於テハ本案ノ判決ト共ニ假執行ニ關スル裁判ニ付テ不服ハ申立アリタルトキハ當事者ノ申立ニ因リ先ツ假執行ハ點ハミニ付テ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヲ得ヘシ此點ノ辯論ニ付テハ控訴ノアリタルトキ被控訴人ノ控訴期間滿了前ナルトキ又ハ故障ノ申立ト控訴ノ提起ト併發シタル場合ニハ控訴ノ辯論ヲ延期スヘキモノナリトノ規定(第四條第一)ハ適用ナク先ツ假執行ノミニ付テ辯論裁判ヲ爲ササルヘカラス蓋シ假執行ニ關スル事項ハ急速ニ裁判スルニ非サレハ或ハ債務者ニ危害ヲ及ホスノ虞アルヲ以テナリ而シテ裁判所カ假執行宣言ハ不服ニ付キ爲ス裁判ハ形式ハ中間判決ニシテ其裁判ニ對シテハ不服ハ申立ヲ許サス(第五條第一)

(六) 假執行宣言ハ效力ハ消滅及ヒ停止 假執行宣言ハ未確定判決ノ執行ヲ許スモノナレハ確定判決ニ基ク執行ノ如ク確定セル法律關係ヲ基礎トスルモノニ非ス隨テ必要ナル場合ニハ其效力ヲ消滅セシメ若クハ執

行手續ヲ停止スルコトヲ許ササルヘカラス其場合ハ左ノ如シ

(イ) 假執行ノ宣言アリタル本案ノ裁判又ハ假執行ノ宣言ヲ上級審若クハ同級審ニ於テ廢棄若クハ破毀又ハ變更スル判決ノ言渡ヲ爲シタルトキハ假執行宣言ハ其廢棄若クハ破毀又ハ變更スル限度ニ於テ效力ヲ失フモノトス(第五條第一項)而シテ假執行ノ宣言アリタル判決ニ基キ債權者カ債務者ニ對シ執行ヲ爲シ債務者ヨリ金錢ノ支拂若クハ其他ノ給付ヲ受ケタル後本案ノ判決カ廢棄若クハ破毀又ハ變更アリタルトキハ債務者ノ給付シタル物ノ辨濟ヲ債權者ニ對シテ請求スルヲ得ヘシ其請求ノ方式ハ假執行宣言アリタル判決ニ對スル不服申立ニ付テハ口頭辯論ニ於テ債務者ヨリ返還ヲ求ムル旨ノ申立ヲ爲スヘク裁判所ハ口頭辯論ヲ經テ本案判決ト共ニ其請求ノ當否ヲ言渡スヘキモノナリ(第五條第二項)

本來假執行宣言アリタル判決ヲ廢棄若クハ變更スルコトアルモ其判決確定セサレハ執行力ヲ生セス假執行ノ性質ハ前述セラル如ク債權者ヲ保護スル便宜ニ出テタルモノナレハ其裁判不當ナル

トキハ直チニ假執行ニ基ク效果ヲ消滅セシメサレハ債務者ニ損害ヲ被ラシムルコトアルヘキナリ故ニ特別規定ヲ設ケ假執行宣言ニ基キタル執行ノ效果ヲ原状ニ回復セシムル爲メ唯假執行ニ基キ給付シタルモノヲ債務者ノ財産中ニ復歸セシムル方法ヲ設ケタルモノトス然レトモ假執行ニ因リ債務者ニ被ラシメタル損害ヲ賠償セシムル旨趣ニ非サルヲ以テ假執行ノ爲メ債務者カ他ニ損害ヲ被リタルトキ其損害賠償ヲ請求スルニハ特ニ訴ヲ以テ主張セサルヘカラス茲ニ所謂辨濟ノ申立ノ性質ハ被告ノ提起スル反訴ニ非ス訴訟法上認容セラレタル特種ノ申立ニシテ本案ノ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結前ニ限リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又上告審ニ於テモ其申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ但上告審ハ事實ノ審理ヲ爲ササル審級ナレハ若シ事實ノ確定ヲ必要トスルトキハ事件ヲ控訴審ニ差戻ス判決ヲ爲スヘキナリ而シテ各審級ニ於テ爲ス債權者ニ辨濟ヲ命スル判決ハ確定後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス故ニ辨濟ヲ命セラレタル債權者カ任意ニ履行ヲ

爲ササルトキハ其判決ノ確定後強制執行ノ規定ニ準據シテ債務者ハ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ

(ロ)

假執行宣言ノ效力ハ消滅スルモノニ非サルヲ以テ假執行宣言ヲ得タル債權者ハ其判決ニ對シ控訴若クハ上告ノ提起アリタル後ト雖モ假執行宣言ニ基キ強制執行ヲ爲スヲ得ヘシ然レトモ法律ハ債務者ノ利益ヲ保護スルカ爲メ假執行宣言ヲ爲シタル判決ニ對シテ故障ヲ申立テ又ハ上訴ヲ提起シタルトキハ當事者ノ申立ニ因リ次ニ述フル方法ニ因テ假執行ノ一時停止ヲ許ス即チ左ノ如シ(第五〇〇條)

- (1) 債務者ニ保證ヲ立テシメ若クハ保證ヲ立テシメシテ強制執行ハ一時停止ヲ命スヘキコト
- 一時トハ裁判所ヲシテ適當ノ時期ヲ定メシムル法意ナリ若シ裁判所カ一定ノ時期ヲ限ラサルトキハ判決ノ確定迄ト解スヘキモノトス
- (2) 債權者ニ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲スヘキコトヲ許シ又債

務者ニ保證ヲ立テシメテ已ニ爲シタル強制處分ヲ取消スヘキコト」
 右(1)及ヒ(2)ノ前段ノ命令ハ假執行宣言ノ判決ノ送達後其開始前ト雖
 モ之ヲ爲スコトヲ得ヘク(2)ノ後段ノ命令ハ執行ノ開始後ニ限り之ヲ
 爲スコトヲ得ヘシ而シテ保證ヲ立テシメスシテ爲ス強制執行ノ停止
 ハ其執行ニ因テ償フコト能ハサル損害ヲ生スヘキコトヲ債務者カ疏
 明シタルトキニ限り之ヲ爲スヘキモノトス而シテ強制執行ノ停止若
 クハ取消ニ關スル申立ハ故障ヲ提起スル裁判所又ハ上訴ヲ提起シタ
 ル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘク裁判所ハ口頭辯論ヲ經又ハ口頭
 辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲ス裁判ノ形式ハ決定ナリ其決定ニ對シテハ
 債務者ノ申立ヲ採用シタルトキト否トヲ問ハス不服ヲ申立ツルコト
 ヲ得ス債務者カ執行ノ停止若クハ執行取消ノ裁判ヲ得タルトキハ其
 裁判ヲ執行機關ニ提出シ執行手續ノ開始ヲ妨ケ又ハ已ニ着手シタル
 執行ノ停止若クハ執行處分ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第五〇條第二號)
第三 臺灣總督府法院朝鮮裁判所關東都督府法院ノ爲シタル確定判決ハ内地

ニ於テモ執行スルコトヲ得ヘク又内地ノ裁判所ノ爲シタル判決モ右裁判所
 ノ管轄地域内ニ於テ執行スルコトヲ得ヘシ明治四十四年三月法律第五十二
 號ヲ看ルヘシ

第三款 執行判決

執行判決ニ二種アリ仲裁判斷ニ基キテ爲スモノハト外國裁判所ハ判決ニ基キテ
 爲スモノハト是ナリ左ニ之ヲ分説スヘシ

第一 仲裁判斷ニ基ク執行判決

債務名義ハ國家ノ權力ニ因リ權利ノ存存ヲ確定シタル證書即チ通常裁判所
 ノ判決ナルコトヲ原則トス仲裁判斷ハ當事者間ニ裁判所ノ確定判決ト同一
 ノ效力ヲ生スト雖モ固ト一私人ノ爲シタル判斷ニ過キサレハ直チニ之ニ基
 キテ強制執行ヲ爲スコトヲ許スヘキニ非ス是ヲ以テ管轄裁判所ニ執行判決
 ヲ求ムル訴ヲ起スコトヲ得セシメ仲裁判斷ニ因リテ定マリタル法律關係ニ
 付キ強制執行ヲ許ス制度ヲ認メタリ(第八〇條第八〇條第五條)執行判決ハ單ニ執行
 ノ許可ヲ宣言スルニ止マル故ニ他ノ債務名義ト同ク執行文ノ付與アリタル

トキニ限リ執行ヲ開始スルコトヲ得ヘキナリ詳細ハ仲裁判斷ノ規定ヲ参照スヘシ

第二 外國裁判所ハ判決ニ基テ執行判決

強制執行ハ日本裁判所ニ於テ認メラレタル權利ノ實行ヲ得セシムルヲ目的トスルモノニシテ外國裁判所ノ判決ハ當然日本ニ於テ其判決ノ内容ヲ實行セシムヘキニ非ス然ラサレハ外國ノ主權ハ日本國ニ行ハルル結果ヲ生スレハナリ然レトモ國際上ノ關係ヨリ外國裁判所ノ判決ト雖モ日本ニ於テ其執行ヲ得セシムルニ非サレハ權利者ニシテ權利實行ヲ爲ス能ハサル場合アルヘキヲ以テ外國裁判所ノ判決ヲ日本ニ於テ執行スルコトヲ許ス制度ヲ認ム日本裁判所ハ外國裁判所ノ判決ヲ内國ニ於テ執行スルモ公ノ秩序ニ反スルコトナキヤ否ヤヲ審査シ執行ノ許否ヲ決スヘキモノトシ外國裁判所ハ判決ハ日本裁判所カ執行判決ヲ以テ執行ハ許可ヲ言渡シタルトキニ限リテ執行ヲ許スヘキモノトセリ(第五條)執行判決ハ形式上ノ裁判ニシテ當事者ノ實體法上ノ權利ニ付キ當否ノ判斷ヲ爲スニ非ス又外國裁判所ノ裁判ノ當否ヲ審

査スルニ非ス唯外國裁判所ノ判決ヲ日本ニ於テ執行スルモ其執行カ日本ノ法律ニ從テ適法ナルヤ否ヤ若クハ公ノ秩序ニ反スルコトナキヤ否ヤヲ審査スルニ止マルモノトス

(一) 執行判決ヲ求ムルハ通常訴訟手續ニヨリ訴ヲ提起スヘキモノトス其管轄裁判所ハ事物ノ管轄ヨリスレハ訴訟物ノ價額若クハ性質ニ因リ區裁判所若クハ地方裁判所ニ屬ス訴訟物ノ價額ハ起訴ノ日時ヲ標準トスヘキモノナレハ外國裁判所ニ提起シタル當時ノ訴訟物ノ價額ニ依ルモノニ非スシテ執行判決ヲ求ムル訴ヲ提起セル當時ノ價額ヲ標準トスヘキナリ土地ノ管轄ヨリスレハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ屬ス若シ債務者ノ普通裁判籍ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從テ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス(第五條)債務者ノ普通裁判籍若クハ第十七條ノ裁判籍ナキトキハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ提起スルヲ得ス如何トナレハ強制執行ニ關スル裁判籍ハ專屬ニシテ他ノ裁判所ノ管轄ヲ認メサレハナリ蓋シ債務者ノ普通裁判籍ナク又第十七條ノ裁判籍ナキトキハ債務者ニ對

スル執行ハ到底不可能ナルヲ以テ執行判決ヲ求ムル必要ヲ認メサレハナリ

(二) 執行判決ハ通常訴訟手續ニ因リ之ヲ審理シテ爲スヘク然レトモ外國裁判所ノ判決ノ當否ヲ審査セスシテ之ヲ爲ス即チ其判決ニ包含スル實體上ハ權利ニ付テ當否ヲ審査セスシテ唯其判決ヲ執行スルモ日本ノ秩序ニ害ナキモハト認ムルトキハ執行判決ヲ爲ササル可カラス(第五條)而シテ執行判決ヲ爲スハ要件ハ外國裁判所カ民事訴訟事件ニ付キ終局的ニ實體上ハ權利ヲ確定シタル終局判決ヲ基本トスルコト是レナリ外國裁判所ノ如何ハ其官廳所屬國ノ法律ニ依リ定マル民事訴訟ノ意義モ亦然リ故ニ日本法律ニ從ヘハ行政事項ト雖モ外國法ニ從ヒ民事訴訟ナルトキハ執行判決ヲ求ムル基本ト爲スニ足ル外國裁判所ノ判決ハ終局判決ナルコトヲ要シ且其判決カ強制執行ヲ爲スニ適シタル内容ヲ有スルコトヲ要スルヤ我邦ノ判決ト同一ナリトス外國ニ於ケル仲裁判斷若クハ和解調書ニ基キテ執行判決ヲ求ムルヲ得ス而シテ左ノ場合ニ於テハ執行判決ヲ求ムル訴ハ之ヲ

却下スヘキモノトス

(イ) 原告カ外國裁判所ノ判決カ確定シタルコトヲ證明セサルトキ判決確定ノ時期ハ其國ニ因テ之ヲ異ニス隨テ外國管轄官廳ノ確定證明アルカ若クハ當事者カ第二百十九條ノ規定ニ依テ外國ノ現行法ニ從ヒ之ヲ證明スルコトヲ必要トス蓋シ確定判決ニ非サレハ執行スルヲ得サレハナリ

(ロ) 本邦ハ法律ニ從ヘハ強制的ニ實行セシムルヲ得サル行爲ヲ外國裁判所ノ判決カ債務者ニ命シタルモノナルトキ執行判決ハ外國裁判所ノ判決ノ執行ヲ許可スルモノト雖モ其執行許可ノ判決ハ日本ノ判決ナリ故ニ我法律ノ下ニ於テ許ササル行爲ノ實行ヲ命シ若クハ我強制執行ノ手續ニ於テ執行手續ノ規定ナキ事項ヲ命シタル外國裁判所ノ判決ナルトキハ日本裁判所ハ之カ執行ヲ許可スルコトヲ得サルモノトス例ヘハ賭博若クハ富籤ニ關スル判決ノ如シ

(ハ) 本邦ハ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ是レ外國

裁判所ノ爲メニ我司法權ヲ侵害セラレサルコトヲ目的トスル規定ナリ
即チ外國裁判所ノ判決ヲ爲シタル事項ニ付キ日本ノ法律ニ從ヒ外國裁
判所カ管轄權ヲ有スルコトヲ必要トス然レトモ外國裁判所カ事物ノ管
轄權アリヤ否ヤハ之ヲ調査スルコトヲ要セス如何トナレハ我國ノ事物
ノ管轄ノ規定ハ外國裁判所ノ事物ノ管轄ノ標準ト爲ルモノニ非サレハ
ナリ故ニ本項ニ所謂管轄トハ土地ノ管轄ニシテ我國法及ヒ合意管轄ノ
規定ニ從ヒ外國裁判所カ土地ノ管轄權ヲ有スル場合ニ爲シタル判決ナ
ルコトヲ必要トス

(二) 敗訴ハ債務者カ本邦人ニシテ應訴セサリシトキ日本人カ應訴セス
シテ言渡サレタル判決ハ適式ニ言渡サレタルモノニ非サルヲ以テ斯ノ
如キ判決ニ對シ執行判決ヲ求ムル訴ヲ起シタルトキハ之ヲ却下セザル
可カラス但應訴セサリシ日本人カ訴訟ヲ開始スル爲メノ呼出若クハ命
令ヲ受訴裁判所所屬國ニ於テ受ケタルカ若クハ國際間ノ共助ニ因リ之
ヲ受領シタルニ拘ハラス應訴セサリシトキハ日本人ノ懈怠ニ出テタル

モノナレハ此等ノ場合ニハ執行判決ヲ求ムル訴ヲ却下スルコトヲ得サ
ルモノトス

(ホ) 國際條約ニ因リテ相互ヲ保セサルトキ日本ノ判決ヲ外國ニ於テ執
行ヲ許ス國ノ判決ニ非サレハ日本ニ於テモ執行判決ヲ求ムルヲ得サル
モノトス是レ外國裁判所トノ關係ニ於テ我民事訴訟法カ相互主義ヲ採
リタル所以トス

右五個ノ場合及ヒ一般ノ訴訟成立條件ニ欠缺アルトキハ執行判決ヲ求ム
ル訴ヲ却下スヘク其他ノ場合ニ於テハ執行判決ヲ爲スヘキモノトス

以上述ヘタル執行判決ハ共ニ執行許可ヲ宣言スル判決ナリ其判決ハ債權者カ
仲裁判斷若クハ外國裁判所ノ判決ニ因リ認メラレタル給付請求權ニ付キ強制
執行ノ許可ヲ宣言スル創設判決ニシテ債務名義タルモノトス仲裁判斷若クハ
外國裁判所ノ判決カ債務名義ト爲ルニ非ス或說ニハ執行判決ハ給付請求權ノ
存在ヲ確定スル判決ナリトスルモノアリ然レトモ執行判決ヲ受クルニ非サレ
ハ債權者ハ強制執行ヲ爲スヲ得サルモノナレハ執行判決ハ單ニ請求權ノ存在

ヲ確定スル效力アルノミニ止マラサルヘシ又或ハ給付判決ナリトスルモノアリ然レトモ單純ノ給付判決ト異ナル處ハ執行判決ニ因リテ債權者ハ強制執行權ヲ取得スル效力ヲ生スルコト是レナリ第二編第一章第三節ニ述ヘタル如ク創設判決ヲ給付判決ノ一種トスル意義ニ於テ執行判決ヲ給付判決ト爲スハ正當ナリトス

執行判決ヲ求ムル訴ノ訴訟物ハ仲裁判斷若クハ外國裁判所ノ判決ニ承認セラレタル私法的請求權ナリトス

第四款 執行命令

執行命令トハ督促手續ニ因リ支拂命令ニ假執行ハ宣言ヲ付シタルモハハ謂フ即チ債權者カ支拂命令ノ申請ヲ爲ストキハ書面審理ニ基キ債務者ニ對シ條件附命令即チ支拂命令ヲ發ス債務者カ支拂命令ニ對シ法定期間内ニ異議申立ヲ爲ササルトキハ債權者ノ申請ニ因リ支拂命令ニ假執行ノ宣言ヲ付ス支拂命令ニ假執行宣言ノ付セラレタルモノヲ執行命令ト云フ執行命令ハ假執行ハ宣言ヲ付シタル闕席判決ト其效力ヲ同フス執行命令ノ效力ヲ假執行宣言ヲ付シタル

ル闕席判決ト同一トシタルハ債務者カ防禦行為ヲ爲ササルハ恰モ通常訴訟手續ニ於テ被告カ口頭辯論期日ヲ懈怠シタルトキト同ク懈怠ノ結果ヲ被ラシムルノ立法上ノ理由ニ基ク即チ債務者カ支拂命令ニ對シ異議申立ヲ爲シタルトキハ債權者ノ請求ハ通常訴訟トシテ繫屬スルモ異議申立ヲ爲ササル結果闕席判決ト同一效力アル執行命令ヲ發スルノナリ債務者ハ執行命令ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ第五百條第五百十二條第五百十條ノ規定ハ執行命令ニ對シテ適用アルモノトス執行命令ハ命令自體カ執行力ヲ有スルモノニシテ他ノ債務名義ノ如ク特ニ執行文ヲ要セスシテ執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五條至第三九八二條乃)

第五款 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判

抗告ヲ以テハミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判即チ決定若クハ命令ニシテ其内容カ執行ニ適スルモノハナルトキハ債務名義タルヲ得ヘシ性質上抗告ヲ提起シ得ル決定若クハ命令ナルトキハ現實抗告期間經過スルカ其他ノ事由ニ因リ

抗告不能ニ歸シタル裁判ト雖モ亦債務名義タルコトヲ得ヘシ故ニ茲ニ所謂裁判トハ現實ニ抗告ヲ爲シ得ル状態ニ在ル裁判ヲ謂フモノニ非ス其裁判カ性質上抗告ヲ許サルルモノヲ謂フ然レトモ法律ニ規定セラルル抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ悉ク強制執行ノ債務名義タルコトヲ得ルニ非ス債務名義タルニハ次ニ述フル條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 執行ヲ爲スニ適當ナル内容ヲ有スル裁判ナラサル可カラズ
決定若クハ命令ニシテ抗告ヲ許スモノ數多アリト雖モ訴訟手續ニ關スル決定若クハ命令例ヘハ訴訟手續ヲ中止スル決定(第一八條)訴狀差戻ノ命令(第一九條)等ノ如キハ實體法上ノ權利實行ニ關スル決定ニ非サルヲ以テ債務名義タルヲ得ス決定若クハ命令ノ其内容ニ於テ實體法上ノ權利實行ニ關スルモノニ非サレハ執行ニ適シタリト爲スヲ得ス例ヘハ訴訟費用額確定決定(第八條)裁判所書記法律上代理人等ノ過失懈怠ニ因リ費用ノ賠償ヲ命シタル決定(第八條)證人若クハ鑑定人ニ對シテ費用ノ賠償ヲ命シタル決定(第二九條、第三〇條)第七百三十三條第二項ニ依リ費用ノ支拂ヲ命シタル決定及ヒ第七百三十四條ニ

依リ損害賠償ヲ命シタル決定其他第百條、第一百一條ノ裁判等はナリ

訴訟費用額確定決定ハ訴又ハ上訴ノ取下請求ノ拋棄若クハ認諾ニ因リテ權利拘束消滅シタルトキ債務名義タルコトハ我民事訴訟法ノ解釋トシテ異論ナキ所ナリト雖モ訴訟費用ノ負擔ヲ命シタル判決存スルトキハ其判決カ債務名義ニシテ費用額確定決定ハ單ニ其數額ヲ定メタルモノナレハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判トシテ債務名義タルモノニアラス故ニ判決ニ執行文ヲ付スルトキハ費用額確定決定ニ執行文ヲ要セスシテ強制執行ヲ爲シ得ヘシトノ說アリ其說ノ不當ナルコトハ本節第二款ヲ參照スヘシ

第二 裁判カ抗告ニ因リテ執行停止若クハ中止セラレサルコトヲ要ス

抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ特別ノ規定ナキ限ハ抗告ニ因リ其執行ヲ停止スル效力ヲ生セサルヲ原則トス(第四六條)法律ノ規定アルトキハ抗告ニ因リ當然裁判ノ執行停止ノ效力ヲ生スト雖モ然ラサル場合ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ抗告ニ付テノ裁判アル

迄其執行中止ヲ命スルコトヲ得ヘシ右ノ如ク執行ノ停止若クハ中止ノ場合
アルヲ以テ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判カ停止若クハ中止ナ
キトキニ非サレハ強制執行ノ債務名義タルヲ得サルモノト謂ハサル可カラ
ス其裁判ヲ執行シタル結果後日抗告ノ提起ニ因テ其裁判カ廢棄若クハ變更
セラレタルトキハ民法上ノ法則ニ因リ辨濟シタル給付ノ返還ヲ求ムルコト
ヲ得ヘシ

第六款 和解調書

和解トハ當事者カ私法上ノ權利ニ付テ互ニ讓歩ヲ爲シ爭ヲ止ムル契約ナリ(民
五九)和解カ債務名義タルニハ裁判上ノ和解ナラサル可カラス即チ訴訟行爲タ
ル和解ナルヲ要ス裁判上ノ和解ニハ二アリ一ハ訴訟提起後ニ受訴裁判所ニ於
テ爲ス和解又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ爲ス和解(第二二)一ハ訴
ノ提起前區裁判所ニ於テ爲ス和解(第三八)ナリトス
裁判上ノ和解成立シタルトキハ裁判所書記ハ之ヲ調書ニ明確ニ記載スヘキモ
ノトス(第一三)和解カ調書ニ明確ニセラレタルトキ其和解調書カ債務名義ナリ

トス(第五五九條第
三號第四號)然レトモ和解調書カ債務名義タルニハ其和解ノ内容カ執行
ヲ爲スニ適シタルモノナルコトヲ要スルハ他ノ債務名義ト同一ナリ

第七款 公證人ノ作成シタル證書

公證人ノ作成シタル證書モ亦一定ノ條件ヲ具備スルトキハ債務名義タリ公證
人ハ公衆ノ囑託ニ因リ民事ニ關スル證書ヲ作成スル職權ヲ有スル公吏ナリ公
證人カ職權内ニ於テ作成シタル證書ニシテ其方式カ法律ノ規定ニ適合シ其證
書ノ内容カ金錢ノ支拂又ハ代替物ノ一定ノ數量若クハ有價證券ノ一定ノ數量
ノ給付ヲ目的トスルモノニシテ且直チニ強制執行ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタル
證書ニ限リ債務名義タルヲ得ルモノトス蓋シ金錢代替物有價證券ノ給付ヲ目
的トスル請求ハ多クハ其法律關係カ簡單ニシテ且當事者カ強制執行ヲ受クヘ
キコトヲ承諾シタルモノナルトキハ強制執行ヲ許スヲ便宜トスルヲ以テ特ニ
債務名義ト爲セル所以ナリ(第五五九條第五號)公證人ノ作成セル證書カ債務名義タルニ
ハ右ノ事項即チ次ノ條件ヲ必要トス

第一 公證人カ法定ハ形式ニ從テ其權限内ニ於テ作成シタルコトヲ要ス

公證人ノ權限並ニ證書作成方式等ハ公證人法ニ依テ定メラル若シ公證人カ權限外ノ事項ニ付テ證書ヲ作成シ若クハ權限内ノ事項ニ付テ作成シタル證書ト雖モ其證書作成ノ方式カ法律ノ規定ニ違背シタルトキハ其證書ハ公正證書タルノ性質ヲ有セサレハ債務名義タルヲ得サルモノトス

第二 一定ハ金、錢、ハ支拂又ハ代替物若クハ有價證券ハ一定ハ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ナルコトヲ要ス

茲ニ所謂一定トハ公正證書作成ノ當時ニ於テ特定セラレ且其證書面ニ明記シアルコトヲ必要トス然レトモ計算ノ基本ヲ示シテ之ニ因テ全體ノ數額カ計算上認識シ得ルモノナルトキハ一定タルニ妨ナシ又其發生原因如何ヲ問ハス且其請求ノ態樣カ條件附ナルト期限附ナルト反對給付ヲ要スルト否トハ債務名義タルニ關係ナシ唯期限若クハ條件附ナルトキハ其期限若クハ條件ノ到來ニ因テ強制執行ヲ開始スルコトヲ得ルニ過キササルモノトス

第三 證書ニ直チニ強制執行ヲ受クヘキ旨ノ記載アルコトヲ要ス

即チ債務者カ債務履行期ノ到達シタルニ拘ハラス履行ヲ爲ササルトキハ裁

判所ノ裁判ヲ受クルコトナク直チニ執行ヲ受クヘキコトヲ承諾シタル旨ノ記載アルコトヲ必要トス

右ノ三條件ヲ具備シタル公證人ノ證書ニ限リ債務名義タルコトヲ得ヘシ

第八款 破産手續ニ於テ確定シタル債權

破産手續ニ於テ各債權者カ届出テタル債權ハ債權調査會ニ於ケル破産管財人及ヒ調査會ニ參加シタル各債權者ノ承認ニ因リ確定シ又ハ破産管財人或ハ債權者ヨリ異議ノ申立アリタルトキハ破産裁判所ハ判決ヲ以テ債權ノ存否ヲ確定スルモノトス

右承認若クハ判決ニ因テ確定シタル債權ハ破産財團ヨリ辨濟ヲ受ケサルトキハ爾後獨立シテ債務者ニ請求スルコトヲ得ヘシ(破第一〇二七條、第一〇四九條)

確定シタル債權ハ破産手續ノ進行中ハ債務者ニ對シテ獨立シテ請求スルヲ得スト雖モ(破第九條)破産手續終了後ニ辨濟ヲ受ケサリシ債權ノ全部若クハ一部ニ付テ債務者ニ對シテ強制執行ヲ爲スヲ得ヘシ此場合ニ於ケル債務名義ハ債權調査會ニ於テ承認ヲ經タル債權證書若クハ破産裁判所ニ於テ存在ヲ認めラレ

タル、債權確定ノ判決ナリトス、債權確定ノ判決ニ付テハ執行文ヲ必要トスルモ債權證書ニ付テハ特別ノ規定ナキヲ以テ執行文ヲ要セスシテ執行ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト云ハサルヘカラス

第九款 假差押及ヒ假處分命令

假差押命令及ヒ假處分命令モ強制執行ノ保全ニ關シ亦債務名義タリ本編第八章ニ詳述スヘシ

第十款 私訴判決

刑事訴訟ニ附帶セル私訴ニ於テ被告ニ損害ノ賠償ヲ命シタル判決ハ給付判決ナルヲ以テ強制執行ノ債務名義タリ訴訟關係人ニ訴訟費用ノ辨濟ヲ命シタル判決ヲ爲シタルトキハ其判決ニ基キ訴訟費用額確定決定ヲ爲スヘク其決定ハ抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判トシテ債務名義タリトス(刑訴三三條二)

第二節 執行力アル正本

第一款 執行力アル正本ノ意義及ヒ效力

執行力アル正本トハ執行文ヲ付シタル債務名義ノ正本ヲ謂フ、執行文トハ裁判所書記若クハ公證人カ作成シタル公正證書ニシテ債務名義カ執行シ得ヘキコトヲ證明スルモノナリ債務名義ノ正本トハ債務名義ノ原本ニ代用スル爲メ裁判所書記若クハ公證人カ作成シタルモノニシテ原本ト其内容ノ同一ナルコトヲ公證シタル謄本ナリ

強制執行ニ執行力アル正本ヲ必要トシタルハ執行機關ヲシテ債務名義ノ執行シ得ルモノナルコトヲ明カナラシムル目的ニ出ツ蓋シ判決機關ト執行機關トヲ分離シ執行機關ハ債務名義ノ執行シ得ヘキモノナルヤ否ヤヲ調査セシメテ立法主義ヲ採リタルヲ以テ債務名義ノ執行力ノ有無ヲ債務名義ヲ作成シタル機關ヲシテ調査セシメ執行機關ハ債務名義ノ執行シ得ヘキコトノ明カナルモノニ限り執行ヲ實施シ得ルモノトセル所以ナリ(第五條六條)故ニ債權者ハ執行機關ニ執行力アル正本ヲ提出シテ執行ノ申立ヲ爲スヘク執行力アル正本ノ提出ナキ執行ノ申立ハ執行機關ハ之ヲ不適法トシテ排斥スヘキモノナリ

執行文ハ債務名義ハ執行シ得ヘキコトハ證明ナリ執行文ナキトキハ債務名義ノミ存スルモ執行ヲ實施スルヲ得サルヲ原則トス唯例外トシテ執行命令假差押命令及ヒ假處分命令ハ債權者若クハ債務者ニ承繼アル場合ノ外ハ執行力アル正本ニ依ラスシテ執行スルコトヲ得(第五六一條、第七四條、第七五條、第七六條)此等ノ債務名義ハ法律カ當然執行文ヲ包含スルモノト爲シタルモノナレハナリ

執行力アル正本ノ效力ハ債權者カ執行機關ニ對シ執行ノ申立ヲ爲シ得ヘキコト是ナリ執行力アル正本ヲ提出シテ執行ノ申立アリタルトキハ執行機關ハ執行ノ實施ヲ拒ムヲ得ス執行機關ハ執行力アル正本以外ニ存スル事項ニ付キ債務名義ノ執行力ノ存否ヲ調査スル權限ナキモノナレハナリ而シテ執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄區域内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス(第五二條、第五五條、第五九條、第六四條)

第二款 執行力アル正本付與ノ手續

第一 執行力アル正本ハ當事者ハ申請ニ因リテ之ヲ付與ス
強制執行ヲ爲サントスル債權者ハ之ヲ付與スル權アル吏員ニ對シ書面若ク

ハ口頭ノ申出ニ因テ付與ヲ求ムヘシ(第五一六條)執行力アル正本付與ノ申立ハ執行シ得ヘキ債務名義ノ存在スルコトヲ前提要件トスルヲ以テ判決ニ付テハ確定シ若クハ假執行宣言アルコトヲ必要トシ又必要ナル場合ニハ債權者ハ判決確定ノ證明書ヲ提出シテ之ヲ求メサル可ラス和解調書ハ何時ニテモ申請スルヲ得ヘク公證人ノ公正證書抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ニ付テモ亦同シ而シテ總テノ債務名義ニ付テ強制執行ノ實行カ其債務名義ノ内容ニ從テ保證ヲ立ツル以外ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ其條件ノ到來シタルコトヲ書面ヲ以テ證明セサル可ラス(第五一八條)又債務名義ニ表示セラレタル當事者ニ承繼アルトキハ其承繼カ裁判所ニ明白ナル場合ノ外ハ證明書ヲ以テ承繼ノ事實ヲ證明シ付與ヲ求ムヘク(第五一九條)又債權者ハ必要ナル場合ニ執行力アル正本ノ數通ヲ求ムルコトヲ得ヘシ即チ債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數個ノ地若クハ數個ノ方法ニ依テ同時ニ執行ヲ爲スヲ得ヘキヲ以テ同時ニ數個ノ執行力アル正本ヲ求ムルコトヲ得ヘク又一度付與ヲ受ケタル後ニ

於テモ更ニ同一正本ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第五二六三條)
第二 執行力アル正本ハ債權者ハ申請ニ因テ裁判所書記若クハ公證人之ヲ付與ス

執行文ハ訴訟記録ニ基キ之ヲ付與スヘキヤ否ヤヲ決スヘキモノナレハ常ニ訴訟記録ヲ保存スル第一審ノ裁判所書記之ヲ付與スルヲ通常トシ訴訟記録カ上級審ニ在ルトキハ其裁判所書記之ヲ付與ス(第五一六條)和解抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ裁判カ債務名義タルトキ亦同シ公正證書ハ公證人カ其原本ヲ保存スルヲ以テ公證人執行文ヲ付與ス(第五六〇條)執行文ノ付與ハ記録ヲ調査シテ之ヲ爲スヲ得ヘキヲ以テ特別ノ判斷ヲ必要トスルモノニ非ス故ニ裁判所書記若クハ公證人ノ職務トシタル所以ナリ
(一) 裁判所書記ハ確定判決假執行宣言アル判決抗告ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判執行命令及ヒ和解調書カ債務名義タルトキニ債權者ハ申請ニ因リ執行文ヲ付與スルコトヲ得ヘシ裁判所書記カ判決ニ執行文ヲ付與スル場合ニ於テ(一) 闕席判決カ後ハ判決ニ於テ廢棄セラレタルトキハ後

ハ判決ニ執行文ヲ付與スヘク後ハ判決カ闕席判決ヲ維持スル場合モ亦同シ如何トナレハ後ノ判決ハ闕席判決ヲ維持スルト廢棄スルトヲ問ハス後ノ判決ハ前闕席判決ニ代ルモノナレハナリ假執行宣言アル闕席判決ニ基キ執行ヲ爲サントスルトキハ闕席判決ニ執行文ヲ付スヘキハ論ヲ俟タス
(二) 第一審ハ判決カ第二審ニ於テ變更セラレタルトキハ第二審判決カ債務名義ナルヲ以テ之ニ執行文ヲ付スヘキハ論ナシ第二審判決カ控訴ヲ棄却シタルモノハナルトキハ第一審判決ニ執行文ヲ付スヘキモノナリ如何トナレハ第二審判決ハ第一審判決ニ對スル控訴ヲ棄却スル内容ヲ有スルニ過キサレハナリ上告審ノ判決ニ於ケル關係モ亦同一トス而シテ次ノ場合ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り付與スルコトヲ得ルモノトス
(イ) 債務名義ハ執行カ其趣旨ニ從テ保證ヲ立ツルコト以外ノ條件ニ繫ルトキ即チ債權者カ債務者ニ反對給付ヲ爲シ其他執行ニ付キ停止條件存スルトキハ債權者ハ其條件ノ到來ヲ證明書ヲ以テ證明スルニ非サレハ執行文ノ付與ヲ求ムルヲ得ス(第五一八條)此場合ニ條件到來ノ事實ヲ判斷

スルニハ法律上ノ判断ヲ必要トスルヲ以テ其判断權ハ之ヲ裁判長ノ職權トセリ故ニ裁判長カ條件ノ成否ヲ調査シ執行文付與ヲ許可スル命令ヲ裁判所書記ニ對シテ爲スニ非サレハ付與スルコトヲ得ス(第五二條)但強制執行カ保證ヲ立ツルコトノ條件ニ繋ルカ又ハ期限ノ到來スルニ非サレハ執行ヲ爲スヲ得サルモノナルトキハ之カ調査ハ執行機關ニ於テ之ヲ爲スヲ得ルヲ以テ執行文ノ付與ニ妨ナキモノトス(第五二條)

(ロ) 債務名義ニ表示シタル債權者ハ承繼人ニ執行力アル正本ヲ付與シ又ハ債務者ハ一般承繼人ニ對シテ之ヲ付與スヘキトキハ裁判所書記ハ裁判長ノ命令アルニ非サレハ執行文ヲ付與スルヲ得ス債權者ノ承繼人トハ特定承繼人ヲモ包含ス執行機關ハ執行正本ニ表示セラレタル當事者ニ對シ執行手續ヲ實行スルヲ得ルモノナレハ若シ當事者ノ承繼アルトキハ其承繼人ヲ債務名義ニ表示スルニ非サレハ此等ノ者ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得ス故ニ當事者ノ承繼アルトキハ其承繼人ニ對スル執行文ヲ必要トス已ニ執行文カ債務名義ニ表示セラレタル當事者ニ對シテ

付與セラレタルトキト雖モ亦同シ

右承繼アリタルトキハ承繼人ニ執行文ヲ付與スヘキヤ否ヤハ承繼ノ事實ヲ判断スルノ必要ヲ生ス其判断ハ法律上ノ智識ヲ必要トスルヲ以テ裁判長ニ於テ承繼ノ如何ヲ判断スヘキモノトセリ故ニ承繼アル場合ニハ其承繼明白ナラサルトキハ債權者ヨリ證明書ヲ以テ承繼ノ事實ヲ明カニシ裁判長ハ其事實ノ有無ヲ判断シテ裁判所書記ニ對シ執行文付與ノ許否ヲ命令スヘキモノナリ(第五二條)唯強制執行ヲ開始シタル後ニ承繼アリタルトキハ特別ノ執行文ヲ要セスシテ執行手續ヲ進行スルコトヲ許ス(第五三條)

(ハ) 債權者カ同時ニ執行力アル正本ハ數通ヲ求メ又ハ一度付與セラレタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一執行正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルニ非サレハ裁判所書記ハ之ヲ付與スルコトヲ得ス債權者ハ執行正本ニ基キ同時ニ數個ノ場所又ハ執行方法ヲ異ニシテ強制執行ヲ爲スヲ得ヘク又一度付與セラレタル正本ヲ毀損若クハ滅失シタル場合ニ於テ

再度ノ執行正本ヲ必要トスルコトアルヘシ此場合ニ於テ或ハ債權者ハ
 二重ノ強制執行ヲ爲スノ危険アルヲ以テ數通ノ正本ヲ求ムルトキハ裁
 判長ノ命令アル場合ニ限り付與スヘキモノトセリ(第三條第五二)
 以上三ノ場合ニ限リ裁判長ノ命令ヲ必要トシ裁判長ハ其命令前ニ書面若
 クハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得(第五二條第二項第五六〇條第五二)又數
 通ノ執行力アル正本ヲ付與スル場合ニ債務者ヲ審訊セスシテ裁判長カ許
 可ノ命令ヲ爲シ裁判所書記カ之ヲ付與スルトキハ債務者ニ對シテ之ヲ通
 知スヘク(第五二條第三項)又數通ノ執行力アル正本ヲ付與シ若クハ更ニ之ヲ付與
 シタルトキハ其旨ヲ正本ニ明記スヘキモノトス(第五二條第四項)
 裁判所書記カ債務名義ノ執行力アル正本ヲ付與スル場合ニ於テハ其付與
 以前ニ於テ債務名義ノ原本ニ原告ノ爲メ又ハ被告ノ爲メ執行力アル正本
 ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載セサル可ラス(第五二條第四項)是レ執行力
 アル正本ノ何通ヲ付與シタルヤノ證據ヲ保存スルノ目的ニ出ツルモノナ
 リ第一審ノ判決ニ付テ第二審裁判所ノ書記カ執行文ヲ付與スルトキハ判

決原本ニ之ヲ記載スヘク第二審以上ノ判決ニ付キ第一審ノ裁判所書記カ

執行文ヲ付與スルトキハ其判決ノ認證謄本ニ其旨ヲ記載スヘシ

(二) 公證人ノ作リタル公正證書カ債務名義タルトキハ公證人其執行文ヲ付

與ス執行文ハ記録ヲ保存スル公證人即チ債務名義ノ原本ヲ保存スル公證
 人之ヲ付與スヘキモノナレハ公正證書ヲ作成シタル後其公證人カ退職轉
 職シタルトキハ其業務ヲ承繼シタル者之ヲ付與ス公證人ノ正本數通ヲ必
 要トスルトキハ公證人職務上ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ命令ヲ受ク
 ヘシ(第五六〇條)當事者ニ承繼アリタルトキ若クハ執行力條件ニ繫ルトキ
 即チ第五百十八條第二項第五百十九條ニ該當スルトキハ公證人ハ裁判所
 ノ命令ヲ必要トセスシテ付與スルヲ得ヘク其他ハ裁判所書記カ執行文ヲ
 付與スル手續ヲ準用ス(第五六〇條第五二四條)

第三 執行文ノ文式

執行文ハ債務名義ノ正本ノ末尾ニ記載シ其文式ハ前記ノ正本ハ被告某若ク
 ハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與スルト記載ス

ヘキモノナリ其執行文ハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押捺スヘキ
モノトス裁判所書記カ發スル執行文ハ此方式ニ從フ當事者ノ承繼アルトキ
ハ承繼人ニ對シ若クハ承繼人ノ爲メニ之ヲ付與スト記載スヘク公證人執行
文ヲ付與スル場合ハ原告若クハ被告ノ文字ニ代ユルニ債權者若クハ債務者
ト記載スルニ過キス其他執行文ニ記載スヘキ事項ハ第五百十九條第二項第
五百二十條第三項第五百二十三條第三項ノ事項ヲ裁判所書記又ハ公證人カ
法律ノ規定ニ從テ記載スルコトヲ必要トスル場合ニ限リ之ヲ記載セサル可
カラス(第五一七條、第五六〇條、
第五九條、第五六二條)

第四 執行文付與ニ關スル不服申立

債權者カ裁判所書記若クハ公證人ニ對シテ執行文即チ執行正本ノ付與ヲ求
メタルトキ執行正本ヲ付與シ若クハ付與セサル場合ニ於テハ債權者若クハ
債務者ヨリ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ其場合ヲ述フレハ左ノ如シ
(一) 裁判所書記若クハ公證人カ執行文ノ付與ヲ拒ミタルトキハ其拒絕ノ原
因カ第五百二十條若クハ第五百二十三條ニ依テ裁判長ノ命令ニ因リタル

場合ト其他ノ場合トヲ問ハス債權者ハ執行文付與拒絕ノ處分ニ對シ不服
ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ裁判所書記ノ處分ナルトキハ第四百六十五條
ノ規定ニ依リテ裁判所書記ノ屬スル裁判所ノ裁判ヲ求メ又公證人ノ拒絕
シタル場合ナルトキハ明治十九年司法省令第三號抗告手續ニ依テ公證人
ヲ監督スル地方裁判所ニ對シ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(二) 裁判所書記又ハ公證人カ執行力アル正本ヲ付與シタル場合ニ於テ債務者
者カ其付與ニ付キ不服ナルトキハ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘシ其執行文
ノ付與カ第五百二十條若クハ第五百二十三條ノ場合ニ於テ裁判長ノ命令
ニ因リタル場合ナルトキハ一般ノ場合ナルトヲ問ハス債務者ハ異議ニ依
リ不服申立ヲ爲スヲ得ヘシ其詳細ハ本編第六章第一節ヲ參照スヘシ

第五 執行文付與ハ訴

執行力アル正本ハ裁判所書記若クハ公證人カ債權者ノ申立ニ因テ付與スヘ
キモノナリト雖モ債權者カ第五百十九條及ヒ第五百十八條第二項ニ依リ必
要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ申請ノミニ因リテ執行力アル正

本ノ付與ヲ求ムルコトヲ得ス如何トナレハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニハ承繼ノ事實條件到來ノ事實ハ證明書ヲ以テ證明シタルトキニ限り執行力アル正本ヲ付與スヘキモノナレハナリ此場合ニ於テ債權者ヲ保護スルカ爲メ法律ハ債權者カ訴ヲ以テ執行文ハ付與ヲ求ムル手續ヲ設ケタリ即チ債權者ハ債務者ヲ被告トシテ訴ヲ起シ裁判所ノ判決ニ因リ執行正本付與ハ許可ヲ求ムルコトヲ得ヘシ此訴ハ債務名義カ判決若クハ和解調書其他ノ裁判ナルトキハ第一審ノ受訴裁判所ニ提起スヘク(第五二條)執行命令又ハ訴提起前ノ和解調書カ債務名義ナルトキハ執行命令ヲ發シ又ハ和解ノ成立シタル裁判所其訴ニ付テ管轄權ヲ有ス但執行命令ニ付テハ其訴訟物カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ管轄地方裁判所ニ提起セサルヘカラス(第五六〇條、第五六一條)債務名義カ公正證書ナルトキハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所若シ此裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從テ債務者ニ對シテ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス土地ノ管轄ハ專屬ニシテ(第五六條)訴訟物ノ價額ニ因テ區裁判所若クハ地方裁判所ノ管轄ノ區別アルトキハ一般ノ規定ニ從テ右

ノ訴ニ付テハ債權者原告ニシテ債務者ヲ被告トシ一般ノ判決手續ニ依テ辯論ヲ經テ請求ノ當否ニ付キ判決ヲ求ムルコトヲ得ヘシ原告即チ債權者ノ訴ヲ正當ト認メタルトキハ裁判所ハ執行文ヲ付與スル旨ノ判決ヲ言渡シ其判決カ確定シタル後債權者カ執行文ヲ付與スル職權ヲ有スル吏員ニ其判決ヲ提出シテ執行正本ノ付與ヲ求ムルコトヲ得ヘシ
 執行文付與ハ訴ハ第五百十八條第二項又ハ第五百十九條ノ事項ヲ證明書ヲ以テ證明スルコト能ハサルコトヲ條件トス此場合ニ限リテ提起シ得ヘキ訴ナレハ辯論ノ進行中ニ於テ債務者カ債權者ニ對シテ右等ノ事項ヲ證明スルコトヲ得ヘキ旨ヲ主張シ證據方法等ヲ提出シテ債權者ノ主張ヲ争ヒタルトキハ裁判所ハ其抗辯事實ニ付テ審査ヲ爲シ抗辯ヲ理由アリト認メタルトキハ債權者ノ訴ヲ却下スヘキモノトス
 執行文付與ハ訴ハ確定ハ訴ナリヤ創設ハ訴ナリヤニ付テハ學說ハ分ルル處ナリ或說ニハ執行文ノ性質ハ債權者カ強制執行ヲ爲シ得ヘキコトノ證明ニ過キス執行文ニ依テ債權者カ強制執行ノ權利ヲ取得スルモノニ非ス隨テ執

行文付與ノ訴ハ性質上債權者カ強制執行ヲ爲シ得ル權利ノ存在ヲ確定スルニアルヲ以テ確定ノ訴ナリト主張セリ然レトモ執行力アル正本ハ執行ヲ爲シ得ヘキコトノ證明タルニ止マラス執行力アル正本ハ所持ニ因リ債權者ハ強制執行ヲ實行スル權利ヲ取得スルモノナリ若シ執行力アル正本ナキトキハ假令債權者カ實體上ノ權利ヲ有スルモ強制的ニ執行手續ヲ實行スルヲ得サルモノナレハ執行文付與ノ訴ハ確定ノ訴ニ非スシテ創設ノ訴ト爲スヲ正當ト信ス而シテ此訴ノ訴訟物ハ執行ノ基本タル債務名義ニ於テ承認セラレタル私法的請求權ニシテ執行文付與ノ判決ニ因リ其私法的請求權ニ付キ強制執行權ヲ取得スルニ至ルモノトス

第三節 執行實施ノ條件

第一款 一般條件

強制執行ハ前ニ説明シタル債權名義及ヒ執行力アル正本ノ二ヲ備ヘタルノミニテハ未タ執行ヲ開始スルヲ得ス強制執行ノ當事者執行開始ノ時期ヲ明カニ

シ且強制執行ヲ爲スヘキ旨ヲ債務者ニ知ラシムル爲メ執行開始ニ付テハ總テノ債務名義ニ付キ次ニ述フル條件ヲ必要トス

第一 執行當事者ヲ債務名義若クハ執行文ニ表示スルコトヲ要ス(第五二條)

債務名義カ判決タルト其他ノ證書タルトヲ問ハス第三者ニ對シテ效力ヲ及ホスモノニ非ス故ニ債務名義ニ表示セラレサル第三者ニ對シテハ當事者ノ承繼人タルト否トヲ問ハス執行ヲ爲スコトヲ得ス而シテ債務名義ニ當事者ノ表示ナキトキハ執行機關ハ執行當事者ヲ知ルコト能ハス加之執行當事者カ務債名義ニ依テ確定セラレサルトキハ強制執行ノ手續ハ當事者以外ノ者ニ危害ヲ及ホスノ虞アルヲ以テ債務名義若クハ執行文ニ執行當事者ヲ表示スルコトヲ必要トシタル所以ナリ略言スレハ執行當事者ヲ確定スルノ目的ヨリシテ當事者ノ表示ヲ必要條件トシタルモノトス

第二 債務名義ヲ送達スルコトヲ要ス(第五三條)

債務名義ヲ債務者ニ送達スル目的ハ執行ヲ實施スルコトヲ債務者ニ知ラシムルニ在リ執行前ニ於テ強制執行ヲ實施スヘキコトヲ知ラシムルハ債務者

ノ保護ヲ目的トス判決カ債務名義タルトキハ特ニ送達ヲ必要トセサルコトアリ第一審ノ判決及ヒ第二審ノ判決カ債務名義タルトキハ此等ノ判決ハ不變期間ノ經過ニ由テ確定力ヲ生スルモノナレハ確定前ニ於テ已ニ送達アリタルモノナリ故ニ強制執行ノ開始ノ爲メ特別ニ送達ヲ必要トセス然レトモ言渡ニ因テ確定スル上告審ノ判決ノ如キハ若シ送達ナキトキハ之ヲ豫メ送達スルカ若クハ執行開始ト同時ニ送達スルコトヲ要ス假執行ノ宣言ヲ付シタル判決カ債務名義ナルトキ亦同シ和解調書、公正證書、抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判等モ亦之ニ準スヘキモノナリ執行命令ニ付テハ裁判所ノ言渡ヲ爲ササル決定ナルヲ以テ職權ヲ以テ正本ノ送達ヲ爲スヘク隨テ特ニ執行ノ爲メ送達ノ手續ヲ爲スヲ要セス假差押假處分ノ命令カ債務名義タルトキハ例外トシテ送達前ト雖モ執行ヲ爲スコトヲ得ヘシ第七四五條送達ナクシテ執行ヲ開始シタルトキハ其執行ハ不適法ニシテ債務者ハ第五百四十四條ノ規定ニ從ヒ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ

以上二個ノ事項ハ凡テノ債務名義ニ共通ナル一般ノ條件トス

第二款 特別條件

債務名義ノ内容如何ニ因テ強制執行ヲ開始スルニ付キ特別條件ヲ必要トス即チ左ノ如シ

第一 判決ノ執行カ其判決ノ旨趣ニ從テ債權者ノ證明スヘキ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行カ債務名義ニ表示セラレタル債權者ノ承繼人ノ爲メニ之ヲ爲シ若クハ債務者ノ承繼人ニ對シテ執行ヲ實施スヘキモノナルトキハ債務名義ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ノ送達ヲ必要トシ若シ事實ノ到來又ハ承繼ニ付キ證明者ニ因リ執行文ヲ付與シタルトキハ其證書ノ謄本ヲ債務者ニ執行開始前若クハ執行開始ト同時ニ送達スルコトヲ要ス第五二八條

第二 債務名義ニ於テ請求ヲ主張スルコトカ日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限リテ執行ヲ開始スルコトヲ得ヘシ即チ債務名義ニ債務者カ給付ヲ爲スヘキ期限ヲ定メラレタルトキハ裁判所書記若クハ公證人ハ其期限ノ到來セルト否トニ拘ハラス執行力アル正本ノ付與ヲ爲スコトヲ得ヘシ然

レトモ其期限ノ到來シタル後ニ非サレハ執行ヲ開始スルヲ得サルモノトス
(第五二項)此條件ハ判決カ債務名義タルトキハ原則トシテ適用ヲ見ス如何ト
ナレハ未來ノ給付ニ付キ判決ヲ言渡スハ例外ノ場合ニ屬スレハナリ

第三 強制執行カ債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトヲ條件トスルトキハ債權者カ
保證ヲ立テタルコトニ付キ公ノ證明書ヲ執行機關ニ提出シ且其證明書ノ謄
本ヲ債務者ニ執行開始前ニ送達スルカ又ハ執行開始ト同時ニ送達スルコト
ヲ要ス(第五二項)公ノ證明書トハ即チ供託法ニ所謂供託證書ナリトス

第四 豫備又ハ後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對シテ強制執行ヲ爲サント
スルトキハ其上班司令長官ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り執行ヲ開始スルコト
ヲ得ヘク且其官廳ハ債權者ノ求ニ因テ通知ノ受取書ヲ交付スヘシ(第五三項)

第六章 強制執行ニ對スル保護ノ條件

強制執行ハ前章ニ述ヘタル條件ヲ具備シタルトキ之ヲ實施スヘキモノナリト
雖モ債務者ニ對シ實施セラレタル執行カ債務者ノ權利侵害ノ結果ヲ惹起シ或

ハ第三者ノ權利ヲ侵害スルコトナシトセシテ以テ不法ナル強制執行ニ對シ
債務者若クハ第三者ノ權利ヲ保護スル手段ヲ認めサレヘカラス
債務者ニ對スル保護ハ手段ハ假執行ハ宣言アル未確定ハ請求ニ付キ強制執行
ヲ爲ス場合ハミナラス裁判所カ審理ヲ悉シ且裁判所ハ審級ヲ經テ確定シタル
請求並ニ當事者ノ意思ニ因テ確定シタル請求ニ付テモ亦之ヲ認ムル必要アリ
蓋シ和解調書公正證書ニ因テ確定シタル請求或ハ確定判決ニ因リテ認めラレ
タル請求ニ付テモ請求ノ確定シタル爾後ノ原因ニ基キ之ニ基ク執行ヲ債務者
ニ對シ不法ト爲シ若クハ不當トスルノ事情ヲ生スルコトアルヘキナリ如何ト
ナレハ債權者ノ請求カ判決其他ノ裁判或ハ和解調書公正證書等ニ因テ確定シ
タルトキト雖モ債務者カ其後ニ任意ニ債務ノ履行ヲ爲スカ又ハ債權者カ其履
行ノ延期ヲ許シタル如キ債權者ノ請求權實行ニ付キ事情ノ變更ヲ來シ其他債
務名義ノ成立シタル後ニ債務者ノ爲メニ執行ヲ避クルヲ得ヘキ事實ノ發生ス
ルコトアルヘク加之強制執行カ債權者ノ有スル權利ノ範圍ヲ逸出シテ債務者
ニ損害ヲ加フルコトアルヘキヲ以テナリ此等各種ノ場合ニハ債務者保護ノ爲

メ其強制執行ヲ避ケシメ或ハ損害ヲ防ク手段ヲ必要トス
 強制執行ハ債務名義ニ表示セラレタル債務者ニ對シテノミ實行スルヲ得ヘク
 隨テ執行當事者ニ非サル者ノ財産ニ對シテ實行スルコトヲ得サルハ論ヲ俟タ
 ス然ルニ債權者カ債務者ニ非サル第三者ノ財産ニ對シテ執行ヲ爲シタル場合
 ハ如キハ第三者ハ權利侵害ヲ受クルモノナレハ其執行ヲ排除スル爲メニ第三
 者ハ爲メ保護ノ手段ヲ認メサル可カラズ
 以上ノ場合ニ於ケル保護ノ手段トシテハ債務名義若クハ執行文付與カ不法ナ
 ルトキハ其效力ヲ排斥スヘク執行行爲自體カ不當ナルトキハ其結果ヲ除却ス
 ヘク又ハ將來損害ノ發生ヲ防クカ爲メニ執行手續ノ進行ヲ停止セシメサルヘ
 カラス而シテ右債務者及ヒ第三者ヲ保護スル手段ニ付テハ前述セル強制執行
 ノ條件ヲ規定スル必要アルト同ク亦法律ヲ以テ其條件ヲ規定スヘキナリ是レ
 即チ強制執行ニ對スル保護ノ條件ナリトス
 強制執行ニ對スル保護ノ手續ハ執行手續ノ進行中ニ於テ債務者又ハ第三者カ
 執達吏等ノ執行機關ニ對シテ直接ニ保護ヲ求ムルヲ得セシムルヲ簡便トスト

雖モ法律ハ執行機關ニ對シテハ前述セル如ク執行條件ノ審査ニ付テハ極メテ
 狹少ノ權限ヲ付與セルヲ以テ同一原因ニ因リ執行手續ノ開始以後ニ生シタル
 事情ニシテ手續ノ開始若クハ進行ヲ妨クヘキ原因タル事實ノ審査ヲ爲スコト
 ヲ執行機關殊ニ執達吏ニ任スルコトヲ避ケ執行機關ハ執行開始ニ付テモ形式
 的要件タル執行文ノ存否ヲ審査スルノミナルト同シク執行行爲ノ進行ヲ廢止
 ルニ付テモ亦執行機關ニハ更ニ形式的審査ノ權限ノミヲ與ヘ執行行爲ノ取消
 若クハ停止ニ付テモ特ニ之ヲ命スル裁判所ノ命令ヲ必要トセリ即チ執行行爲
 ハ取消若クハ停止ヲ來スヘキ原因ノ存否ハ凡テ裁判所ニ於テ判斷スヘキモノ
 トシ受訴裁判所カ法定ノ形式ニ依テ審査ヲ爲シ執行機關ハ第五百五十條ニ規
 定シタル書面ノ提出アル迄ハ執行ヲ進行スヘキモノトセリ
 債務者又ハ第三者カ強制執行ノ不法若クハ不當ヲ主張シテ保護ヲ求ムルコト
 ヲ稱シテ執行ニ關スル異議ト謂フ異議ノ主張アリタルトキハ其異議ノ當否ハ
 法律ノ規定ニ依リ裁判所之カ審査ヲ爲スヘキモノナリ異議ニハ左ノ四種アリ
 第一 執行文付與ニ對スル異議 執行文ノ付與ニ付キ債務者カ不服ヲ主張ス

ルコトヲ謂フ(第五二條)

第二 執行方法ニ關スル異議 強制執行ノ開始後ニ於テ執行ヲ實施スル方法又ハ執達吏カ執行ニ付テ遵守スヘキ手續ニ違背シタルコトヲ理由トシテ不服ヲ主張スルコトヲ謂フ(第五四條)

第三 請求ニ關スル債務者ハ異議 判決其他ノ債務名義ニ因リ確定シタル請求ニ付キ債務者カ其請求ノ執行スヘカラサルコトヲ主張スルヲ謂フ(第五四條)

第四 執行ノ目的物ニ關スル第三者ハ異議 第三者カ執行ノ目的物ニ付キ執行ヲ妨クル權利ヲ主張スルコトヲ謂フ(第五四條)

右債務者又ハ第三者ノ異議ハ執行行為ノ全部ノ取消ヲ目的トスルコトアルヘク又ハ執行行為ノ一部ノ取消ヲ目的トスルコトアルヘシト雖モ此等ノ異議ハ裁判ニ因テ其理由アリト認めラレタルトキニ限り其目的ヲ達スルコトヲ得ヘク異議ノ主張ノミニ因リテハ執行行為ノ進行ニ付テ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス唯例外トシテ異議ニ付テ裁判ヲ爲ス權アル裁判所ハ債務者若クハ第三者ノ異議ノ目的ヲ達セシムルニ必要ト認めタルトキニ限り其裁判前假ノ

處分ヲ許ス即チ執行行為ノ停止若クハ取消ヲ假ノ狀態ニ於テ許スヘキモノトセリ(第五四七條、第五四九條)

第一節 執行文付與ニ對スル異議

執行文付與ニ對スル異議トハ執行文カ付與セラレタル後執行文ノ效力ヲ排除スルコトヲ目的トスル債務者ハ不服申立ヲ謂フ執行文若クハ執行力アル正本ハ法定機關ニ於テ執行ニ必要ナル條件ヲ審査シ條件ノ欠缺ナキトキニ限りテ之ヲ付與スヘキモノト規定セルヲ以テ執行機關ハ執行文ノ付與ノ當否如何ヲ審査スル職權ヲ有セサルコトハ已ニ説明セル處ナリ執行機關ハ執行力アル正本ノ提出アリタルトキハ執行ヲ實施スヘキモノナレハ債務者ハ執行文ノ效力ヲ失ハシムルニ於テ法律上ノ利益ヲ有ス法律ハ債務者ノ此利益ヲ保護スル爲メニ二ノ方法ヲ認ム即チ執行文付與ニ對スル異議ノ申立及ヒ執行文付與ニ對スル異議ノ訴是ナリ(第五二六條)

第一款 執行文付與ニ對スル異議ノ申立

第五編 強制執行 第六章 強制執行ニ對スル保護ノ條件 第一節 執行文 一〇七五

第一 執行文付與ニ對スル異議申立トハ、裁判所書記若クハ公證人ハ、執行文付與カ不適式ナル場合ニ債務者カ其效力ヲ失ハシムル爲メ主張スル不服申立ヲ謂フ而シテ異議申立ノ目的ハ強制執行ヲ許サストノ裁判所ノ宣告ヲ得テ執行文ノ效力ヲ失ハシメ強制執行ノ開始ヲ妨ケ若クハ執行開始後ニ於テハ其執行ヲ停止シ且已ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ求メントスルニアリ

異議申立ノ原因トシテハ、執行文ハ付與ニ付キ形式上ハ條件ハ欠缺ヲ主張スルコトヲ要ス即チ執行文付與ニ付テノ手續ノ違背ヲ理由トセサル可カラス例ヘハ假執行ノ宣言ナキ未確定ノ判決又ハ言渡ナカリシ判決ニ執行文ヲ付與シタルカ如キ又執行文ノ付與ニ付テ必要ナル裁判長ノ命令ヲ經サルコト其他當事者ノ承繼カ裁判所ニ明白ナラサルニ拘ハラズ證明書ノ提出ヲ俟タスシテ執行文ヲ付與シタルカ如キ訴訟手續上ノ違背ヲ理由トスル不服申立ナリ此不服申立ハ債務者カ不適式ナル執行文ニ因テ執行ヲ受クルノ義務ナキヲ以テ簡易ナル手續ニ依リ執行文ノ效力ヲ排除スルヲ得セシムル爲メ債務者ノ法律上ノ利益保護ヲ目的トシテ法律カ認メタル所以トス故ニ債務者

カ異議ノ訴其他ノ不服ヲ主張スルコトヲ得ルニ拘ハラズ執行文付與ニ付テモ亦異議ヲ主張スルコトヲ得ヘキナリ

第二 異議申立ハ執行文ノ付與アリタル後ハ執行ノ開始前後ヲ問ハズ執行ハ完結ニ至ル迄ハ之ヲ爲スヲ得ヘク其手續ハ執行文ヲ付與シタル裁判所書記ハ屬スル裁判所ニ書面ヲ提出シテ之ヲ爲ス執行文ノ付與カ裁判長ノ命令ニ因ルト又裁判所書記カ專行シタル場合トヲ問ハズ凡テ書記所屬ノ裁判所ニ提出スヘシ（第五二條第一項）公證人カ執行文ヲ付與シタルトキハ公證人職務上ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス（第五六條第二項）

異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ口頭辯論ヲ經若クハ書面審理ニ因リ決定ノ形式ヲ以テ裁判ス裁判所カ異議ヲ理由アリトスルトキハ執行文ヲ取消シ且強制執行ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ爲スヘク其決定カ確定スルトキハ執行文ハ其效力ヲ失フモノトス然レトモ債權者ハ同一債務名義ニ對シテ更ニ正當ノ手續ニ依リ執行文ノ付與ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ又債權者ハ裁判所ノ決定ニ對シ即時抗告ニ依リ不服ヲ申立ツルヲ得ヘシ債務者ノ異議申立カ理由

ナカリシトキハ裁判所ハ其申立ヲ決定ヲ以テ却下スヘク却下ノ決定ニ對シテハ債務者カ即時抗告ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第五五條)

第三 異議ハ申立アルモ執行手續ハ當然停止スルモノハ非ス故ニ債權者ハ其執行文ニ基ク執行ヲ開始シ若クハ續行スルコトヲ得ヘキナリ然レトモ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ノ裁判長ハ其裁判前假ノ處分ヲ爲スコトヲ得即チ債務者ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ノ一時停止ヲ命シ又ハ債權者ニ保證ヲ立テシメテ強制執行ノ續行ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第五二條)所謂一時トハ裁判所ヲシテ適當ノ時期ヲ定メシムル法意ナリトス

第二款 執行文付與ニ對スル異議ノ訴

第一 執行文付與ニ對スル異議ハ訴トハ執行文付與ノ際執行ノ條件ト爲ル事實ノ到來ヲ證明シタリト認メラレタルコトヲ爭ヒ又ハ當事者ニ承繼アリト認メラレタルコトヲ爭ヒ執行文ノ效力ヲ失ハシムル爲メ債務者カ債權者ヲ被告トシテ提起スル訴ヲ謂フ(第五四條)

債務名義ノ執行カ其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件

ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限り執行文ヲ付與スルコトヲ得ヘク(第五一八條)又當事者ノ承繼アリタルトキハ其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證シタルトキニ限り承繼人ニ對シ執行文ヲ付與スルコトヲ得ヘキナリ(第五一九條)右條件到來ノ事實若クハ承繼ノ事實現在セサルニ拘ハラズ執行文ノ付與アリタルトキ其執行力アル正本ニ基ク強制執行ハ債權者ノ權利ヲ侵害スルモノナレハ債務者ハ其執行文ノ效力ヲ失ハシムルニ於テ法律上ノ利益ヲ有スルモノナリ而シテ債權者カ條件ノ到來又ハ承繼ノ事實ヲ證明スル能ハサルトキハ訴ヲ以テ執行文ノ付與ヲ求ムルト同ク執行文ヲ排斥スルニ付テモ訴ノ方式ニ依ラシメタル所以トス

第二 執行文付與ニ對スル異議ノ訴ハ實體上ノ執行條件ノ欠缺ヲ主張スルモノナリ即チ請求權ヲ實行スヘキ條件タル事實ノ到來セサルコトヲ主張シ若クハ債權者ノ承繼人ニ非サル者ヨリ債務名義ノ内容タル請求權ヲ實行セラハヘキ義務ナキコトヲ爭ヒ又ハ債務名義ニ表示セラレタル債務者ノ相續人

ニ非ナルヲ以テ債務ヲ承繼スヘキニ非ナルコトヲ主張シ以テ債務名義ノ内容タル請求權ハ實行ヲ排斥セントスル訴ナリ故ニ此訴ノ訴訟物ハ債務名義ニ表示セラレタル私法の請求權ニシテ其請求權ニ付キ付與セラレタル執行文ニ基ク強制執行ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ求ムルコトヲ目的トスルモノナリ」
 此訴カ確定ノ訴ナリヤ創設ノ訴ナリヤニ付テハ學說岐ル曰ク執行文付與ニ對スル異議ノ訴ハ付與セラレタル執行文ニ基ク強制執行權ナキコトヲ確定スルモノナレハ創設ノ訴ニ非スシテ確定ノ訴ナリト然レトモ債權者ノ執行文ノ付與ニ因リ債務名義ニ基ク強制執行權ヲ取得シ執行文ノ付與カ不法ナルトキト雖モ異議ニ因リ執行文カ取消サル迄ハ債權者ハ執行ヲ開始シ若クハ續行スルコトヲ得ルモノナリ而シテ異議ハ訴ニ因リ其執行文ニ基キテハ強制執行ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ得テ執行文ノ效力カ消滅スルトキハ債權者ハ既往ニ遡リ強制執行權ヲ喪失スルニ至ルモノナレハ創設ノ訴ナリトスルヲ正當ト信ス

第三 執行文付與ニ對スル異議ハ訴ハ第一審ハ受訴裁判所ハ管轄ニ專屬ス(第五條)

第四六條第五四五) 和解調書抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判カ債務名義ナルトキハ其債務名義ノ成立シタル裁判所ヲ以テ管轄トシ(第五五條第五六〇條) 執行命令ニ付テハ執行命令ヲ發シタル區裁判所又ハ訴訟物ノ價額ニ因リ其上級地方裁判所トス公證人ノ作成シタル公正證書カ債務名義ナルトキハ債務者ノ普通裁判籍アル地ノ裁判所又ハ第十七條ノ裁判所之ヲ管轄ス(第五六二條)

第四 執行文付與ニ對スル異議ハ訴ニ於テハ債務者ハ其訴ニ於テ主張スルコトヲ得ヘキ總テハ異議ノ原因ハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス(第五四六條第三項) 同時ニ主張スヘシトハ妨訴抗辯提出ニ關スル條件ト同シク異議ノ訴ニ付テノ第一審ノ口頭辯論終結前ニ主張スヘキコトヲ強制シタルモノナリ蓋シ一旦異議ノ訴ニ付キ判決アリタル後債務者カ前ニ覺知セル原因ニ基キ更ニ異議ノ訴ヲ許スモノトセハ訴訟ノ遅延ヲ來シ債權者ノ執行ヲ徒ラニ遅延セシムル弊害アルヲ以テナリ然レトモ提起ノ際ニ主張セサリシ異議ノ原因ヲ新タニ口頭辯論ニ於テ主張スルトキハ訴ノ原因ノ變更ヲ惹起スヲ以テ

相手方ノ同意ナキトキハ其原因ニ付キ判決ヲ受クル能ハサルニ至ルヘシ
異議ノ訴カ理由ナシトシテ排斥セラレタルトキト雖モ債務者ノ過失ニ非ス
シテ前訴ニ於テ提出シ能ハサリシ新原因ニ基キ更ニ異議ノ訴ヲ提起スルコ
トハ法律ノ禁スル處ニ非ス

第五 執行文付與ニ對スル異議ハ訴ハ執行文ハ付與アリタル後執行ノ完結ニ
至ル迄ハ提起スルコトヲ得ヘシ執行文付與アリタル後ハ執行開始前ト雖モ
執行文ノ效力ヲ消滅セシムル利益アリ然レトモ執行完結スルトキハ執行文
ノ效力ヲ消滅セシムルニ利益ナキヲ以テ此訴ヲ許サス而シテ執行文付與ニ
對スル異議ハ訴ヲ提起スルモ執行文付與ニ對スル異議ハ申立其他請求ニ關
スル異議ハ訴ハ提起ヲ妨クルモノハニ非ス(第五四條)然レトモ債權者カ第五百二
十一條ニ因リ執行文付與ノ判決ヲ受ケ其判決確定セルトキハ異議ノ訴ニ於
テ一事不再理ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘシ

第六 執行文付與ニ對スル異議ノ訴ノ提起アルモ強制執行ノ開始續行ヲ妨ク
ルモノニ非ス然レトモ債務者ノ申請ニ因リ強制執行ノ停止若クハ取消ヲ命

スルコトヲ得ヘシ(第五四條)本章第三節ヲ參照スヘシ

第二節 執行方法ニ關スル異議

執行方法ニ關スル異議トハ強制執行ノ方法若クハ執行ニ際シ執達吏ハ遵守ス
ヘキ手續ニ付キ利害關係人カ爲ス不服申立ヲ謂フ(第五四條)

強制執行ノ方法トハ執行裁判所ノ爲スモノナルト執達吏ノ爲スモノナルトヲ
問ハス強制執行ノ手段ヲ謂フ執達吏カ有體動産ヲ差押フルニ際シ之ヲ占有ス
ルカ若クハ債務者ノ保管ニ任スルカ如キ(第五六條)既ニ差押ト爲リタル物ニ付テ
ハ照査手續ヲ爲スヘキカ如キ(第五八條)債權ニ對スル強制執行ニ於テ執行裁判所
カ差押命令轉付命令取立命令ヲ爲スカ如キ不動産ニ付キ強制競賣強制管理ノ
決定ヲ爲ス如キ(第五九條、第六四條、第六〇條)之ニ屬ス執達吏ノ遵守スヘキ手續トハ執達
吏ノ實施スル執行行為ニシテ執行方法ニ屬セサルモノヲ謂フ右等ノ執行方法
若クハ執行行為ニ付キ法律違背ヲ理由トシ不服ヲ主張スルコトヲ執行方法ニ
關スル異議ト謂フ故ニ此異議ハ實體上ノ權利ヲ主張スルモノニ非スシテ形式

異議ヲ申立ツルコトヲ得ル者ハ債權者債務者其他執行ニ利害關係ヲ有スル者トス異議ノ形式ハ執行裁判所ニ申請ヲ以テ爲スヘク強制執行ハ開始後其完結ニ至ル迄ハ何時ニテモ申請スルヲ得ヘシ執行裁判所ハ書面審理若クハ口頭辯論ヲ經テ其當否ヲ裁判ス異議ノ申立アルモ執行行為ハ當然之ヲ停止スヘキニ非ス然レトモ執行裁判所ハ異議ニ付テノ裁判前ニ假ニ申請人ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ノ一時停止ヲ命シ又ハ債權者ニ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行スヘキコトヲ命スルコトヲ得第五四二條第一項強制執行ノ方法ニ屬スル執行裁判所ノ裁判ニ對シテ異議ヲ許スヘキヤ否ヤニ付キ學說岐ル

第一說 執行裁判所ハ裁判ニ對シテハ異議ヲ許サス如何トナレハ執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ第五三三項強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツヘキモノナレハナリト第五五條謂フニ在リ

第二說

執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ルモノナレハ強制執行ノ方法ニ屬スル裁判ト雖モ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ第五五條然レトモ第五百四十四條ニ於テ異議ヲ許スヲ以テ利害關係人ハ何レノ方法ニ依ルモ選擇ニ從ヒ不服ヲ申立ツルヲ得ヘシト謂フニ在リ

右二說ハ何レモ贊成スル能ハス民事訴訟法ノ原則トシテ裁判ニ對シ當事者ニ二様ノ不服申立ヲ許ササルモノトス蓋シ裁判ノ變更ヲ求メントスルニハ一個ノ救濟方法ヲ以テ足ルモノナレハナリ故ニ第二說ハ法文ノ字句ニ拘泥シテ法理ヲ無視シタル解釋ナリ又第一說モ解釋ヲ誤レルモノナリ第五百五十八條ハ一般ノ規定ナリ裁判ノ内容如何ヲ問ハス即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキコトヲ規定シタルモノナリ然ルニ第五百四十四條ハ強制執行ノ方法ト規定セルヲ以テ制限ノ規定ト解スヘキモノナレハナリ右ノ如クナルヲ以テ執行裁判所ノ裁判ト雖モ強制執行ノ方法ニ屬スルモノニ付テハ異議ニ因リテハミ不服ヲ申立ツルヲ得ヘク異議ニ付キ爲シタル裁判ニ不服ナル者ハ第五百五十八條ニ因リ即時抗告ヲ申立ツルヲ得ヘキモノトス大判一三九四頁

右ノ外執達吏カ執行委任ヲ受クルコトヲ拒ミ又ハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキハ債權者ハ執行裁判所ニ不服ヲ申立ツルヲ得ヘク又執達吏ノ計算セシ手数料ニ付キ異議アリタルトキハ債權者若クハ債務者ハ執行裁判所ニ對シテ不服ヲ主張スルヲ得ヘシ(第五四項)

第三節 請求ニ關スル債務者ノ異議

債務者ハ強制執行ノ基本タル債務名義ヲ排除スルコトニ依リテ強制執行ヲ避クルコトヲ得即チ強制執行ノ基本タル債務名義ヲ取消サルトキハ已ニ執行ヲ開始シタルト否トヲ問ハス強制執行ヲ止メシムルコトヲ得ヘシ此目的ヲ達スル手段トシテハ既ニ成立シタル執行シ得ヘキ裁判即チ債務名義ヲ同一訴訟手續ニ於テ取消スコトヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得ヘク即チ假執行ノ宣言ヲ付セラレタル下級審ノ判決ヲ上訴ニ依テ廢棄スル上級審ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ルカ如キ又證書訴訟手續ニ於テ言渡サレタル留保判決ヲ其後ノ手續ニ於テ廢棄スル判決ヲ求ムルコトヲ得ルカ如キ是ナリ又確定判決ヲ得タル請求ニ

付テモ再審ノ訴ヲ提起シテ之ニ因テ確定判決ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ右等債務名義ノ取消ハ執行ニ付テ債務者ヲ保護スル手段ナリト雖モ右等ノ方法ノミヲ以テハ債務者保護ノ道ヲ全フスルヲ得ス如何トナレハ債務名義カ確定的ニ成立シタル後ニ於テ債務名義ノ内容タル請求權カ或原因ニ因リ消滅シ若クハ請求權ノ實行ヲ妨クル事情ヲ生スルコトアレハナリ是ニ於テカ已ニ爭ナク成立シタル債務名義カ其後ニ至リ當事者間ノ事情ニ適合セス隨テ執行ヲ許スニ適セサルニ至リタル場合ニ於ケル保護トシテ特種ノ手段ヲ認メタリ請求ニ關スル異議ノ訴是ナリ前述セル假執行宣言ノ取消竝ニ再審ノ手續等ハ已ニ存在セル債務名義ニ付キ或訴訟上ノ欠缺ヲ主張シテ其不當ヲ責メ或ハ實體法上ニ於ケル不當ノ理由ヲ主張スルモノナリト雖モ茲ニ請求ニ關スル異議トシテ認ムル手段ハ債務名義ノ成立ニ付テ欠缺ヲ主張スルニ非ス正當ニ成立シタル債務名義カ其成立後ノ原因ニ因リ執行ニ適セサルニ至リタル事情ヲ主張スルモノナリ而シテ此異議ノ主張ハ債務者カ原告トシテ債權者ニ對シ訴ノ方式ニ依テ爲スヘキモノトス

第一 請求ニ關スル債務者ハ異議ノ訴トハ債務名義ニ因リ確定シタル請求ニ付キ其債務名義成立以外ノ原因ニシテ強制執行ヲ排除スルニ足ルモノニ基キ強制執行ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ求ムル訴ヲ謂フ(第五四條)故ニ異議ノ訴ハ債務名義ノ内容タル請求自體ニ對スルコトヲ要シ且債務名義ヲ構成スル訴訟手續中ニ於テ債務者カ主張スルコトヲ得サル原因ニ基キ債務名義ニ於テ承認セラレタル請求權ノ不成立ヲ主張スルモノトス即チ左ノ如シ

(一) 判決其他ノ債務名義ニ因リ確定シタル請求ニ對スルコトヲ要ス 確定セサル請求ナルトキハ債務者ハ故障若クハ上訴ニ因リ其債務名義ヲ排除スルヲ得ヘケレハナリ

(二) 異議ハ原因カ債務名義ノ構成セラレル口頭辯論ノ終結後ニ發生シタルコトヲ要ス 即チ判決カ債務名義ナルトキハ其判決ニ接着スル口頭辯論終結後ニ異議ノ原因ノ發生シタルコトヲ要ス但其判決カ關席判決ナルトキハ辯論終結後ノ原因ト雖モ若シ故障ヲ以テ不服ヲ主張シ得ルモノハナルトキハ之ヲ許サス(第五四條第五項)口頭辯論終結ニ至ル迄ハ各當事者ハ攻撃若ク

ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得ルハ第二百九條ニ規定セルヲ以テ其辯論終結前ニ主張シ得ヘカリシ原因ハ若シ辯論ニ於テ主張セザリシトキハ之ヲ拋棄シタルモノト看做スヲ妨ケス是レ辯論終結後ノ原因ヲ必要トシタル所以ナリ又故障ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ關席判決ニ付テハ故障申立ヲ爲ストキハ其審級ニ於テ更ニ無條件的ニ審理セラルルモノナレハ特ニ故障ニ依テ主張スルコトヲ得サル場合ニ限リテ異議ノ理由トスルコトヲ許シタル所以ナリ訴訟カ上告審ニ繫屬シ上告裁判所ノ判決ニ因テ執行シ得ヘキ判決カ確定スルニ至リタルトキハ異議ノ原因カ控訴審ノ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結後ニ發生シタルコトヲ以テ足ル如何トナレハ上告裁判所ニ於テハ新事實ノ提出ヲ許ササルヲ以テナリ判決以外ノ債務名義ニ付テハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ニ付テハ其裁判ハ成立以後ニ異議ノ原因ノ發生シタルコトヲ要シ執行命令ハ之ヲ送達シタル後和解調書ハ和解ノ整ヒタル後ニ異議ノ原因ノ發生シタルコトヲ必要トス公證人ハ公正證書カ債務名義タルトキハ斯ハ如キ制限ナシ(第五六條)

二項第五項(六)執行命令ノ送達ヲ標準トスルハ送達前ノ異議ノ原因ハ故障ヲ以テ主張スルコトヲ得ヘケレハナリ又公正證書ニ制限ナキハ裁判所ノ行為即チ私權ノ存否ヲ確定スル手續ニ因リテ作成セラレタル債務名義ニ非サレハナリ

(三)

異議ハ原因ハ實體法上ノ理由ニ基カサル可カラス 例ヘハ債務ノ履行又ハ免除更改等請求權ヲ消滅セシムヘキ原因若クハ債權者カ請求權ノ實行ニ付テ延期ヲ爲シタル如キ請求權實行停止ノ原因ヲ主張スルコトヲ要ス

(四)

異議ノ原因數個アルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス 執行ノ基本タル請求ニ付キ債務者カ數個ノ異議ノ原因ヲ主張セントスルニハ訴ノ提起ニ際シ同時ニ之ヲ主張セサルヘカラス是レ執行ノ遅延ヲ防止スル目的ニ出ツ蓋シ異議ノ原因ヲ漸次ニ主張スルコトヲ許ストキハ債權者ノ爲メニ執行ヲ遅延スル弊害アルヲ以テナリ故ニ債務者カ異議ノ原因數個ヲ有スルトキハ最初一個ノ原因ヲ主張シ敗訴ノ判決ヲ受ケタル後更ニ他ノ原因ニ基キ訴ヲ提起スルコトヲ許サス訴ノ提起後ニ於ケル口頭辯論ニ於

テ異議ノ原因ヲ附加スルコトハ訴ノ原因ノ變更ナリ故ニ第二審ニ於テ之ヲ許ササルコトハ明カナリト雖モ第一審ニ於テハ被告ノ承諾アルトキハ之ヲ許ス如何トナレハ異議ノ原因ヲ同時ニ主張スヘキコトヲ要スルハ妨訴抗辯ヲ同時ニ提出スヘシトノ法意ト同シク數個ノ異議ノ原因ヲ一切ニ終局セントノ目的ニ外ナラサレハナリ從テ債務者カ數個ノ異議ノ原因ヲ認識セルニ拘ラス最初一個ヲ主張シタルトキハ訴ノ原因ノ變更ノ許サレサル限リハ他ノ異議ノ原因ハ之ヲ主張スル權利ヲ喪失スルモノトス裁判所ハ職權ヲ以テ債務者カ異議ノ原因ヲ主張スル權利ヲ喪失セリヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス換言スレハ債務者カ異議ヲ主張スル權利アリヤ否ヤハ裁判所ノ職權調査ノ事項ニ屬スルモノトス 然レトモ異議ノ原因カ異議ノ訴ノ提起後ニ生シ若クハ債務者カ認識シタルモノナルトキハ之レニ基キ債務者ハ異議ノ訴ヲ提起スル權利ヲ喪失スルモノニ非ス前訴ノ繫屬中ト雖モ新原因ニ基キ更ニ訴ヲ提起スルヲ得ヘキナリ

第二

請求ニ關スル債務者ノ異議ノ訴ハ其訴提起ノ要件并ニ效力ハ他ノ一般ノ訴ト異ナルコトナシト雖モ其目的ハ執行ノ基本タル債務名義ニ基ク執行ヲ許サストノ判決ヲ求ムルニアルヲ以テ普通ノ訴トハ次ニ述フル點ニ於テ差異アリ

(一) 異議ハ、訴ハ、債務名義ハ基本タル訴ハ第一審ハ受訴裁判所ニ提起スルコトヲ要ス(第五四五項)事物及ヒ土地ノ管轄ニ付キ執行セラルヘキ裁判力上級裁判所ニ於テ言渡サレタルト否トヲ問ハス常ニ本訴ニ付テノ第一審ノ受訴裁判所ノ專屬管轄トス(第五五六條)債務名義カ確定判決ナルト若クハ其他ノ裁判ナルトヲ問ハス其裁判ノ成立シタル第一審裁判所ノ管轄ニ屬ス唯執行命令ハ其命令ヲ發シタル區裁判所ノ管轄ナリト雖モ其訴訟物ノ價額カ區裁判所ニ屬セサルトキハ執行命令ヲ發シタル區裁判所ノ上級地方裁判所之ヲ管轄シ(第五五六條)公證人ノ作成シタル公正證書ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍若クハ第十七條ノ裁判籍アル地ノ裁判所ノ管轄トス(第五五六條)和解調書ニ付テハ和解ノ成立シタル裁判所之ヲ管轄ス(第五五九條)

(二)

異議ハ、訴ハ、強制執行ハ開始後ニ提起スルコトヲ得ヘキハ學說ハ一致スル處ナリ唯債務名義ノ成立後強制執行手續ハ開始前ニ提起スルコトヲ得ルヤニ付テハ學說岐ルト雖モ異議ハ、訴ハ、強制執行ハ排除ヲ目的トスルモハニシテ即チ開始セラレタル執行ハ結果ヲ除却スルコトヲ目的トスルモハナレハ開始以前ニ於テハ此訴ヲ許スヘキニ非ス執行開始後ニ限リ債務者ハ執行ヲ許サストノ宣言ヲ求メテ其判決ニ因リ將來ノ執行行為ヲ停止シ且已ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第五五〇條)強制執行ノ終了シタル後ニ在テハ異議ノ訴ハ之ヲ許サス如何トナレハ執行排除ノ目的ヲ失フモノナレハナリ或說ニハ執行開始前ト雖モ異議ノ訴ヲ許スト爲スモハアリ其理由トスル處ハ執行異議ノ訴ハ抽象的ニ強制執行ヲ許ササルコトノ宣言ヲ求ムルヲ目的トシ具體的ニ執行處分ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ受クルコトヲ目的トスルモノニ非スト云フニアリ然レトモ執行ノ異議ハ不法若クハ不當ノ執行ニ對シ債務者若クハ第三者カ權利ヲ侵害セラルルコトヲ救済スル手段トシテ立法上認めラレタルモノナリ換言スレ

ハ執行ニ基ク私權ノ侵害ヲ救済スル手段ナリ執行開始前ニ在テハ執行ニ基因スル私權ノ侵害ナキヲ以テ前第一ニ述ヘタル條件ヲ具備スルコトヲ要スル異議ノ訴ヲ許ス必要ナシ債務者ハ普通ノ消極的確認ノ訴ヲ以テ債權者ノ權利ノ不在ヲ確定シ得ヘキナリ

(三) 異議ハ訴ハ訴訟物ハ債務名義ハ内容タル請求權ナリ故ニ異議ノ訴ハ進行中ニ強制執行ノ手續完結シテ異議ノ目的ヲ達スル能ハサルニ至リタルトキハ第九十六條第三號ニ依テ最初求メタル物ニ代ヘ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ又債務者ハ異議ノ訴ヲ起サスシテ執行完結ニ至リタルトキハ民法ノ規定ニ從テ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得可キハ當然ナリ故ニ強制執行力不當ナリシ場合ニ債務者カ其救済ヲ求ムル手段ヲ異議ノ訴ニ限定シタルニアラスト雖モ執行完結以前ニ在テ執行ヲ避ケシムルカ爲メ異議ノ訴ヲ認メタルモノトス而シテ異議ノ訴ノ訴訟物ハ債務名義ニ表示セラレタル請求權ナリト雖モ異議ノ訴ハ其請求權ニ基キ強制執行ヲ許ササル旨ノ宣言即チ強制執行ヲ爲ス權ナキコトハ確定ヲ求ムル訴即チ消極

的確定ノ訴ナリトス

(四) 債務者ハ異議ノ訴ニ於テ異議ノ原因ヲ證明セサルヘカラス 異議ノ訴ニ於テハ債務者ハ執行ニ依リ自己ノ私權ヲ侵害セラレタルコトヲ主張ス

ルモノナレハ一般舉證責任ノ原則ニ依リ訴ノ正當ナルコト即チ異議ノ原因ノ理由アルコトヲ證明セサルヘカラス或說ニハ債權者ニ於テ執行ノ正當ナルコトヲ證明スヘキ責任アリトセリ然レトモ總テ訴ニ於テハ權利ヲ主張スル者證明ノ責任アルヲ原則トシ異議ノ訴ニ付キ其例外ト認ムヘキ規定ナキ以上ハ一般ノ法則ニ依リ債務者ニ於テ執行ノ不法ナルコトヲ證明スル責任アリト爲スヘキナリ(大判三九四)

以上説明シタル異議ノ訴ノ提起ニ因リ執行手續ハ進行ヲ止ムルモノニアラス(第五四七)唯債務者ノ申請ニ因テ執行ノ停止ヲ命スル裁判ヲ求ムルコトヲ得ヘシ即チ異議ノ訴ニ付テノ受訴裁判所ハ債務者カ異議ノ爲メ主張シタル狀況カ法律上理由アリト見ヘ且債務者ノ主張事實ニ付テ説明アリタルトキハ異議ノ訴ニ付テ爲スヘキ判決ニ於テ更ニ他ノ命令(第五四八)ヲ發スルコトヲ條件トシテ

異議ノ訴ノ判決言渡ニ至ルマテ次ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(一) 債務者ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ債權者ニ強制執行ヲ停止スヘキコトヲ命スルコト

(二) 債權者ニ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行スルコトヲ命スルコト

(三) 債務者ニ保證ヲ立テシメテ已ニ爲シタル執行處分ノ取消ヲ命スルコト

右三ノ方法ニ依テ執行ノ停止若クハ取消ヲ命スルヲ得ヘク其手續ハ債務者ノ申請ニ因テ受訴裁判所ノ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニハ受訴裁判所ノ裁判長其裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ又急迫ナル場合ニハ執行裁判所モ此裁判ヲ爲スヲ得ヘシ但執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ債務者ニ求メシムル爲メ相當ノ期間ヲ定ムヘシ若シ期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因テ強制執行ヲ續行スルコトヲ得ルモノトス(第五四七條第一項第二項)

右執行停止若クハ執行處分ヲ取消スヘキ裁判ヲ爲シタルトキハ受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付テ裁判スル判決ニ於テ右ノ命令ヲ取消變更認可スルコトヲ得ヘク又前ノ命令ヲ發セサルトキハ裁判所ハ異議ノ訴ノ判決ニ於テ新タニ其命令

ヲ發スルコトヲ得ヘシ而シテ此等ノ命令ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキナリ(第五四八條)若シ異議ノ訴ノ判決ニ於テ右ノ命令ヲ發セサルトキハ曩ニ爲シタル命令ハ其判決ノ確定ニ至ル迄效力ヲ有スルモノトス

第四節 執行ノ目的物ニ關スル第三者ノ異議

債務名義ノ效力ハ之ニ表示セラレタル債務者ニ對シテノミ效力ヲ有ス故ニ債務名義ニ表示セラレタル債務者ノ財産ニ對シテノミ強制執行ヲ實行スルコトヲ得シ然ルニ債權者又ハ執行機關ノ故意若クハ過失ニ因リ第三者ノ財産ニ對シテ執行ヲ實施スルトキハ第三者ハ權利ノ侵害ヲ受クヘキヲ以テ第三者ヲ保護スル爲メ執行ニ關シ異議ヲ主張スルコトヲ許ス執行ノ目的物ニ關スル第三者ノ異議是ナリ一ニ之ヲ執行參加ト謂フ

第一 執行ノ目的物ニ關スル第三者ハ異議トハ強制執行ノ目的物ニ關シ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ有スル第三者カ其目的物ニ付キ強制執行ヲ許サ

ナル旨ノ宣言ヲ求ムル訴ナリ(第五四條)第三者トハ債權者若シハ債務者ニ非サル者ヲ謂ヒ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ハ物權ナルト債權ナルトヲ問ハス執行ヲ排斥スルニ足ル權利ナリ此訴ハ執行ノ目的物ニ付キ實體上ノ權利ヲ主張スル訴ニシテ其訴訟物ハ讓渡若クハ引渡ヲ妨クルコトヲ得ル第三者ノ權利ナリ其權利ノ存在ヲ確定シ強制執行ヲ許ササル旨ノ宣言ヲ求ムル消極的確定ノ訴ナリトス

第二 異議ハ訴ニ於テハ債權者ヲ被告ト爲ササルヘカラス若シ債權者ニ承繼アリタルトキハ其承繼人ヲ被告ト爲スヘク又多數債權者カ各自其債權ノ爲メニ執行シタルトキハ共同訴訟トシテ多數債權者ヲ被告トスヘキナリ而シテ第三者カ執行ノ目的物ニ付キ自己ノ權利ヲ主張セントスルトキ債務者カ之ヲ争ヒタルトキハ別訴訟ヲ以テ第三者ハ自己ノ權利ヲ保全セサルヘカラス斯ル場合ニハ債權者ニ對スル執行異議ノ訴ト債務者ニ對スル訴(其目的物ノ引渡ヲ求ムルカ又ハ法律關係ノ成立若クハ不成立)ト併存スルニ至ルヘシ此二者ノ訴ハ執行ノ排除ヲ目的トスルモノト私權ヲ主張スルモノト二者其

原因ヲ異ニシ第四十八條ノ要件ニ適セサルヲ以テ債務者及ヒ債權者ヲ共同被告トスルヲ得ス然レトモ法律ハ二者ノ訴ニ付キ辯論裁判ヲ併合スルコトヲ便宜トシ此兩訴ヲ併合スルコトヲ許セリ然レトモ此訴ハ民事訴訟法第五十條ノ必要的共同訴訟ニ非ス如何トナレハ債權者ニ對スル訴ト債務者ニ對スル訴トハ其目的及ヒ原因ヲ異ニシ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキモノニ非サレハナリ

第三 異議ハ訴ハ強制執行ノ開始後完結前ニ限り提起スルコトヲ得ヘク異議ハ訴カ適法ニ繫屬シタル後其訴訟進行中執行完結ニ至リタルトキハ原告ハ第九十六條第三號ニ依リ賠償ノ請求ニ變更スルヲ得ヘシ如何トナレハ異議ノ訴ノ訴訟物ハ執行ノ目的物ニ付キ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ナルヲ以テ之ヲ賠償ノ請求ニ變更シ得ヘキヤ當然ナリトス

第四 異議ハ訴ハ管轄裁判所ハ原則トシテハ執行裁判所トス然レトモ訴訟物カ區裁所判ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄トス(第五四條第三項)

第五 異議ハ、訴ハ提起ニ因リ強制執行ヲ停止スヘキニ非ス債務者ノ異議ノ訴ニ付テ説明セル處ト同ク強制執行ノ停止及ヒ取消ニ付キ特別ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘシ但執行處分ノ取消ヲ命スルニハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得又異議ノ訴ノ判決ニ於テ新タニ執行ノ停止若クハ執行處分ノ取消ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得ヘシ(第五四九條第四項、第五四八條)

第五節 執行ノ停止及制限

強制執行ハ執行裁判所ノ行爲ニ屬スルト又執達吏ノ行爲ニ屬スルトヲ問ハス債權者カ執行力アル正本ニ因テ執行機關ニ適法ニ申立ヲ爲ストキハ執行機關ハ執行手續ヲ開始シ一タヒ手續ヲ開始シタルトキハ法律ノ規定ニ從テ手續ヲ進行スヘク假令債務者若クハ第三者カ異議ノ申立ヲ爲シ又異議ノ訴ヲ起スモ之カ爲メ手續ヲ中止セサルヲ原則トス然レトモ強制執行ハ性質タル債權者ハ私權實行ヲ保護スルモノナレハ法律ノ規定ヲ俟タズ債權者ハ執行手續ハ取下中止若クハ一部ハ中止即チ制限ヲ求ムルコトヲ得ヘシ又債務者カ執行手續ノ

開始後破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ強制執行ノ手續ハ中止セラレ財産ハ破産財團ニ編入セララルヘキモノナリ(第九八七條)故ニ債權者ヨリ執行ノ中止制限若クハ取下ノ申立ナク又ハ債務者ノ破産ノ場合ヲ除キ執行手續ハ常ニ進行スヘキモノトス然レトモ法律ハ債務者若クハ第三者保護ノ爲メ強制執行ノ實施ヲ停止シ若クハ制限スヘキコトヲ規定セリ前ニ述ヘタル如ク債務者若クハ第三者ノ異議ニ因リ執行力アル正本ノ效力ヲ失ハシメ若クハ強制執行ノ排除ヲ許スヲ以テ開始シタル執行手續ノ停止若クハ制限ヲ許サレハ債務者若クハ第三者ヲ保護スルノ途ヲ完フスルモノニ非サレハナリ

停止トハ執行手續ハ全部ヲ停止スルコトヲ謂ヒ制限トハ一部ハ停止ヲ謂フ又停止ニハ二ノ場合アリ已ニ爲シタル執行處分ハ效力ヲ保存シテ將來ハ執行ヲ停止スルモノト將來ハ執行ヲ停止スルト同時ニ已ニ爲シタル執行處分ハ全部ヲ取消スモノト是ナリ後ノ場合ニ於テハ執行行爲ハ全ク終了ヲ告クルモノニシテ更ニ執行ヲ爲スニハ新手續ヲ開始スヘキモノナリ停止及ヒ制限ノ場合ハ第五百五十條ニ之ヲ規定ス而シテ停止及ヒ制限ヲ爲スニハ法定ノ書面ヲ執行

機關ニ提出スルコトヲ必要トス是レ執行ノ開始ニ書面ヲ必要トスルト同ク執行機關ニ其審査ヲ容易ナラシムル目的ニ出ツ執行機關ハ實體上ノ判斷ヲ爲スモノニ非ス只提出シタル書面カ法定ノ方式ヲ備ヘタルヤ否ヤヲ審査スルノ職權ノミヲ有シ適法ノモノナルトキハ之ニ從テ其處分ヲ爲スヘキモノトス左ニ之ヲ説明スヘシ

債務者又ハ第三者カ左ノ書面ヲ執行機關ニ提出シタルトキハ執行機關ハ之カ執行行為ヲ停止若クハ制限セサルヘカラス(第五五條)

第一 執行スヘキ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サスト宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ハ正本 其場合ヲ分説スレハ左ノ如シ

(一) 執行スヘキ判決ヲ取消ス旨ハ裁判 執行スヘキ判決トハ確定判決若クハ假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ヲ謂フ確定判決ハ再審ノ訴ノ判決ニ因テ取消サルコトアルヘク假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ヲ取消ス場合ハ故障又ハ上訴ニ因テ判決ヲ取消ス場合ヲ謂フ中間判決ニ假執行ノ宣言ヲ付

シタル場合即チ留保判決カ取消サレタルトキモ之ニ包含スルモノトス
(二) 假執行宣言ハミヲ取消ス旨ハ裁判 本案ノ裁判ヲ廢棄若クハ變更セスシテ故障若クハ上訴ニ因テ單ニ假執行ノ宣言ノミヲ取消シタル場合ヲ謂フ故ニ第五百十條第五百十一條ノ規定ニ依テ上訴審ニ於テ假執行ノ點ノ

ミニ付キ裁判シタル場合ニ生スルモノナリ
(三) 強制執行ヲ許サスト宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル裁判 強制執行ヲ許サスト宣言シタル裁判トハ第五百二十二條第一項第五百四十五條第五百四十六條第五百四十九條ノ異議カ理由アル場合ニ爲ス裁判ヲ謂ヒ強制

執行ノ停止ヲ命シタル裁判トハ第五百四十八條第五百四十九條末項ノ規定ニ因リテ爲ス裁判ヲ謂フ

以上三ノ場合ニ於テ其執行力アル裁判ハ正本ヲ債務者若クハ第三者カ執行機關ニ提出シタルトキハ執行機關ハ其執行ヲ停止セサルヘカラス執行力アル裁判ノ正本トハ執行力アル正本ト區別セサルヘカラス法文ニ執行力アル正本ト云ハス執行力アル裁判ノ正本トアルニ依テ明ナルノミナラス強制執

行ノ取消若クハ停止ハ強制執行其者ニ非サレハナリ執行力アル裁判ノ正本トハ執行シ得ヘキ裁判ノ正本ナリ故ニ執行文ノ付與ヲ必要トセサルナリ

第二 執行又ハ執行處分ハ一時停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ハ正本其場合ヲ分説スレハ左ノ如シ

(一) 確定ノ終局判決ニ對シ再審ノ訴ノ提起アリテ確定判決ニ基ク強制執行ノ停止ノ申請アリタルトキ裁判所カ第五百條ニ依テ執行ノ停止ヲ命シタル裁判

(二) 假執行ノ宣言アリタル判決ニ對シテ故障若クハ上訴ノ提起アリ申請ニ基キ裁判所カ執行ノ停止ヲ第五百十二條及ヒ第五百條ニ依テ命シタル裁判

(三) 執行文付與ニ對スル異議ノ申立アリテ裁判長カ第五百二十二條第二項ノ規定ニ依リ強制執行ノ一時停止ヲ命シタル裁判

(四) 執行ニ關スル方法若クハ執達吏ノ手續ニ對シテ異議ノ申立アリタルトキ裁判所カ第五百四十四條第一項ノ規定ニ依リ執行ノ停止ヲ命シタル裁

判(第五二二項)

(五) 執行ニ關スル異議ノ訴ヲ起シ債務者若クハ第三者タル異議ノ訴ノ原告カ第五百四十七條ノ規定ニ從テ執行ノ停止ヲ申請シ裁判所カ其停止ヲ命シタル裁判

以上ハ裁判ハ正本ヲ執行機關ニ提出シタルトキハ執行機關ハ其強制執行ヲ停止若クハ制限スヘキモノトス此裁判ハ第一ノモノト異ナリ執行力アル裁判ノ正本タルコトヲ要セス此等ノ裁判ハ判決ニ非ス決定若クハ命令ナルヲ以テ其裁判ノ正本ヲ提出スルヲ以テ足レリトス

第三 執行ヲ免ルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ハ證明書 此場合ハ第五百五條ノ規定ニ依テ債務者カ保證ヲ立テテ執行ヲ免ルルコトヲ得ヘキ條件附宣言ヲ得タルトキ其強制執行ノ後債務者カ執行ヲ免ルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルトキ其公正ノ證明書ヲ提出シタルトキヲ謂フ證明書トハ供託法ニ所謂供託證書若クハ第五百十三條ノ規定ニ依ル裁判所書記ノ證明書ヲ謂フ

第四 執行スヘキ判決アリタル後債権者カ辨濟ヲ受ケ又ハ其債務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書 債権者カ債務ノ辨濟ヲ得タルトキハ更ニ執行ヲ爲サシムルノ必要ナキヲ以テ之カ證明書ヲ提出シタルトキハ其執行ヲ停止スヘキハ説明ヲ要セス又債務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ノ證明書ヲ提出シタルトキハ其猶豫ノ期間内執行ヲ停止スヘキナリ此證明書ハ公正證書ナルト私署證書ナルトヲ問ハス執行機關ニ於テ辨濟若クハ履行猶豫ノ事實ヲ認定シ得ヘキ證書ヲ以テ足レリトス

以上第一乃至第四ノ場合ニ於テ強制執行ヲ停止若クハ制限スヘキモノナリト雖モ其強制執行ノ停止若クハ制限ニ付テ終局的ノモノト一時的ノモノトノ二者アリ(第五條)

第一及ヒ第三ノ場合ニ於テハ將來ノ強制執行ヲ停止スルハミナラス已ニ爲シタル執行處分ヲモ全然之ヲ取消スヘク即チ終局的ノモノニシテ已ニ執行機關カ着手シタル執行ヲ爲テ全然取消シ債務者ハ財産ヲ解放シ且將來ニ於テモ強制執行ヲ爲スコトヲ許ササルモノナリ終局的ノ停止ヲ認メタル理由ハ假執行

ノ宣言又ハ確定判決カ取消サレタルトキハ債権者ハ其判決ニ基ク強制執行ヲ爲スノ權利ヲ喪失シタルモノナレハナリ第三ノ場合ニ於テ終局的停止ヲ認メタル理由ハ執行ヲ停止スル爲メ債務者カ供託ヲ爲シ若クハ保證ヲ立ツルトキハ債権者カ強制執行ヲ爲ササルモ損害ヲ被ル理由ナケレハナリ如何トナレハ若シ債務者ノ申立カ理由ナキトキハ立テタル保證ニ因テ債権者ハ辨濟ヲ受クルヲ得ヘキヲ以テナリ

第二ノ場合ニ於テハ裁判所ハ既往ノ執行行為ノ取消ヲ命シタル裁判ナルコトアルヘク或ハ將來ノ執行行為ノ停止ハミヲ命シタル裁判ナルコトアルヘシ既往ノ執行行為ノ取消ヲ命シタルトキハ將來ノ執行停止ノ效力ヲ生スルト同時に已ニ爲シタル執行處分ヲ取消スヘキモノトス若シ將來ノ停止ノミヲ命シタル場合ニハ已ニ爲シタル執行處分ハ之ヲ保存スヘキモノナリ故ニ或ハ終局的ノ停止ト爲リ或ハ一時的ノ停止タルコトアルヘキナリ

第四ノ場合ニ於テハ已ニ爲シタル執行處分ハ一時之ヲ保存シ置カサルヘカラス本來債務名義成立後債権者カ辨濟ヲ受ケタルトキハ強制執行ヲ實施スル權

利ナキヲ以テ已ニ爲シタル執行行爲モ全然之ヲ取消スヲ正當トスト雖モ若シ辨濟アリタルニ拘ハラズ債權者カ執行ヲ爲ストキハ債務者ハ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ起シテ其執行ノ不當ヲ主張スヘキモノトス故ニ辨濟ヲ記載シタル證書ノ提出アルモ債權者ノ強制執行權ノ有無ハ異議ノ訴ノ判決確定スル迄ハ未決ノ状態ニアルモノナレハ債務辨濟ノ證書提出ノミヲ以テ既往ノ執行行爲ヲ取消サシムルハ或ハ債權者ノ權利ニ損害ヲ及ホス虞アレハナリ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル場合ニ於テハ更ニ債權者ノ申立アルマテ執行ヲ停止スヘキモノトス

以上説明シタル執行行爲ノ停止及ヒ制限ハ判決以外ノ債務名義即チ第五百五十九條ノ債務名義ニモアルモノトス(第五五九條)強制執行ノ手續ハ假處分ハ命令ヲ以テ停止若クハ制限スルコトヲ得ルヤハ問題アリ獨逸ノ學者間ニ於テモ其說岐ル假處分ハ本案ノ訴ノ判決執行保全ノ爲メニ金錢ニ代ユルコトヲ得サル特定物給付ノ債權若クハ係争法律關係ニ付テ假ノ地位ヲ定ムル爲メニ裁判所カ必要ナル處分ヲ命スヘキモノナレハ執行ノ

停止ヲモ命スルコトヲ得ト言フ說アリ然レトモ強制執行ノ停止ニ付テハ第五百五十條ノ規定アルヲ以テ該條以外ニ停止ヲ許スヘキニ非ス法律カ停止ノ場合ヲ制限的ニ規定シタルモノト解釋スルヲ正當トス或ハ曰ハン假處分ニ因リ強制執行ノ停止ヲ命シタル裁判ハ第五百五十條第二號ニ該當スル裁判ナルヲ以テ之ヲ執行機關ニ提出スルトキハ執行機關ハ執行ヲ停止セサルヘカラスト然レトモ第五百五十條第二號ハ強制執行停止ニ付テノ命令ヲ發スヘキ場合即チ第五百條第五百十二條第五百二十二條第五百四十七條等ノ場合ニ付キ規定シタル立法上ノ旨趣ナルノミナラス強制執行ノ排除ヲ求メントスルニハ第五百條第五百十二條其他執行ニ關スル異議ノ方法ニ因リテ主張スル以外ニ於テ其必要ヲ生セサルヘシ強制執行ニアラサル競賣法ニ依ル競賣手續ハ假處分ヲ以テ停止スルコトヲ得ヘシ競賣法ニハ同法第十七條以下ニ於テ動産ノ競賣ニ付キ手續ヲ停止スヘキ場合ヲ規定スルヲ以テ動産ノ競賣手續停止ハ同條ニ因ルモノナリト雖モ不動産及ヒ船舶ノ競賣ニ付テハ之カ停止ニ關スル規定ナシ然レトモ競賣手續補助的職權行動ナレハ本編第二章ノ處分權主義ノ原則ハ

之ヲ認ムヘク故ニ債權者ノ申請アルトキハ之ヲ停止スヘキハ當然ナリ債務者若クハ第三者ヨリ競賣異議ヲ主張シタルトキハ此等ノ者ハ第七百三十六條ノ規定ニ準據シ債權者ヲ相手方トシ債權者ハ執行機關ニ對シテ異議ノ裁判ノ確定スルニ至ル迄競賣手續ノ停止ヲ申請スヘシトノ旨趣ノ假處分命令ヲ得テ其命令ヲ債務者若クハ第三者カ執行機關ニ提出スルトキハ第七百三十六條ニ因リ債權者カ停止ヲ申請シタルト同一ノ效力ヲ生スヘキヲ以テ執行機關ハ手續ヲ停止スルヲ得サルニ至ルヘキナリ

以上強制執行ノ停止及ヒ制限ヲ強制執行ニ對スル保護ノ條件トシテ説明シタル所以ハ執行機關カ執行ニ着手セントスル際若クハ執行着手後ニ於テ債務者若クハ第三者ヨリ執行停止又ハ制限ヲ命シタル書面ヲ提出シテ執行ノ停止若クハ制限ヲ許シタルハ債務者若クハ第三者ノ權利ヲ保護スルニ外ナラサレハナリ

第七章 強制執行ノ行爲

強制執行ノ行爲ハ直接強制ト間接強制トハ二アリ直接強制トハ債權者ノ權利ニ適シタル状態ヲ裁判權ノ作用ニ因リ發生セシムル行爲ヲ謂フ例ヘハ債務者ノ所持スル債務ノ給付ノ目的物ヲ執達吏カ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡スカ如キ又金錢債權ノ満足ヲ得セシムル爲メ債務者ノ財産ヲ賣却シテ其代金ヲ債權者ニ交付スルカ如キ是ナリ間接強制トハ債務者ニ其意思ヲ以テ權利ノ實行ニ必要ナル給付ヲ爲サシメンカ爲メ債務者ニ不利益ヲ加フル行爲ヲ謂フ例ヘハ債務者カ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ或ハ債務者ノ身體ヲ拘束シ又ハ罰金ヲ科シ債務者自ラヲシテ給付ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ強制スルモノナリ間接強制ハ古代ノ法律ニ於テハ主トシテ用ケラレタル執行行爲ナリト雖モ文化ノ進歩ニ伴ヒ此手段ハ其效果薄弱ニシテ債務者ニ充分ノ満足ヲ與フル能ハス或ハ其執行カ目的ノ範圍外ニ渉ルノ嫌アルヲ以テ現今ノ法制ニ於テハ例外トシテ最モ僅少ノ場合ニ之ヲ認メタリ(國民訴訟法第八八條)蓋シ間接強制執行ヲ立法上ニ於テ認ムル必要ハ執行スヘキ請求權ノ性質上直接強制執行ノ行ハレサル場合ニ限ルモノニシテ我現行法ニ於テハ第七百三十四條ニ於テ之ヲ認ム

ルノミ而シテ我現行法直接強制ノ方法ハ左ノ如ク區別スルヲ得ヘシ
第一 金錢給付ヲ目的トスル債權ハ執行 金錢請求權ノ執行ニ付テハ國家ノ

權力ヲ以テ債務者ノ金錢ヲ差押ヘ之ヲ債權者ニ交付シ若クハ金錢以外ノ財
産ヲ差押ヘ債權額ニ充ツル迄之ヲ金錢ニ換價シ其換價金ヲ以テ債權者ノ財
利ヲ満足セシメ又ハ債務者ノ財産ヨリ生スル果實ヲ債權者ニ取得セシメテ
金錢債權ノ満足ヲ得セシムルカ如キ是ナリ有體動産債權不動産船舶ニ對ス

ル強制執行ニシテ第五百六十四條乃至第七百二十九條ニ規定スル處是ナリ
第二 物ハ引渡ヲ目的トスル債權ハ執行 此債權ニ付テハ執行機關カ債務者

又ハ第三者ノ抵抗ヲ排斥シテ債務者ノ占有スル債權ノ目的タル動産若クハ
不動産ヲ引揚ケテ之ヲ債權者ノ占有ニ移轉スル方法ナリ第七百三十條第七
百三十一條第七百三十二條ニ規定スル處即チ是ナリ

第三 債權者ハ權利ニ適シタル給付ヲ強制的ニ發生セシムルニテサレトモ
債務者ハ爲スヘキ行爲ヲ第三者ヲシテ債務者ニ代テ爲サシムル方法アリ即
チ第七百三十三條ニ規定スル處ニシテ直接強制執行ノ例外タリ

以上述ヘタル手段ニ依リ執行行爲ハ行ハルト雖モ其執行ヲ爲ス基本タル債權
者ノ權利ハ金錢ノ支拂ヲ目的トスルモノト金錢ノ支拂ヲ目的トセサルモノト
ノ二種ニ區別スルヲ得ヘシ法律モ亦此二種ノ區別ニ基キ金錢支拂ヲ目的トス
ル執行ニ付テハ第五百六十四條乃至第七百二十九條ニ於テ之ヲ規定シ金錢ノ
支拂ヲ目的トセサル執行ニ付テハ第七百三十條乃至七百三十五條ニ於テ之ヲ
規定セリ以下此區別ニ基キ執行行爲ヲ説明スヘシ

第一節 金錢債權ニ付テノ強制執行

金錢債權ニ付テハ強制執行トハ債務名義ハ内容カ金錢ハ支拂ヲ目的トスル請
求ニ付テハ強制執行ヲ謂フ金錢債權トハ其通貨ノ種類ヲ特定セサル金錢ノ支
拂ヲ目的トスルモノニシテ其支拂ニ付テハ明治三十年法律第十六號貨幣法ニ
依ルヘキモノトス特種ノ通貨若クハ外國ノ貨幣ヲ給付ノ目的トスル債權ノ執
行ハ所謂金錢債權ニ非スシテ物ノ引渡ニ付テノ執行即チ金錢ノ支拂ヲ目的ト
セサル強制執行ナリ故ニ本節ノ執行ハ内國ノ通貨ニシテ其通貨ヲ特定セサル

場合ニハミ適用セラルヘキ執行行為ナリ金錢ノ支拂ト其他ノ物權トニ付テ選擇債務ナルトキハ判決ヲ以テ其債務カ特定セラレルカ又ハ其他ノ債務名義若クハ民法ノ規定ニ因テ選擇權アル當事者カ選擇ヲ爲シタル後ニ於テ金錢債權ノ執行ト爲ルヤ又ハ物ノ引渡ノ執行ニ屬スルヤヲ區別セサルヘカラス
 金錢ノ支拂ヲ目的トスル執行ノ目的物ハ債務者ノ有體動產債權不動產及ヒ船舶ナリ其目的物ニ從ヒ執行手續ヲ異ニス立木ハ明治四十二年法律第四十二號ニ依リ不動產ト看做サルヘキヲ以テ立木ヲ目的トセル強制執行ハ不動產ニ對スル強制執行カ適用セラルヘク竹籐ノ換價ニ付テハ現行法上特別ノ規定ナキヲ以テ其請求權ノ内容ニ從ヒ有體動產債權若クハ不動產ニ對スル執行手續ヲ準用セサルヘカラス

第一款 動產ニ對スル強制執行

第一項 通則

第一 動產ノ意義

強制執行ニ於テ動產トハ民法ト其意義ヲ異ニス即チ動產トハ船舶及ヒ不動

產ニ對スル強制執行ノ目的物ト爲ラサル債務者ノ積極的財產ヲ謂フ土地及ヒ其定着物並ニ船舶ヲ除キタルモノハ總テ動產ナリ故ニ有體物債權土地ヨリ分離セル果實ノ如キ其他不動產上ノ權利ヲモ動產ト爲スコトアリ是レ執行行為ニ付キ有體物タル動產ニ付テノ規定ヲ設ケ之ト同一手續ニ依ラシムルノ便宜ニ出テタルモノナリ然レトモ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ハ執行ハ債務者ノ財產ヲ差押ヘテ之ヲ競賣シ債務及ヒ其執行費用ヲ辨濟スルニ在ルヲ以テ差押ノ目的物ハ必ス金錢ニ換價スルヲ得ヘク且他人ノ讓渡シ得ヘキモノナラサルヘカラス故ニ不融通物ハ茲ニ所謂動產ト稱スルコトヲ得サルモノトス

第二 執行ノ方法

動產ニ對スル執行ノ方法ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス(第五六四項)差押トハ債權者ノ請求權ヲ保全スル爲メ執行ノ目的物ニ付キ債務者ノ處分權ヲ失ハシムル行為ナリ而シテ其差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求權ヲ債權者ニ満足セシムル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲メニ必要ナルモノ以外ニ及ホスヲ

許ササルモノトス(第五六項)請求ノ範圍以外ノ差押ハ債務者ニ損害ヲ與フルノミナラス債權者保護ニ必要ナラサルヲ以テ之ヲ禁止スル所以ナリ然レトモ範圍外ノ差押ハ當然無効ニ非ス其差押ノ不當ナルコトヲ理由トシテ債務者ハ第五百四十四條ニ從テ異議ノ申立ヲ爲シ其差押ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得ルニ過キス又差押ヘタル動産ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ルノ見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ許サス如何トナレハ若シ執行費用ヲ償フモ其殘額ナキトキハ債權者ハ強制執行ヲ爲スモ毫モ請求ノ辨濟ヲ受クルヲ得サルヲ以テ執行行爲ハ徒勞ニ歸スル結果ヲ生スヘケレハナリ(第五六項)

第三 差押ハ效力

差押カ適法ニ實行セラレタルトキハ債務者ハ其財産ニ付テ爾後處分權ヲ喪失ス假令其差押カ不法ナルトキト雖モ債務者若クハ其他利害關係人ノ異議ニ因テ差押カ取消ト爲ラサル間ハ其差押ハ有效トス而シテ差押ノ效力トシテ債權者ノ方面ヨリ觀察スルトキハ二ノ立法主義アリ即チ左ノ如シ

(一) 獨法主義ハ第一ニ差押ヲ爲シタル債權者其差押物ニ付テ優先權ヲ取得シ第二第三ノ差押債權者ヲ排除スルモノトス故ニ此主義ニ依ル差押ハ債權者カ差押物ニ付テ物上擔保權ヲ有スルニ至ルモノトス差押質權主義是レナリ

(二) 佛法主義ハ差押債權者ハ他ノ債權者ニ先チテ差押ヲ爲スモ其差押ハ他ノ債權者ニ對シテ優先權ヲ得ス配當要求ヲ爲シタル債權者ト共ニ差押物ノ賣却代金ニ付キ平等ノ分配ヲ受クヘキモノトス差押配當主義是レナリ

右ニ主義ハ利害相半ス債務者ノ財産ハ債權者ノ共同擔保ナリトノ原則ヨリ觀察スルトキハ佛法主義ノ法制ハ適當ナリト雖モ債權者ハ自己ノ權利ヲ實行センカ爲メ他人ニ率先シテ差押ヲ爲シタルニ拘ハラズ其債權者ヲ保護セシテ權利ノ上ニ眠リタル他ノ債權者ヲ保護スル點ヨリ觀察スレハ獨法主義ヲ正當ト爲スヘキカ如シ然レトモ我現行法ニ於テハ佛法主義ニ依リ差押質權主義ヲ認メス差押配當主義ヲ採用セリ

第四 差押ヲ爲スニ付テ差押ハ目的物ニ付キ第三者カ物上擔保權ヲ有スルモ

第三者カ其物ヲ占有セサルトキハ差押ヲ妨クルコトヲ得サルモハトス蓋シ
 優先權ヲ有スル權利者ハ擔保物ヨリ債權ノ辨濟ヲ得尙ホ不足アラハ債務者
 ノ他ノ財産中ヨリ辨濟ヲ受クル權利ヲ有スレトモ若シ擔保物ニシテ剩餘ア
 ルトキハ其剩餘額ニ付キ他ノ無擔保債權者ノ權利ヲ満足セシムヘキモノナ
 レハナリ然レトモ第三者カ擔保權ヲ實行シ其換價額ニ付キ剩餘ナキトキハ
 差押債權者ハ辨濟ヲ受クル能ハサルヲ以テ差押ハ無用ニ終ルコトナキニ非
 ルモ之ヲ以テ第三者ハ差押ヲ拒ムコトヲ得サルナリ而シテ第三者ハ差押物
 ニ付キ優先辨濟ヲ受クル權利アルモノハナレハ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ
 訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先辨濟ヲ求ムルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テ第三者
 カ訴ヲ以テ主張シタル狀況カ法律上理由アリト見ヘ且事實上ノ點ニ付テ疏
 明アリタルトキハ第五百四十七條第五百四十八條ノ規定ヲ準用シ裁判所ハ
 賣得金ノ供託ヲ命スヘキモノトス
 此訴ハ執行機關カ第三者ニ優先辨濟ヲ得セシムルコトヲ拒ミタル場合ノミ
 ナラス優先權ヲ主張スルニハ常ニ訴ヲ以テスヘキモノニシテ訴ヲ提起スル

ニハ第三者カ差押ノ目的物ニ付テ物上擔保權ヲ有スルコト及ヒ執行手續ハ
 開始後完結前ナルコトヲ要シ且其目的物ヲ第三者カ占有セサル場合ナルコ
 トヲ要ス若シ其目的物ヲ第三者カ占有スルトキハ其物ノ差押ヲ拒ムコトヲ
 得ヘケレハナリ(第五五六七條)供託命令アリタルトキハ執行吏ハ賣得金ヲ供託
 スヘク隨テ執行吏カ賣得金ヲ受領スルモ債務辨濟ノ效力ヲ生セサルモノト
 ス

第二項 有體動産ニ對スル強制執行

第一 差押ノ目的物

有體動産トハ民法上ノ動産ト同一意義ヲ有ス而シテ差押ノ目的ト爲リ得ル
 モハハ債務者ノ占有中ニ在ル有體動産若クハ債權者ノ占有シ又ハ提出ヲ拒
 マサル第三者ノ占有中ニ在ル有體動産ハミトス(第五五六七條第一項)債務者ノ占
 有ヲ差押ニ付テノ條件ト爲シタル理由ハ占有ニ因テ債務者ノ財産タルコト
 ヲ容易ニ知り得ヘキニ因ル債權者ノ占有スル債務者ノ有體動産并ニ第三者
 カ占有スル債務者ノ財産ニシテ第三者カ提出ヲ拒マサルトキハ亦債務者ノ

財産タルコトニ疑ナキヲ以テ差押ノ目的物ト爲シ得ル所以トス又不動産ノ
 從物ハ不動産ニ對スル差押アリタルトキハ其效力ヲ及ホスモノナリト雖モ
 動産トシテモ差押ノ目的物タルヲ得ヘシ
 債務者ノ財産ニ屬スル果實ハ土地ヨリ分離セサル前ト雖モ差押ヲ爲スコト
 ヲ得ヘシ然レトモ通常ハ成熟時期ハ一ケ月前ニ非サレハ差押ヲ許サス又
 ハ其多分カ爾ヲ製造スル爲メニ揚リ置ト爲リタル後ニ非サレハ差押ヲ許サ
 ス是レ經濟上不利益ナル結果ヲ惹起スルヲ以テ制限ヲ設ケタル所以トス
 六八)而シテ有體動産ヲ差押ヘタルトキハ其差押ハ當然差押物ヨリ生スル天
 然ハ果實ニモ其效力ヲ及ホス故ニ差押以後差押物ヨリ生シタル天然ノ產出
 物ハ特別ノ手續ヲ要セスシテ差押ノ效力ヲ生スルモノトス(第五六條)
 差押ヲ禁スル物件ハ第五百七十條ニ規定セリ即チ左ノ如シ
 (一) 債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサル衣服寢具家具及ヒ厨具
 (二) 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一ケ月間ノ食料及ヒ薪炭
 (三) 技術者職工勞役者及ヒ穩婆ノ營業上缺ク可カラサル物

- (四) 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具家畜肥料及ヒ次ノ收穫マ
 テ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農產物
- (五) 文武ノ官吏神職僧侶公立私立ノ教育場教師辯護士公證人及ヒ醫師ニ在
 テハ其職業上缺ク可カラサル物竝ニ身分相當ノ衣服
- (六) 文武ノ官吏神職僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條
 ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期
 ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ計算ス
- (七) 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品
- (八) 勳章及ヒ名譽ノ證標
- (九) 實印其他職業ニ必要ナル印
- (十) 神體佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物
- (十一) 系譜
- (十二) 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ
 其家族ノ未タ公ニセサル著述ノ稿本

(十三) 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用スル書籍
 以上ノ物件ハ債務者及ヒ其家族ノ生活職業上ノ必要一家ノ秩序ヲ保チ事業
 ノ秘密ヲ保ツ等ノ必要ニ基キ法律カ差押ヲ禁シタリ右ノ各項ニ所謂家族ト
 ハ民法上ニ於ケルト同一意義ヲ有スルヲ以テ戸主ニ非サル者カ債務者ナル
 トキハ其一人ノ財産ノミヲ差押フヘキモノナルカ故ニ家族ノ爲メ云々ノ規
 定ノ適用ナキヤ當然ナリ而シテ以上差押ヲ禁シタルハ公益上ノ理由ニ基ク
 ト雖モ(三)乃至(八)ニ掲クル以外ノ物件ハ主トシテ債務者保護ノ目的ニ出テタ
 ルモノナレハ債務者カ自ラ權利ヲ拋棄シ差押ヲ承諾シタルトキハ之ヲ差押
 フルコトヲ許ス(第五七條)

右ノ外已ニ差押ト爲リタル物件ハ照査手續ニ依ルハ外更ニ差押ヲ許サス是
 レ差押配當主義ヲ採用シタル理由ニ基クモノナリ

第二 差押ノ手續
 有體動産ハ差押ノ手續ハ原則トシテ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス即チ債
 務者及ヒ其他ノ者ノ占有ヲ奪ヒ自ラ差押ノ目的物ヲ占有スルヲ原則トス然

レトモ其差押ノ目的物カ運搬ヲ爲スニ重大ナル困難アルトキ若クハ債權者
 ハ承諾アルトキハ執達吏占有シタル後債務者ノ保管ニ付スルコトヲ得ヘシ
 此場合ニ在テハ封印其他執達吏カ適當ト認メタル方法ヲ以テ差押ヲ明白ニ
 シタルトキニ限り差押ノ效力ヲ生ス執達吏ハ差押ヲ爲シタルトキ債務者カ
 立會セサリシトキハ之ヲ債務者ニ通知セサル可ラス但債務者ニ對スル通
 知ハ差押ノ效力ニ關係ヲ及ホスモノニ非ス差押ノ效力ハ執達吏ノ占有封印
 其他ノ方法ニ依リ差押ヲ明白ニシタル時期ニ於テ其效力ヲ生シ債務者ニ對
 スル通知ハ差押ノ事實ヲ債務者ニ知ラシムル目的ニ外ナラサレハナリ差押
 物ヲ保存スル爲メ或處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ探ラサ
 ル可カラス若シ其處分ノ爲メニ費用ヲ必要トスルトキハ債權者ヲシテ之ヲ
 豫納セシメ又債權者數名其差押ニ關係スルトキハ其債權額ニ從テ各債權者
 ヲリ費用ヲ豫納セシムルヲ得ヘシ(第五六條第六項、第五七條第一項)

第三 差押ノ效力
 差押ニ因リ執達吏ハ差押物ニ付キ占有權ヲ取得スルモノトス執達吏ハ債權

者ノ代理人トシテ差押ヲ爲スニ非ス執行機關ノ職權トシテ差押ヲ爲スモノ
ナレハ債權者カ占有權ヲ取得スト爲ス説ニ賛成スル能ハス而シテ差押ニ因
リ債務者ハ其物ノ處分ヲ禁止セラレルモノトス

差押ハ執行處分ノ取消(第五五條)競賣ノ完了(第五七條)若クハ執行ノ申立ノ取下ニ
因リ差押ヲ解放シタルトキニ消滅ス

差押アリタル物件ヲ債務者カ處分シタルトキハ其處分ハ有效ナリヤ否ヤニ
付キ説ヲ爲ス者アリ曰ク差押ハ債務者ノ處分ヲ禁止スルモノナレハ債務者
ハ差押物ニ付キ處分權ヲ有セス故ニ其處分ハ無効ナリト此説誤レリ差押ニ

因リ處分ヲ禁止スルハ債權者ヲ保護スル爲メナリ絕對ニ處分ヲ禁止スルモ
ノニ非ス故ニ債務者ノ處分ハ債權者ニ對シテ無効ナルニ止マルノミ債務者
ト其相手方トノ間ニ於ケル行爲ヲ絕對無効ト爲スヘキニ非ス執行手續ヲ進

行スルコトナクシテ差押カ解除セラレタルトキハ債務者ノ處分ハ完全ニ有
效ト爲ルヘシ若シ執行手續ヲ進行シ競賣アリタルトキハ債務者ノ處分ハ買
得人ニ對シテ對抗スルヲ得サルノミ故ニ差押アリタル物件ハ差押ナル負擔

ノ存スル状態ニ於テ債務者之ヲ處分スルコトヲ得ルモノトス

第四 差押後ノ手續

差押ヲ爲シタル後ハ其差押物ヨリ債權者ノ債權ヲ辨濟スル手續ヲ規定セサ
ル可カラス其手續ハ金錢ノ差押ト其他ノ物ノ差押トニ因テ區別アリ

(一) 金錢ノ差押 執達吏カ債務者ノ金錢ヲ差押ヘタルトキハ債權者ニ金錢

債權ノ満足ヲ得セシムル爲メ之ヲ債權者ニ引渡スヘキモノトス(第五七條第四項)

而シテ執達吏カ債務者ヨリ金錢ヲ取立テタルトキハ債權者ニ之ヲ引渡ス

ト否トヲ問ハス債務者ハ金錢債務ノ支拂ヲ爲シタルモハト看做サル故ニ

執達吏カ金錢ヲ占有スルニ因テ其數額ニ相當スル債務者ノ債務ハ消滅シ

危險負擔ノ責債權者ニ移轉スヘキモノナリ多數債權者ノ爲メニ金錢ヲ差

押ヘタル場合亦同シ執達吏金錢ヲ取立テタルトキハ其金錢ニ付テハ他ノ

有體物ノ差押ノ如ク他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ債

務者ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免ルコトヲ許シタルトキ(第五

第二項)ハ辨濟ノ效ヲ生セス隨テ此場合ニ於テハ執達吏カ金錢ヲ占有スル

(二) モ他ノ債權者ハ其金錢ニ付テ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五七項四) 金錢以外ノ物ハ差押 金錢以外ノ物ヲ差押ヘタルトキハ執達吏ハ債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ其物ヲ公ハ競賣方法ヲ以テ賣却セサル可カラズ公賣ハ金錢債權ニ付テノ満足ヲ得セシムル爲メ換價スル必要アルト且其換價ヲ公正ナラシメ以テ債權者ヲ保護スルノ必要アルニ基ク而シテ競賣トハ賣買ノ申込ハ誘引ニ非ス賣却手續ハ全體ヲ謂フモノナリ競賣ハ公告カ申込ノ誘引ナリ競買人ハ競買申出カ申込ナリ競落ハ意思表示カ承諾ナリトス競賣ニ於ケル賣主ハ債權者ナリ獨逸法ニ於テハ差押質權主義ヲ採用セルヲ以テ賣主ハ債權者ナリト雖モ我民事訴訟法ハ斯ル立法ヲ採ラサルヲ以テ賣主ハ債權者ナリト解スヘキナリ而シテ執達吏ハ債權者ノ代理人トシテ競賣ヲ爲スニ非ス職權ニ因リ行動スルモノナリ唯競賣行爲カ私法的效果ヲ生スルハミ獨逸法ニ於テハ債權者ハ差押ニ因リ差押物ニ付キ質權ヲ取得スルヲ以テ競賣ハ執達吏カ債權者ノ代理人トシテ實施スルモノナリト多數ノ學者ハ主張セリ此法理ヲ正當ナリトスレハ

我現行法ニ於テハ執達吏ハ債權者ノ代理人トシテ競賣行爲ヲ實施スルモノト爲スヘキナリ獨逸學者カ代理說ヲ主張スルハ競賣ノ效力ヨリ觀察シ執行機關ノ競賣ヲ私法ノ理論ニ依リ解決セントスルノ誤謬ニ坐スルモノナリ執行機關ハ行動カ執行當事者及ヒ第三者ニ對シテ私法上ノ效力ヲ生スルハ法律ハ規定ニ基クハミ若シ執達吏ヲ債權者ノ代理人ナリトスレハ不動産ノ競賣ニ於ケル裁判所モ亦債權者ノ代理人ト解セサルヲ得サルニ至ルヘシ故ニ執達吏ノ競賣ハ職權行爲ナリトスルヲ正當ト信ス競賣ノ手續ハ左ノ如シ(第五七條)

(イ) 競賣スヘキ物件中高價物アルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシメ其評價ニ從テ賣却スヘキモハトス鑑定ハ裁判上ノ鑑定ニ非サルヲ以テ第三百二十二條以下ノ規定ヲ適用スヘキニ非ス但金銀物ハ其金銀ノ實價以下ニ賣却スルコトヲ許サス若シ其實價マテニ買受ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適當ト認メタル手段ニ依リ任意賣却スルコトヲ得ヘシ(第五七三條)其他ノ物件

ニ付テハ斯ル手續ヲ要セス

(ロ) 差押ハ日ト競賣ハ日トハ間ニハ少ナクトモ七日ハ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ請求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付テ不相應ノ費用ヲ要シ若クハ差押物ノ價額カ著シク減少スル虞アルトキハ七日ノ期間ヲ經過セサル以前ト雖モ競賣ヲ爲スコトヲ妨ケス(第五條)競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ競賣ヲ爲スコトニ合意シタルトキハ此限ニ在ラス而シテ競賣ヲ爲スヘキ日時場所及ヒ競賣スヘキ目的物ハ之ヲ公告セサル可カラス公告ノ方式ハ執達吏ノ適當ト認メタル方法ニ依ルコトヲ得ヘシ(第六條)差押ノ日ト競賣期日トノ間ニ七日ノ期間ヲ存シ且競賣期日ヲ公告スルハ競賣ノ日時場所及ヒ其目的物ヲ公衆ニ知ラシメ且執行參加ヲ爲スノ權アル第三者ニ競賣以前ニ其權利ヲ行使スルノ機會ヲ得セシムルヲ目的トスルモノナリ

(ハ)

競賣ハ期日ニ於テハ買受人ヨリ價額ヲ申出テシメ最高價ハ申出ヲ爲シタル者競落人ト爲ル但最高價競賣ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ執達吏ハ三回呼上ケタル後之ヲ爲ス(第五七七條)第一項競買人ハ訴訟能力者タルコトヲ要セスト雖モ競買行爲ヲ爲ス者ハ訴訟能力者ナラサルヘカラス如何トナレハ競買行爲ハ訴訟行爲ナレハナリ又債權者ハ競買人タルヲ妨ケスト雖モ債務者及ヒ執達吏ハ競買人タルヲ得ス債務者ハ賣主ニシテ執達吏ハ競賣ヲ實施スルモノナレハナリ

競落人カ確定スルトキハ其代金ト引替ニ競落物ヲ引渡スヘキモノトス若シ最高價競落人カ競賣條件ニ定メタル支拂期日若シ其期日ノ定メナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ執達吏ハ更ニ其物ヲ競賣セサル可カラス此場合ニ在テハ前ノ競落人ハ競賣ニ加ハルコトヲ許サス而シテ再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ最初ノ競落人カ其不足額ヲ辨濟スヘク若シ高キトキハ其剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス(第五七七條)再競賣ハ競落人カ代金

支拂ノ義務ヲ履行セサルコトヲ原因トシ前ノ競賣ヲ解除シ更ニ競賣ヲ實施スルコトヲ謂フ不動産ニ關スル再競賣ノ説明ヲ參照スヘシ

(二)

執達吏カ競賣ヲ爲スニ付テハ必スシモ差押物ノ全部ヲ賣却スヘキニ非ス債權ノ辨濟ヲ得セシムルヲ目的トスルモノナレハ差押財産ヲ競賣シテ債權者ニ辨濟ヲ爲シ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ賣得金アルニ至リタルトキハ爾後ノ競賣ハ之ヲ停止セサル可カラス如何トナレハ其餘ノ競賣ハ強制執行ノ目的ノ範圍外ニ涉ルモノナレハナリ(第五七條) 執達吏カ賣得金ヲ領收シタルトキハ恰モ金錢ヲ差押ヘタル場合ト同ク債務者ハ債務ヲ辨濟シタルモノハト看做サル執達吏カ差押物ヲ賣却シ其買受人ヨリ代金ヲ受領シタルトキハ債務者ノ債務ハ消滅ス但債務者カ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ノ免除ヲ得タルトキ(第五〇條第五項)ハ此限ニ在ラス(第五七條)

以上ハ競賣手續ノ通則ナリ差押ノ目的物カ左ノ諸件ナルトキハ特別手續ニ依ル即チ左ノ如シ

(イ)

土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ニ付テハ其成熟ノ後始メテ競賣ヲ爲スコトヲ許ス而シテ執達吏ハ競賣ノ爲メニ果實ノ收穫ヲ爲サシムルノ權ヲ有ス又蠶ヲ差押ヘタルトキハ繭ト爲リタル後ニ非サレハ競賣ヲ許サス(第五八條)是レ經濟上ノ利益ヲ計リタルモノナリ

(ロ)

執達吏カ有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ執達吏適宜ニ之ヲ賣却スルヲ得ヘク相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從テ即チ前述セル金錢以外ノ差押物ノ賣却手續ニ依リ之ヲ競賣スヘキモノナリ茲ニ所謂有價證券ニハ手形及ヒ裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ルモノヲ包含セス斯ル有價證券ハ債權ニ對スル執行ノ目的物ナレハナリ(第六三條)又相場アルモノトハ執行ヲ爲シタル地ニ於ケル公定相場ヲ謂フモノナリ若シ有價證券カ記名ノモノナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換フル爲メ且之カ爲メニ必要ナル手續ヲ債務者ニ代テ執達吏カ爲スヘキ權利ヲ執達吏ニ付與スルコトヲ得ヘシ又無記名證券ニシテ之ヲ記名ニ代ヘタルカ又ハ他ノ方法ニ依テ流通ヲ止メタルモノナル

トキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ且其手續ヲ爲ス爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代テ爲スノ權ヲ執達吏ニ付與スルコトヲ得ヘシ(第五條、第五八三條)

金錢以外ノ差押物ハ以上ノ方式ニ依リ換價スヘキモノナリト雖モ差押債權者執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前ノ手續ニ依ラスシテ他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲スヘキ旨ヲ執達吏ニ命スルヲ得ヘク又ハ執達吏ニ依ラスシテ他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシムヘキ旨ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第五八條)

第五 照査手續及ヒ配當手續

數人ノ債權者カ同時ニ執達吏ニ對シテ執行ノ申立ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ各債權者ノ爲メニ差押ヲ爲シ強制執行ヲ實施スルモノナリ然レトモ債務者ノ動産ニ對シテ既ニ差押アリタル後更ニ執行ヲ要求スル債權者アルトキ又ハ差押物ノ配當ヲ請求スル債權者アル場合ニ付テハ特別ノ規定ヲ設ケサルヘカラス蓋シ我現行法ハ獨逸法ト異ナリ前ニ述ヘタル如ク差押質權主義

ヲ認メス債務者ノ財産ハ總債權者ノ共同擔保ナリトノ原則ニ基キ差押ヲ爲シタル物件ニ對シ差押債權者ノ優先權ヲ認メスシテ差押財産ノ賣却代金ニ付キ平等分配主義ヲ認メタルヲ以テ二重ノ差押ヲ許ス必要ナシ即チ既ニ差押アリタル債務者ノ財産ニ對シテハ更ニ差押ヲ許サス共同擔保ノ原則ニヨリ各債權者ハ差押物ノ換價代金ニ付キ配當要求ヲ爲スコトヲ得ルニ止ル而シテ債權者ニハ執行力アル正本ヲ有シテ之ニ基キ配當要求ヲ爲ス者アルヘク又共同擔保ノ原則ニ因リ各債權者ハ配當ヲ要求スル權利ヲ有スレハ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲ス債權者アルヘキナリ故ニ執行力アル正本ニ基キ配當ヲ要求スル場合ト執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル場合トヲ區別シテ手續ヲ規定セサルヘカラス

(一) 照査手續 照査手續トハ執達吏カ債務者ノ動産中差押ニ係ラサルモノアリヤ否ヤヲ調査シ差押ニ係ラサルモノアレハ更ニ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ對シ總動産ヲ總債權者ノ爲メニ競賣スヘキコトヲ求ムル手續ヲ謂フ債務者ノ動産ニ對シ既ニ執行アリタル後執行力アル正本

ヲ有スル債權者カ之ニ基キ配當要求ヲ爲サントスルニハ執達吏ニ對シ執行ノ申立ヲ爲スコトヲ要シ單純ニ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス執行ノ申立ヲ受ケタル執達吏ハ債務者ノ動産中果シテ差押ニ係ラサル物件アルヤ否ヤヲ知ルカ爲メ前ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ對シ差押調書ノ閱覽ヲ求メ差押物ト差押調書トヲ調査シ未タ差押ニ係ラサル動産アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付スヘキコトヲ求ムヘシ若シ差押ニ係ラサル財産ナキトキハ單ニ調査ヲ爲スニ止メ第一ノ執達吏ニ照査調書ヲ交付スヘシ(第五八條)照査調書トハ差押物件ト前執達吏ノ差押ヘタル調書トヲ調査シタルコトヲ記載シタル調書ヲ謂フ前ノ執達吏カ後ノ執達吏ヨリ差押ニ因リテ作りタル差押調書又ハ照査調書ノ交付ヲ受クルト同時ニ前ノ執達吏ハ後ノ債權者ノ委任ヲ當然受ケタルモノト爲ル即チ後ノ債權者ハ前ノ執達吏ニ執行ヲ委任シタルト同一ノ效力ヲ生ス而シテ前ノ執達吏カ照査手續ヲ受ケタル債權者ノ爲メニ又前ニ委任ヲ受ケタル債權者ノ爲メニ總テノ動産ノ競賣ヲ實施

スヘキナリ執行力アル正本ヲ有スル債權者ハ以上ノ方法ニ依ルニアラサレハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス而シテ右照査手續ヲ爲ストキハ各債權者ハ爲メ總動産ノ差押ハ一體ニ歸シ其賣得金ニ付キ後ノ債權者ノ爲メ配當要求ノ効ヲ生シ又前ニ爲シタル差押カ取消ト爲リタルトキハ照査手續ヲ爲シタル債權者ノ爲メニ差押ノ效力ヲ生ス(第五八條)照査手續ヲ爲ストキハ總動産ノ差押ハ一體ニ歸スルヲ以テ其換價金ヨリ各債權者ハ債權額ニ應シ債權辨濟ヲ受クルモノナリ然レトモ競賣手續ハ前後ノ差押物ヲ同一ニ爲スコトヲ必要トスルモノニ非ス前後ノ差押物ニ付キ第五百七十五條第五百七十六條ノ規定ヲ適用セサルヘカラス

假差押ニ係ル有體動産ニ付テハ更ニ差押ヲ爲シ執行ヲ進行スルコトヲ得ヘシ假差押ハ執行保全ヲ目的トスルモノニシテ競賣代金ニ付キ未確定ノ債權者ニ配當スヘキ金額ハ之ヲ供託スヘキモノナレハナリ(第六三條)

(二) 執行力アル正本ニ因ラサル配當要求 債務者ノ財産ハ總債權者ノ共同擔保ナルカ故ニ執行力アル正本ヲ有セサル債權者ト雖モ民法ニ從ヒ配當

ヲ要求シ得ヘキ債権者ハ亦配當要求ヲ爲スヲ得ヘシ(第五八條)執行力アル正
本ニ因ラサル配當要求ハ次ノ手續ニ依ルヘキモノトス

(イ) 配當要求ヲ爲サントスル債権者ハ執達吏ニ對シテ債権額ヲ申出テサ
ルヘカラス又其配當要求ヲ爲ス原因ヲ開示スヘシ(第五九條)

(ロ) 配當要求ヲ爲サントスル債権者カ裁判所ノ所在地ニ於テ住所事務所
ヲ有セサルトキハ假住所ヲ選定シテ之ヲ執達吏ニ届出テサルヘカラス

(第五九條)

(ハ) 配當要求ハ競賣期日ノ終リマテニ申出テサルヘカラス(第五九條)

(三) 配當要求ハ效果執行力アル正本ヲ有スル債権者カ照査手續ニ因リ配
當要求ヲ爲シ執行力アル正本ニ因ラサル債権者カ配當要求ヲ爲シ其配當
要求カ適法ナルトキハ換價代金ヨリ配當要求ヲ爲シタル債権者モ債権辨
濟ヲ受クルコトヲ得ルニ至ルモノナリ其代金カ各債権者ノ債権全部ヲ辨
濟スル能ハサルトキハ其債権額ニ比例シテ分配ヲ受クルヲ通常トス又分
配ノ協議調ハサルトキハ配當手續ニ依リテ配當スヘキモノトス此ノ如キ

關係アルヲ以テ執達吏ハ配當要求ノアリタルコトヲ債務者及ヒ配當ニ與
カル各債権者ニ通知セサルヘカラス而シテ執行力アル正本ニ因ラスシテ
配當ヲ要求スル債権者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三
日間内ニ其債権ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執達吏ニ申出ツヘク若シ債務者カ三
日內ニ何等ノ申出ヲ爲ササルトキハ債務者ハ之ヲ認諾セルモノト看做シ
配當要求ヲ爲シタル債権者ノ權利ハ確定ス然レトモ若シ債務者カ認諾セ
サルコトヲ執達吏ニ申出テタルトキハ執達吏ハ之ヲ配當ヲ要求セル債権
者ニ通知スヘク其債権者ハ通知ヲ受ケタルヨリ三日內ニ債務者ニ對シテ
訴ヲ起シ其債権ヲ確定セサルヘカラス(第五九條)
執達吏カ適當ナル期間ヲ經過スルモ差押物ノ競賣ヲ爲ササルトキハ差押
債権者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債権者ハ一定ノ期間内
ニ競賣ヲ爲スヘキコトヲ執達吏ニ催告シ若シ其催告ノ效ナク執達吏カ競
賣ヲ爲ササルトキハ執行裁判所ニ對シ相當ノ命令アランコトヲ申請スル
コトヲ得然レトモ執行力アル正本ニ因ラサル配當要求債権者ハ右ノ催告

又ハ申請ヲ爲スコトヲ得ス(第五八條)
 金錢ヲ差押ヘタルトキハ直チニ差押債權者ニ執達吏カ之ヲ交付スヘク且
 執達吏ノ金錢差押ニ因リ其債權者ハ辨濟ヲ受ケタルモノト看做サルルヲ
 以テ配當要求ヲ他ノ債權者ヨリ受クルコトナシ然レトモ數人ノ債權者ハ
 爲メ同時ニ金錢ノ差押ヲ爲シタルトキハ右差押金錢ハ各差押債權者ニ分
 配セサル可ラス又金錢以外ノ有體物ハ賣却代金ハ亦之ヲ各債權者配當要
 求ヲ爲シタル債權者等ノ債權額ニ應シ分配スヘキナリ然ルニ其金錢若ク
 ハ賣却代金カ各債權者ノ債權ヲ辨濟スルニ足ラスシテ其金額分配ノ協議
 各債權者間ニ調ハサルトキハ執達吏ハ自ラ其配當額ヲ定ムルヲ得サルヲ
 以テ執行裁判所ニ於ケル配當手續ニ依リ之ヲ配當スヘキナリ執達吏ハ差
 押金錢若クハ賣却代金ヲ供託シ執行手續ニ關スル書類ヲ添ヘ其情況ヲ執
 行裁判所ニ届出テサルヘカラス(第五九條)

第三項 債權及ヒ其他ノ財産權ニ對スル
 強制執行

債權其他ノ財産權ニ對スル強制執行トハ債務者ノ有スル債權其他ノ財産權ヲ
 換價シ債權者ニ金錢債權ノ満足ヲ得セシムル執行行爲ナリ其執行ノ目的物ト
 爲ル債權其他ノ財産權ヲ區別スレハ左ノ如シ
 第一 債務者カ第三者ニ對シテ有スル金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權
 第二 債務者カ第三者ニ對シテ有スル金錢以外ノ有體物又ハ有價證券ハ給付
 ヲ目的トスル債權

第三 第一第二ニ記載セル以外ノ債務者ノ有スル財産權
 以上各種ノ權利ハ期限附ナルト條件附ナルトヲ問ハス執行ノ目的物タルヲ得
 ヘク唯法律上他人ニ移轉スルコトヲ得サルモノ若クハ法律カ差押ヲ禁シタル
 モノハ執行ノ目的物ト爲スコトヲ得ス如何トナレハ之ヲ金錢ニ換價スルコト
 ヲ得サレハナリ(第六一八條官廳恩給)
 各右種ノ權利ニ對スル強制執行ハ亦差押ヲ以テ之ヲ爲スヘク其差押ニ付テハ
 債權者ヨリ其旨ヲ執行裁判所ニ申立テ執行裁判所ハ差押命令ヲ發シテ之ヲ實
 施スヘキモノトス(第五九條)

差押命令ハ各債權ニ因リ其旨趣ヲ異ニスト雖モ第一ノ債權ニ關シ規定スル所
ノ方法ヲ以テ原則トス其命令ノ旨趣ハ左ノ如シ(第五九條)

(一) 第三債務者ニ對シ債權者ニ金錢ノ支拂ヲ爲スヲ禁スルコト
(二) 債權者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スヘカラサルコトヲ命スルコト

而シテ第二第三ノ債權ニ付テモ此方法ニ準スヘキモノナレトモ(第六一、五四條)其
異ナル處ハ第二ノ債權ニ付テハ第三債務者ニ對スル支拂禁止ノ命ニ換ユルニ
第三債務者ニ對シ動産ヲ執達吏ニ引渡スヘキコトヲ命スヘク又第三ノ債權ニ
付テモ第三債務者ナキトキハ債權者ニ對シ權利ノ處分ヲ禁スル命令ノミヲ發
スルヲ以テ足り且此ノ如キ種類ノモノニ對スル強制執行ニ付テハ裁判所ハ其
執行ヲ爲スニ相當ト認ムル處分ヲ爲シ殊ニ其權利ヲ管理者ニ管理セシメ又ハ
讓渡スヘキコトヲ命スヘシ(第六二條)而シテ差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及
ヒ債務者ニ送達シ債權者ニハ送達ノ旨ヲ通知スヘク差押ハ效力ハ第三債務者
ニ對スル送達ヲ以テ發生スルモノトス(第五九條)

債權其他ノ財産者ノ差押ハ債務者ニ對シ其處分ヲ禁止スルモノナリト雖モ是

レ亦動産ノ差押ノ效力ニ付キ論述セル處ト同シク債權者保護ノ目的トスル處
分ノ禁止ナレハ債務者之ヲ處分スルモ絶對的無効ニ非スシテ關係的無効ナル
モノトス動産ニ付テノ差押ノ效力ヲ參照スヘシ

執行裁判所トシテハ債務者カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ハ專屬管轄ト
ス若シ其區裁判所ナキトキハ第十七條ノ規定ニ從テ債務者ニ對スル訴ヲ管轄
スル區裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲ス(第五九條)

差押ヲ申請スル手續ハ債權者ヨリ其差押フヘキ債權ノ種類數額ヲ開示シテ之
カ差押ヲ求ムル旨ノ申立ヲ爲スヘク其申立ハ書面又ハ口頭ニテ爲スコトヲ得
ヘク其他ノ強制執行ノ總則ノ規定ノ手續ニ從フヘキモノトス(第五九條)

執行裁判所ハ此差押命令ヲ發スルニ當リ特ニ債務者又ハ第三債務者ヲ審訊セ
サルモノトス(第五九條)而シテ債權者ハ申請ヲ理由ナシトシテ棄却スルトキハ債
權者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘク(第五五條)又差押命令ニ對シ不服ナル債務
者ハ異議ハ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ裁判所カ差押命令ヲ發スルニハ必スシモ
債權ノ現存スルヲ要セス債權者ヨリハ申請ニ因リ唯法律上差押ヘ得ヘキモノ

ナルヤ否ヤヲ調査スルヲ以テ足ル若シ債權現存セサルトキハ差押命令ハ效力ヲ生セスシテ終ルモノナリ

第一目 金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ニ對スル強制執行

第一 差押不能ハ債權

債務者ニ屬スル權利ト雖モ財產權ニ非サルモノハ之カ差押ヲ爲スコト能ハサルヤ論ヲ俟タス又債務者ニ屬スル財產權ナリトモ性質上讓渡シ得サルカ又ハ金錢ニ換價シ得サルモノハ亦差押ヲ爲スコト能ハス其他ノ財產權ハ總テ債權ノ辨濟ニ充ツルノ目的ヲ以テ之カ差押ヲ許スヘキカ如シト雖モ有體動産ニ對スル強制執行ニ付キ説明シタルカ如ク債權者ヲ保護スルノ厚キニ失シ債務者ヲ死地ニ陥レテ顧ミルコトナキニ至リテハ實ニ社會ノ公益ヲ害スルコト甚シキモノナルニ因リ縱令差押ヲ受クル債務者タリトモ一家ノ生活ヲ營ムノ餘裕アラシメサルヘカラス故ニ法律ハ左ノ債權ニ對シテハ差押ヲ爲スヲ禁シタリ(第六八條)

(一) 法律上ノ養料ヲ受クル債權 債務者カ法律ノ保護ニ因リ自己ノ身分ニ對シテ供與ヲ受タルモノナルニ因リ之カ差押ヲ許ストキハ法律ノ身分上ニ對スル庇護ヲ蹂躪スルノ結果ヲ來セハナリ

(二) 債務者カ義捐建設所又ハ第三者ノ慈惠ニ因リテ受クル繼續ハ收入ニシテ自己及ヒ其家族ノ生活ニ必要ナル部分ノ債權 家計ニ困難ナルノ理由ヲ以テ之カ救助ヲ爲サン爲メ各慈善家ヨリ贈與スル收入ヲ差押フルハ社會ノ慈善事業ヲ阻害スルコト甚シキヲ以テ之カ差押ヲ許サス尤モ慈善事業ハ唯其貧者ノ一家ヲ救済スルノミヲ目的トスルモノナレバ一家ノ生活ヲ維持スルニ足ル以上ノ收入ハ之カ差押ヲ許セリ

(三) 下士兵卒ハ給料及ヒ其遺族ハ扶助料ニ關スル債權 下士兵卒ノ給料恩給及ヒ其遺族扶助料ハ通常漸ク一家ノ生活ヲ爲シ得ルニ過キサレハ之カ差押ヲ許サス

(四) 出陣ハ軍隊ニ屬スルカ又ハ役務ニ服シタル軍艦ハ乗組員ニ屬スル軍人軍屬ハ職務上ノ收入ニ關スル債權 從軍中ノ軍隊軍艦ニ屬スル軍人軍屬

ハ其身生死ノ間ニ奔走スルモノナルニ之カ差押ヲ爲スハ此者等ヲシテ死
ヲ輕シ後顧ノ憂ナカラシムル途ニ非サレハナリ

(五) 文武ノ官吏神職僧侶及ヒ公私立學校教師ノ受クヘキ職務上ノ收入恩給
及ヒ其遺族ノ扶助料ニ關スル債權 普通此等ノ收入ハ單一ニシテ他ヨリ

金錢ノ入ルヘキ途ナク又此等ノ人トシテ身分相當ノ衣食住ヲ爲スノ必要
アルニ因リ此職務ニ關スル收入ノ債權ハ之カ差押ヲ爲スヲ禁シタリ

(六) 職工勞役者又ハ雇人カ其效力又ハ役務ハ爲メニ受クル報酬ニ關スル債
權 此等ノ人カ得ル金錢ハ多クハ零細ニシテ稍ク生活ノ費用ニ供スルニ

過キナルニ因リ之カ差押ヲ禁セリ

以上ハ差押ヲ禁シタル債權ナレトモ第一第五第六ノ收入ニ付テハ絶對的ニ
其差押ヲ禁シタルニ非スシテ收入ノ年額三百圓ヲ超過スルトキハ其以上ニ

付キ半額ノ差押ヲ爲スコトヲ許シタリ蓋シ一ノ年三百圓ヲ以テ相當ノ生活
ヲ營ミ得ヘキモノト爲シ此規定ヲ設ケタルモノナラン右ノ三百圓以上ヲ超
過シタル金額ノ半分ヲ差押フルコトヲ得トノ規定ハ民事訴訟法ニ於テハ恩

給扶助料ニ對シテモ其適用ヲ見ルヘキモノナレトモ特別法ヲ以テ其恩給扶
助料ニ關シテ其差押ヲ禁止スルニ因リ民事訴訟法ニ於ケル此規定ハ現時適
用ナシト爲スヘキナリ

右ノ差押不能債權ニ對シ債權者カ之カ差押ヲ爲シタルトキハ債務者ヨリ異
議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二 差押ハ手續

債權ハ差押ハ執行裁判所ヨリ差押命令ヲ第三債務者ニ送達シタル時ヲ以テ
其效力ヲ生ス(第五九條)若シ其債權ニ付キ抵當權ハ設定アルトキハ債權者ハ債
務者ハ承諾ヲ要セスシテ其債權ハ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ差押記
入ノ申請ハ差押命令申請ト共ニ爲シ或ハ此命令申請後ニ爲スヲ得ヘク裁判
所ハ第三債務者ニ對シテ差押命令ヲ送達シタル後登記判事ニ其登記ヲ爲ス
ヘキ旨ノ命令ヲ爲スヘク登記判事ハ登記法ニ從ヒテ相當ノ登記ヲ爲スヘキ
モノトス(第五九條)若シ抵當物ノ所有者カ第三債務者以外ノ第三者ナルトキハ
其第三者ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ囑託ヲ爲スヘキモノトス

前ニ説明シタル如ク債權ノ差押ハ唯債權者ノ申立ニ因リ裁判所カ法律上理由アリト認ムルトキハ債務者又ハ第三債務者ヲ審訊セスシテ差押命令ヲ發スヘキヲ以テ債權ノ存否ハ不確實ナリ之ヲ以テ後日ノ争ヲ避クルノ方法トシテ債權者ヨリ差押命令ハ第三債務者ニ送達セラレサル以前ニ執行裁判所ニ對シ第三債務者ヨリ左ノ諸件ニ付キ陳述ヲ爲サシムヘキ旨ノ命令ヲ發セラレハコトハ申立ヲ爲スコトヲ得

(一) 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ其債權ニ對シテ支拂ヲ爲スヘキ意思ノ有無及ヒ其限度

(二) 債權ニ付キ既ニ他ノ者ヨリ請求アリタルヤ否ヤ若シアリタリトセハ其請求ノ種類

(三) 債權ニ付キ既ニ他ノ者ヨリ差押ヲ受ケタルヤ否ヤ若シ受ケタリトセハ其請求ノ種類

債權者ヨリ右ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ右ノ各項ニ對スル答辯ヲ書面ニ記載シ差出スヘキ

コトヲ催告スヘク而シテ催告ハ送達證書ニ其旨ヲ記載スヘキモノナリ而シテ第三債務者カ催告アリタルニ拘ハラズ期間内ニ陳述ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ之カ爲メ債權者ニ生シタル損害ハ第三債務者ニ於テ負擔スルノ責ニ任ス(第六〇條)

第三 差押ノ效力

差押命令カ第三債務者ニ送達アリタルトキハ第三債務者ハ債務者ニ對シテ有效ニ辨濟ヲ爲スヲ得ズ債務者ハ差押債權者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ債權ヲ處分スルコトヲ得ヘキモ自ら取立ヲ爲スコトヲ得ス故ニ若シ債務者カ其債權ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ差押負擔ノ状態ニ於テ他人ニ移轉スルモノナリ
差押ノ效力ハ差押ヘタル債權額ヲ限度トス但其債權ノ利息及ヒ其債權ヲ擔保スル物權ニ及フ(第五九條)俸給又ハ之ニ類スル繼續收入ノ債權ハ第一回ノ收入ニ關スル債權ヲ差押ヘタル效力トシテ其以後ニ來ルヘキ同一ノ收入ニマテ其效力ヲ及ホス然レトモ其差押ハ債權額以上ニ超過スルコトヲ得ス(第六〇條)

條)醫師、辯護士等ノ其職業ヨリ得ル所ノ收入ハ常ニ變動極リナキノミナラス其收入額モ一定セサル性質ノモノナルカ故ニ此等ハ繼續收入ニ屬スル債權ト謂フコトヲ得サルヘシ又俸給ハ公私ノ區別ナシ故ニ普通ノ給料ト稱スヘキモノハ此ニ含蓄セラレヘキモノト解釋スヘシ又公私ヲ論セス職務上ヨリ來ル債務者ノ收入權ニ付テハ其債務者カ轉任兼任等ニ因リ其受クヘキ名義ノ異ナルコトアリ又ハ増俸ニ因リ増加スルコトアリ此場合ト雖モ特別ノ差押命令ヲ用ヒス轉任兼任又ハ増俸以前ニ發シタル差押命令ヲ以テ之カ差押ノ效力ヲ生スヘキモノトス(第六條五條)○法文ニハ職務上ノ轉官云々トアルニ由リ茲ニ規定スル職務トハ單ニ官吏カ其職務上ノ收入ニ限ルカ如キモ第六百四條第六百十八條等ノ法意ニ考フルトキハ官吏又ハ一私人カ其職務上得ヘキ收入ニモ及フヘキモノト解釋スヘシ然レトモ職務上ニ關シテ其金額ヲ支拂フヘキ者ニ變更アル場合例ヘハ官吏カ私立ノ會社ニ入り會社ノ社員カ官吏ト爲リタルトキノ如キハ前ノ差押命令ノ效力ハ後ノ收入權ニ及ハサルモノトス

債務者ハ債權ハ差押ニ因リテ所持ハ債權證書ヲ差押債權者ニ交付スルハ義務アリ然ルニ之カ交付ヲ拒ムニ於テハ差押債權者ハ特ニ之ニ關スル執行力アル正本ニ因ラス差押命令ニ基キ物品給付ニ關スル強制執行ノ方法ニ從ヒ執達吏ヲシテ債務者ヨリ其債權證書ヲ取上ケシムルコトヲ得ヘシ(第六條)

第四 以上説明シタル差押方法ニ依ラサル例外ノ債權アリ即チ手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ヘキ證券是ナリ此種ニ屬スル債權ハ第三債務者ヨリ支拂ヲ爲スニ當リテハ唯其證券所持者ニ重キヲ置キ其證券ナクンハ必ス支拂ヲ爲ササルモノナルヲ以テ普通金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ノ差押方法ニ依ルヨリモ寧ロ有體動産ニ關スル差押方法ニ從フヘキヲ便宜トスルカ故ニ差押命令ヲ用ヒス先ツ執達吏ヲシテ其證券ヲ占有セシメ之カ差押ヲ爲スヘキモノトス(第六條三條)○然レトモ其以後ノ手續ニ屬スル換價ノ處分ニ付テハ普通ノ債權ノ如ク取立命令又ハ轉付命令ニ關スル手續ニ從フヘキモノトス

第五 差押後ノ手續

債權差押ノ效力ヲ生スルモ差押債權者ハ未タ第三債務者ヨリ債務ノ支拂ヲ

求ムル權利ヲ生セス第三債務者モ亦差押債權者ニ對シテ支拂ノ義務ヲ生セ
 ス差押債權者カ現實ニ辨濟ヲ得ルニハ更ニ法律上ノ手續ヲ必要トス即チ差
 押債權ヲ差押債權者ニ移付シ又ハ特別ノ換價處分ニヨルヘキモノトセリ
 (一) 差押債權ノ移付手續 債權者カ差押ヘタル債權ヲ移付スル手續ハ或ハ
 之カ取立ヲ爲ス爲メハ命令ヲ發シ或ハ之カ轉付ヲ爲ス爲メハ命令ヲ發ス
 ルニアリ執行裁判所ハ差押債權者ノ選擇ニ任セ其申請ニ從ヒテ命令ヲ發
 スヘキモノトス(第六〇條)然レトモ假執行ノ場合ニ於テ第五百五條第二項ノ
 規定ノ如ク保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル債務者ニ執行ヲ免ルルコトヲ
 許スヘキトキハ轉付命令ヲ發スルコトヲ得スシテ取立命令ノミヲ發スル
 コトヲ得ヘク尙ホ取立命令ヲ發スルモ唯第三債務者ヲシテ其債務額ヲ供
 託セシムルノ效力ヲ生スルニ過キス(第六〇條)又差押ヘタル債權カ有體物ノ
 引渡又ハ給付ノ請求ナルトキハ取立命令ノミヲ發スルコトヲ得ヘシ(第六
 條)

取立命令及ヒ轉付命令ハ如何ハ下ニ説明スルカ如クナレトモ其命令ヲ求

ムルニ當リ差押債權者ハ差押命令ハ申請ト共ニ之カ申請ヲ爲スヲ得ヘク
 又ハ其後ニ至リテ申請スルコトヲ得ヘシ而シテ此二種ノ命令ノ送達ハ第
 三債務者及ヒ債務者ニ爲シ債權者ニハ其旨ヲ通知スヘク其命令ノ效力ハ
 第三債務者ニ送達ヲ了リタル時ニ發生スヘキコト等總テ差押命令ノ效力
 ト同一ナリトス(第六〇條第二項第五
 九八條第二項)

(イ) 取立命令 取立命令トハ債務者ハ第三債務者ニ對シテ有スル債權ヲ
 代位ノ手續ヲ要セス債權者ニ於テ債務者ニ代リ請求スルハ權利ヲ債權
 者ニ付與スル命令ヲ謂フ(第六〇條)即チ民法第四百二十三條第二項ニ規定
 スルカ如キ手續ニ依ルヲ要セス差押債權者カ債務者ニ代リ直接ニ第三
 債務者ニ對スル債權ヲ取立テ得ル命令ナリ取立命令ヲ得タル差押債權
 者ハ債務者ノ代理人トシテ第三債務者ニ對シ債權ノ取立ヲ爲スモノナ
 リ獨法ハ差押質權主義ナルヲ以テ差押債權者ハ自己ノ權利トシテ取立
 ヲ爲スモノナレトモ我現行法ハ差押配當主義ナルヲ以テ差押債權者ハ
 第三債務者ニ對シテハ債務者ノ代理人タル地位ニ在リト云フヘキナリ

其代理ノ性質ニ付テハ議論岐カルルモ法律ニ依リ斯ル權限ヲ取得スルモノナレハ法定代理ト爲スヲ正當ト信ス而シテ其差押債權ハ依然債務者ノ債權ナルヲ以テ其債權ニ對スル危險負擔ハ債務者ニ在リ故ニ差押債權者ノ故意又ハ過失アルニ非スンハ其債權ノ取立不能ニ歸スルモ之カ爲メ差押債權者ノ權利ニ影響ヲ來スヘキモノニ非ス差押債權者ハ第三債務者ト免除和解ヲ爲シ代物辨濟ヲ約スルコトヲ得ス第三債務者ハ差押前ニ於テ債務者ニ對シ有セル債權ヲ以テ差押ノ債權ニ對抗シ相殺ノ抗辯等ヲ爲スコトヲ得ヘシ

取立命令ハ效力ハ通則トシテ其差押ヘタル債權ハ全額ニ及フヘキモノトス然レトモ其債權全額ヨリ差押債權者ノ債權ヲ差引キタル剩餘ハ部分ハ固ヨリ債務者ニ歸屬スヘキモノナリ元來債務者ノ代人トシテ第三債務者ヨリ債權ヲ取立ツル性質ヨリ考フレハ債權全額ノ取立ヲ債權者ニ委スルモ敢テ危險ノ存スルコトナシ然レトモ債務者ノ第三債務者ニ對スル債權カ差押債權者ノ債權ヨリ多キトキハ債務者ニ對スル保護ト

シテ執行裁判所ハ差押債權者ノ有スル債權額ヲ限度トシ其超過額ハ特ニ債務者ニ於テ其取立ヲ爲シ又ハ其他ノ處分ヲ爲スコトヲ許スコトヲ得ヘシ此手續ヲ爲スニハ債務者ヨリ執行裁判所ニ對シテ其申立ヲ爲シ執行裁判所ハ差押債權者ヲ審訊シテ許否ヲ定ム(第六條)此ノ如ク差押債權者ノ取立權ヲ制限シタルトキハ其取立ヲ爲ササル部分ノ債權ハ執行ノ目的物ヨリ除外セラレタルモノナレハ他ノ債權者ヨリ之カ執行ヲ爲シ得ヘキカ故ニ尙ホ他ノ債權者ヲ保護スルノ必要ナシトシ差押債權者ニ對シテ制限シタル部分ノ債權ニ付テハ他ノ債權者ヨリ之カ配當要求ヲ爲スコトヲ得サラシメ差押債權者ニ優先ノ辨濟ヲ得セシム而シテ債務者ニ制限以外ノ債權ニ付テ其處分取立等ヲ許シタルトキハ執行裁判所ヨリ其旨ヲ第三債務者及ヒ債權者ニ通知スヘキモノトス(第六條)

債權者カ第三債務者ニ對シ取立ヲ終リタルトキハ執行終了シタルモノハニシテ債權者ハ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘキモノトス其届出前ニ於テハ他ノ債權者ヨリ其金額ニ付キ配當要求ヲ爲シ得ヘク其取立ヲ終了シ

タル旨ヲ執行裁判所ニ届出テタル後ハ其取立テタル金額ヲ以テ差押債権者カ債權辨濟ヲ受ケタルモノト爲ル他ノ債権者ハ其金額ニ付キ配當要求ヲ爲スヲ得ス(第六〇條第一項第六)又差押債権者カ相當ノ期間内ニ取立行爲ヲ實行セサルトキハ或ハ第三債務者ノ資産缺乏シ遂ニ債權ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサル場合アリ是レ債権者ノ懈怠ニ基キ生シタル損害ナルヲ以テ債権者ハ債務者ニ對シ其損害ヲ賠償スルノ責ニ任スヘシ(第六一條)然レトモ債権者カ取立行爲ヲ怠ルニ拘ハラズ利害關係者ヲシテ袖手傍觀セシムルハ法ノ精神ニ非ス故ニ執行力アル正本ニ因リテ配當要求ヲ爲ス各債権者ハ債権者ニ對シテ一定ノ期間内ニ取立行爲ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得ヘク債権者カ尙ホ債權取立行爲ヲ實行セサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第六條)又差押債権者ハ得タル取立權モ亦一ハ權利ナルカ故ニ未タ取立行爲ヲ終ラサル以前ニ於テハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシ而シテ拋棄シタル債権者ト雖モ更ニ轉付命令ヲ求ムルコトヲ得ヘシ債権者カ拋棄シタル

トキハ其拋棄シタル旨ヲ執行裁判所ニ届出テ且其謄本ヲ第三債務者及ヒ債務者ニ送達セサルヘカラス(第六一條)

第三債務者ハ取立命令ノ送達アルモ債務者ニ對スル債務アルトキニ限リ差押債権者ニ對シテ其債務ノ支拂ヲ爲スヘキモノナレトモ或ハ其債務ノ存在ヲ争ヒ或ハ其他ノ原因ニ基キ義務ヲ履行セサルトキハ債権者ハ第三債務者ニ對シテ債務履行ノ訴ヲ提起スルヲ得ヘク此場合ニ於テ執行力アル正本ヲ有シ配當要求ヲ爲ス各債権者ハ差押ヘタル債權ノ有無ニ利害ノ關係ヲ有スルカ故ニ共同訴訟人ト爲リテ原告ニ加ハルノ權利アリトス而シテ債権者ニシテ原告ニ加ハラサル者アルトキハ第三債務者ヨリ第一ノ口頭辯論期日マテニ裁判所ニ對シ右ノ債権者ヲ共同訴訟人トシテ呼出アランコトヲ請求シ得ヘシ此手續ヲ盡シタル上ハ期日ニ闕席スルモ當事者トシテ其判決ニ服從セサルヘカラス(第六三條)

(ロ) 轉付命令 轉付命令トハ差押債権者ニ對シ債務者カ第三債務者ヨリ辨濟ヲ受クヘキ債權ヲ券面額ニテ移轉セシムル效果ヲ生スヘキ命令ヲ

謂フ(第六〇條未段)故ニ轉付命令ハ債權ノ讓渡ト法律上同一ノ效力ヲ生ス然レトモ私法上ノ債權讓渡ニ非ス民事訴訟ニ依ル特種ノ讓渡ナルヲ以テ民法ノ債權讓渡ノ規定ヲ適用スヘキニ非サルナリ

轉付命令ヲ受ケタル債權者ハ債務者ノ代理人ト爲ルニ非スシテ債權ノ讓受人ト爲ルモノナルカ故ニ其效果トシテ

(1) 債權者ノ請求權ハ轉付債權カ存スル限リ債務者ハ其金高マテ債權辨濟ヲ爲シタルモノト看做サル(第六一條)

(2) 轉付命令ニ因リテ得タル權利ヲ拋棄シテ更ニ取立命令ヲ受クルコトヲ得ス

(3) 轉付命令ニ因リテ得タル債權ニ對シテ他ハ債權者ヨリ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス(第六二條)

(4) 轉付命令ニ因リテ得タル債權ハ危險負擔ハ差押債權者ニ歸ス券面額ニテ轉付スルトハ差押ヘタル債權全額ヲ移付スルノ義ニ非スシテ若シ差押債權者ノ要求額カ差押債權額ヨリ少額ナルトキハ其差押債

權額中ヨリ要求額ノ部分ノミヲ移付スヘク又要求額カ差押債權ヲ超過スルトキハ其差押債權額ヲ全部移付スヘキモノナリ故ニ券面額トハ債權ハ名價ハ意義ニシテ眞實ハ價格ニ依ラサルハ謂ナリ而シテ轉付命令ハ券面額ニ於テ債權ヲ移付スル命令ナレハ名價ヲ有セサル債權ニ付テハ轉付ヲ爲スコトヲ得ス苟クモ名價ヲ有スル債權ナルトキハ條件附ナルト期限附ナルトヲ問ハス轉付スルコトヲ得ヘシ但轉付ヲ受ケタル債權ヲ取立ツルハ條件ノ成就若クハ期限ノ到來シタル後ナラサルヘカラス

轉付命令ハ第三債務者及ヒ債務者ニ裁判所ヨリ送達ノ手續ヲ爲スヘク又差押債權者ニハ其送達ヲ爲シタル旨ヲ通知スヘク(第六〇條第二項)轉付命令ハ第三債務者ニ送達シタル時ヲ以テ其效力ヲ生ス(第六〇條第二項)轉付命令カ效力ヲ生スルトキハ差押債權者ハ第三債務者ニ對シテ債務者ハ承繼人トシテ債權者ト爲ルモノナリ故ニ第三債務者ハ債務者ニ對シテ有シタル總テノ抗辯ヲ差押債權者ニ對シテモ主張スルコトヲ得ヘ

シ又差押債権者ハ轉付命令ニ依リテ債務者ニ對シテハ債權辨濟ヲ得タルモノト爲ル第三債務者ノ資力ノ有無ニ關セサルナリ然レトモ轉付命令カ效力ヲ生スル當時ニ於テ轉付債權カ存在スルコトヲ條件トシテ此效力ヲ生スルモノトス如何トナレハ現存セサル債權ハ之ヲ轉付スルモ債權讓渡ノ效力ヲ生スヘキニ非サレハナリ故ニ轉付セラレタル債權全部カ存在セサルトキハ轉付命令ハ何等ノ效力ヲ生セス債權一部ヲ存シタルトキハ其存スル部分ニ付キ債務辨濟ヲ爲シタルモノト看做サレ轉付命令カ效力ヲ生セサル部分ノ債權ニ付テハ差押債権者ハ更ニ他ノ目的物ニ付キ強制執行ヲ爲スヲ得ヘキナリ

(二) 差押債權ハ特別換價處分 差押ヘタル債權カ條件附ナルカ又ハ有期ナルトキ若クハ反對給付ニ繫ルカ又ハ債務者ノ不在破産等ノ他ノ理由アリテ取立ノ困難ナル場合ニハ債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ他ノ特別ナル換價方法ヲ命スルコトヲ得ヘシ其特別ノ方法トハ裁判所ノ意見ニ因リテ定マルヘキモノニシテ例ヘハ或ハ競賣ノ方法ニ依リ或ハ適

宜ノ賣買ヲ命スルコトヲ得ヘシ

右ノ命令ヲ爲スニハ債務者内國ニ在テ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許ス決定ヲ爲ス以前債務者ヲ審訊スヘキモノナレトモ債務者カ外國ニ在ルカ又ハ住所不明ノ場合ニハ特ニ審訊ヲ爲スヲ要セサルモノトス(第六一)

第二目 金錢以外ノ有體物ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル債權ニ對スル強制執行

有價證券若クハ金錢以外ノ有體物ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスル債權ノ引渡給付等ニ關スル強制執行ハ債權ニ基クト物權ニ基クトヲ論セス又動産ナルト不動産ナルトニ拘ハラス特別ノ規定ナキ限ハ金錢ノ債權ニ關スル一般ノ執行方法ニ依ルヘキモノニシテ(第六一)其特別ノ規定左ノ如シ

第一 有體動産ニ關スル強制執行

有體動産ヲ目的トスル請求ニ關スル差押ハ執行裁判所ヨリ一而債務者ニ其債權ノ處分ヲ禁シ一而第三債務者ニ對シテ動産ヲ執達吏ニ引渡シ若クハ給付スヘキコトヲ命令スルヲ以テ之ヲ爲ス(第六一)差押債權者ヨリ委任ヲ受ケ

タル執達吏ハ第三債務者ニ對シ物件ノ引渡又ハ給付ヲ求ムヘキモノトス若シ第三債務者之ニ應セサルトキハ差押債權者ハ更ニ取立命令ヲ執行裁判所ヨリ受ケテ取立ノ手續ヲ爲ササルヘカラス然ルニ仍ホ取立命令ノ效ナキトキハ差押債權者ヨリ第三債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ之カ判決ノ結果トシテ強制執行ヲ爲スヘキモノトス

右有體動産カ執達吏ノ占有ニ移リタルトキハ執達吏ハ第五百七十二條以下ノ規定ニ從ヒテ換價ノ手續ヲ實行スヘキモノナリ(第六一五項)轉付命令ハ以上説明シタル有體動産ニ付テ付與スルコトヲ得ス蓋シ債權ノ性質上券面額ナキヲ以テ之ヲ讓渡スルモ金錢債權ノ辨濟ト爲スコトヲ得サレハナリ(第六一七條)

第二 不動産ニ關スル強制執行
不動産ハ引渡ヲ請求スル權利ハ差押ニ付テハ差押債權者ハ先ツ不動産ヲ保管スヘキ保管人ノ選任方ヲ不動産所在地ノ區裁判所ニ申請シタル後更ニ執行裁判所ニ對シ其保管人ニ不動産ヲ引渡スコトヲ第三債務者ニ命スヘキ引渡命令ヲ受ケンコトヲ申立テ此命令ニ因リテ差押ハ實行ヲ爲スヘキモノトス

(第六一六條)而シテ不動産引渡ノ債權ヲ差押ヘタルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ因リテ命シタル保管人ニ狀況ヲ述ヘ差押命令ヲ添ヘ保管人ニ引渡ス權利ヲ有シ且差押債權者ノ請求ニ因リ之ヲ引渡ス義務ヲ負フ(第六一二條)執達吏カ不動産ノ引渡ヲ受ケタルトキハ引續キ換價ノ手續ヲ爲スヘキモノニシテ此手續ハ第六百四十條以下ニ規定セル普通ノ不動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ依ルヘキモノトス(第六一六條第二項)

第三目 第一目第二目以外ノ財産權ニ對スル強制執行

金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權及ヒ金錢以外ノ有體物ノ引渡給付ヲ目的トスル債權以外ニ尙ホ一種ノ財産權アリ例ヘハ著作權、特許權等ノ如シ此等ノ權利モ亦金錢債權ノ辨濟ノ爲メニ差押フルコトヲ得ヘキモノトス然レトモ其權利ハ金錢ニ換價シ得ヘキ權利ニ非サレハ差押ノ目的ト爲スコトヲ得ス然ラサレハ差押債權者ノ金錢債權ヲ辨濟スルニ足ラサレハナリ又其權利ハ債務者ノ財産

ニ屬シ且他人ニ讓渡シ得ヘキモノナルコトヲ要ス
右權利ノ差押ニ付テハ第三債務者アルトキハ差押命令ヲ債務者竝ニ第三債務者ニ送達シ前述セル債權ニ付テノ執行手續ニ依ル若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做サル此場合ニ於テハ執行方法トシテ裁判所ハ特別處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第六二條五條)

第四目 數名ノ債權者ノ差押及ヒ配當要求

數名ノ債權者カ同時ニ債權其他ノ財産權ハ執行ヲ申立テタルトキハ前説明シタル手續ニ準據シテ差押命令其他ノ手續ヲ爲スヘキナリ(第六一條九條)有體動産ハ差押ハ如ク差押アリタル債權ハ他ノ債權者ハ重ネテ之カ差押ヲ爲スヲ得サルヤ否ヤニ付テハ疑アリト雖モ法律ニ何等ノ明文ナキヲ以テ差押ヲ爲スヲ得ヘシト解スルヲ正當ト信ス故ニ同一ノ債權ニ對スル二箇以上ノ差押命令ハ共ニ效力ヲ生スヘシト雖モ差押ニ前後アルトキハ第二ノ差押債權者ハ第一ノ差押カ取消ト爲ルニ非サレハ取立命令若クハ轉付命令ヲ求ムルヲ得ス如何トナレハ

是レ第一ノ差押債權者ノ權利ヲ害スルモノナレハナリ法律ハ規定ニハ差押ハ前後ニ依リ優先權ヲ認メタル規定存セスト雖モ後ノ差押債權者ニ轉付命令若クハ取立命令ヲ許ストキハ前差押債權者ノ差押ハ何等ノ效力ナキニ歸スヘク法律カ差押ヲ許シタル立法ノ精神ニ反スレハナリ而シテ一ノ差押債權者カ取立命令若クハ轉付命令ヲ得タルトキハ他ノ差押債權者ハ斯ル命令ヲ得ル能ハサルニ至ルヤ當然ナリトス
執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法上配當要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シタル旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ領收スルマテ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ差押債權者ニ對シテ轉付命令ハ效力ヲ生シタル後ハ其債權ニ關シテ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス如何トナレハ轉付命令ハ債權ヲ讓渡スルモノニシテ轉付セラレタル債權ハ債務者ノ債權ト謂フコトヲ得サルヲ以テ之ニ配當ヲ要求シ得ル理由ナケレハナリ
(第六二條)配當要求カ適法ナルトキハ之ヲ爲シタル各債權者ハ差押債權者ト共ニ其債權額ニ應シ辨濟ヲ受クヘキ權利アルモノトス

「執行力アル正本ニ因ラサル債権者ハ配當ノ要求ヲ爲スニ當リ其債權ノ原因ヲ開示シ假住所ヲ設クヘキコト第五百九十條ノ規定ノ如ク又債務者ノ認否ヲ三日内ニ執行裁判所ニ申立ツルコト若シ債務者ノ否認アルトキハ訴ヲ起シ債權ヲ確定スヘキコト等第五百九十一條ニ規定セル如キ手續ニ從ハサルヘカラス」配當要求ハ裁判所ノ職權ヲ以テ債務者第三債務者及ヒ差押債権者ニ通知スヘク既ニ爲シタル差押力取消ト爲ルトキハ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求シタル債権者ノ爲メニ其要求ノ順序ニ因リテ差押ノ效力ヲ生ス(第六二條)金錢ハ債權ニ付キ配當要求ハ通知ヲ受ケタル第三債務者ハ債權額ヲ供託スルハ權利アリ又配當ニ與カルヘキ或債権者ハ求アルトキハ之カ供託ヲ爲スハ義務アルモノトス若シ債務額ヲ供託スルトキハ第三債務者ハ自ら進ミテ供託ヲ爲シタルカ又ハ債権者ノ申立ニ基キテ供託シタルカ竝ニ其供託ノ金高等總テノ事情ヲ具シ供託證書ヲ添付シテ裁判所ニ届出ツヘキモノトス(第六三條)

第四項 配當手續

配當手續ハ有體動産若クハ債權其他ノ財産權ニ對スル強制執行ニ於テ債権者

ノ多數ナル場合ニ配當スヘキ金錢カ各債権者ノ債權ヲ完済スル能ハサルトキ各債権者間ニ配當ノ協議調ハサル場合ニ於テ如何ニ配當スヘキカヲ定ムル手續ナリ故ニ有體動産ノ競賣代金又ハ差押債權ヨリ生スル金錢ヲ以テ各債権者ノ債權ヲ辨済スルニ足ルカ又ハ各債権者間ニ於テ任意配當ノ協議調ヒタル場合ハ執達吏其執行手續ヲ完結シテ配當手續ヲ開始スルノ必要ナシ若シ協議調ハサルトキハ本項ニ述フル配當手續ヲ實施シ其終了ニ因テ執行手續ハ完了ニ至ルモノナリ隨テ手續完了ニ至ルマテハ總則ニ述ヘタル債務者其他ノ利害關係人ハ執行異議若クハ異議ノ訴ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

第一 配當手續ニ付テハ次ハ三條件ヲ必要トス(第六二條)

(一) 債権者ハ多數ナルコト 差押債権者カ多數ナルカ又ハ照査債権者其他ノ配當要求ヲ爲シタル債権者ノ多數ナルコトヲ要ス執行力アル正本ヲ有スル債権者ナルト執行正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲シタル債権者ナルトヲ問ハス差押アリタル債務者ノ財産ヨリ辨済ヲ要求スル適法ノ債権者カ二人以上アルコトヲ要ス(第五八九條、第六〇條參照)債権者カ二人以上ナキトキハ配

當ノ必要ヲ生セサルナリ

- (二) 金錢ハ供託アルコト 有體動産ニ付テノ強制執行ニ於テ差押財産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ此債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキ又ハ多數ノ債權者ノ爲メニ同時ニ金錢ヲ差押ヘタル場合ニ其金錢ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ執達吏ハ其金錢ヲ供託シ且ツ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ(第五九條)又金錢ノ債權ニ付キ差押アリタル場合ニ第三債務者カ配當要求ノ送達ヲ受ケタルトキハ其債務額ヲ供託シ又第三債務者ハ配當ニ與カル債權者ヨリ供託ノ請求ヲ受ケタルトキ債務額ヲ供託スル義務アリ右供託ノ場合ニハ其狀況ヲ第三債務者ヨリ執行裁判所ニ届出ツヘキモノナリ(第六三條)以上二個ノ場合ニ配當手續カ實施セラレヘキモノトス
- (三) 競賣代金又ハ差押金錢ニ付テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラスシテ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ハ期間内ニ配當ハ協議調ハサルコトヲ要ス

右三要件ヲ具ヘタル場合ニ執行裁判所ハ配當手續ヲ實施スヘキモノナリ之カ實施ハ有體動産又ハ債權ニ付テノ執行裁判所カ專屬管轄ヲ有スルモノトス(第五六三條參照)

第二 配當手續ハ左ノ方法ニ依テ實施ス

- (一) 配當手續ハ執達吏又ハ第三債務者ノ届出(第五九三條第三項)ニ因テ開始スルモノナリ届出アリタルトキハ裁判所ハ其届出ニ基キ各債權者ニ對シテ七日ノ期間内ニ元金利息費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出スヘキ旨ヲ催告セサルヘカラス茲ニ債權者ト云フハ配當要求ヲ爲シタル債權者竝ニ差押債權者ヲ謂ヒ(第六二條)七日ノ期間ハ催告書ノ送達ヨリ起算スヘキモノトス其期間滿了ノ後裁判所ハ各債權者ヨリ差出セル計算書ニ基キ配當表ヲ作製スヘシ配當表ハ各債權者ノ債權額ニ應シ差押金錢ヲ如何ニ分配スヘキカヲ定ムルモノナリ若シ執行ニ關係セル債權者ニシテ七日ノ期間内ニ計算書ヲ差出ササル者アルトキハ其債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求竝ニ執達吏又ハ第三債務者ノ届出ノ趣旨竝ニ其證據書類ニ

ヨリテ計算シ後ニ其債權額ヲ補充スルコトヲ許サス(第六二條)即チ届出ヲ爲
ササル債權者ノ債權額ハ執行記録ニ存スル其債權者ノ配當要求ニ關スル
書類ニ依リテ裁判所カ計算シテ其額ヲ定メ其以後ハ不足ナルトキト雖モ
債權者ハ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトス

- (二) 裁判所カ配當表ヲ作成シタルトキハ其配當表ニ關シテ債務者竝ニ各債
權者ニ對シテ異議ハ有無ヲ陳述セシメサルヘカラス且其配當表ヲ實施ス
ルノ必要アルヲ以テ裁判所ハ一定ノ期日ヲ指定シ各債權者及ヒ債務者ヲ
其期日ニ呼出スヘシ若シ債務者ノ所在不明ナルトキ又ハ外國ニ在ルトキ
ハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス(第六二條第一項)而シテ配當表ハ各債權者及ヒ債務者
ニ閱覽セシムル必要アルヲ以テ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備ヘ
置クヘキモノトス(第六二條第二項)以上ノ期日ハ當事者ノ申立若クハ裁判所ノ職
權ヲ以テ變更スルコトヲ許サル
- (三) 右手續ニ依リテ定メタル期日ニ債權者及ヒ債務者カ出頭シテ配當表ニ
付キ異議ヲ申立テサルトキハ配當表ニ從テ其金額ヲ各債權者ニ配當スヘ

- キモノナリ若シ期日ニ出頭セサル債權者アルトキハ配當表ノ實施ニ付キ
同意セルモノト看做サル(第六三條第一項)配當スヘキ債權カ停止條件附
ナルトキハ之ヲ供託シ民法ニ從テ條件ノ成否ニヨリ之ヲ其債權者ニ支拂
フカ若クハ更ニ他ノ債權者ニ之ヲ配當セサルヘカラス(第六三條第二項)執行力ア
ル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲シタル場合ニ債務者カ其債權ヲ認諾セ
サルトキハ債權者ハ訴ヲ起シテ其債權ヲ確定セサルヘカラス配當表ヲ實
施スルニ際シ尙ホ其債權カ訴訟中ニ在ルトキハ其債權者ニ對スル配當額
ハ未確定ノ状態ニ在ルモノナレハ尙ホ之ヲ供託スヘキナリ或債權者ノ債
權ニヨリ配當金額ノ幾部カ假差押ニ係ルトキハ尙ホ其債權額ニ對シ配當
スヘキ金額ヲモ供託シ其他配當表ノ實施ニ付キ異議アル債權者ノ配當額
モ之ヲ供託スヘシ(第六三條第三項)配當期日ニ於テハ配當ノ實施ニ付キ調書ヲ作
製シ配當表ノ實施ニ異議ナキヤ否ヤ或ハ異議アリタルヤ否ヤヲ明カニ記
載スヘシ(第六三條第四項)
- (四) 債權者カ配當表ニ付キ異議アルトキハ配當期日ニ於テ異議ハ申立ヲ爲

スヘキナリ、但期日前ニ書面ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スヲ得ヘシト雖モ期日ニ出頭シテ其陳述ヲ爲ササルトキハ異議申立ノ效力ヲ生セス異議ノ申立アリタルトキハ配當期日ニ於テ他ノ債權者ハ其異議ニ付キ直チニ陳述ヲ爲スヘク若シ關係人カ異議ヲ正當ナリト認メタルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ配當ノ實施ニ合意シタルトキハ之ニ從テ配當表ヲ更正シ配當表ヲ實施セサルヘカラス又期日ニ異議カ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限リ配當表ヲ實施スヘシ(第六三條)若シ期日ニ出頭セサル債權者アリテ其債權者ノ債權カ他ノ債權者ヨリ申立テタル異議ニ關係ヲ有スルトキト雖モ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス故ニ期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意セルモノト看做サレ異議ヲ主張スル權利ヲ喪失スルモノトシテ後日之カ不服申立ヲ許サス(第六三條第二項)

(五) 配當期日ニ於テ異議カ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權者ハ他ノ債權者ニ對シテ訴ヲ提起シ配當表ヲ如何ニ更正スヘキヤヲ確定セサルヘカラス其訴ハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以

テ支拂フヘキカヲ定ムヘキ訴ニシテ其訴ハ創設ノ訴ナリトス異議ヲ申立テタル債權者カ原告トシテ之ヲ提起シ配當ニ關係スル他ノ債權者ヲ被告トス右ノ訴ハ配當期日ヨリ七日ノ期間内ニ提起セサルヘカラス若シ此期間ヲ徒過スルトキハ配當裁判所ハ異議ニ拘ラス配當表ヲ實施スルヲ得ヘシ訴ヲ提起シタル債權者ハ七日ノ期間内ニ裁判所ニ之ヲ證明スルヲ要ス(第六三條)但異議ヲ申立テタル債權者カ七日ノ期間内ニ訴ヲ提起セサルトキト雖モ配當表ニ從テ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ妨ケラルルモノニ非ス故ニ異議ヲ主張シタル債權者カ此期間ヲ怠リタルカ爲メ配當表ノ實施カ完結シタルトキト雖モ優先權ニ基キテ配當ヲ受ケタル債權者ニ其配當金額ノ支拂ヲ請求スル權利ハ消滅スルモノニ非ス只期間ノ懈怠ニ因リテ裁判所ノ配當手續ニ於テ權利ヲ主張スルコトヲ喪失スルニ止マル(第六三條第四項)

異議ヲ申立テタル債權者ハ配當金額確定ノ訴ハ配當裁判所ニ提起スルヲ原則トス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ配當裁判所

所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄シ若シ多數ノ異議申立債權者アリテ數多ノ訴ノ提起アリタルトキ其一部ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦合セテ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受クヘキコトヲ同意シタルトキハ訴訟物ノ價額如何ニ拘ハラズ又訴カ二以上ナル場合ト否トヲ問ハス配當裁判所其管轄權ヲ有ス(第六條)異議ノ訴ハ通常ノ訴訟手續ニ依リテ進行スヘキモノニシテ其判決ニ於テハ爭ニ係ル配當額ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フヘキカヲ定ム若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命スヘキモノトス(第六條)異議ヲ申立テタル債權者カ若シ口頭辯論期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲スヘシ此判決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルハ通常ノ手續ト同シ(第六條)

(六) 前ニ述ヘタル異議ハ訴ハ判決カ確定シテ其確定證明アリタルトキ即チ債權者ヨリ確定ハ證明ヲ配當裁判所ニ爲シタルトキハ配當裁判所ハ其判

決ニ基キ配當ヲ實施シ若クハ更ニ配當手續ヲ實施スルコトヲ得ヘシ(第六條)

(七) 配當表ニ異議アリテ判決ニ基キ配當ヲ實施スル場合ナルト又異議ナクシテ配當ヲ實施スル場合ナルトヲ問ハス配當表ハ實施ニ付テハ次ノ手續ニ依ルヘキモノトス即チ債權全部ノ配當ヲ受クヘキ者ニハ配當額即チ支拂額ヲ交付スルト同時ニ其債權者ノ所持スル執行力アル正本又ハ債權證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付セシメ一部ノ債權ノ辨濟ヲ受クヘキ者ニハ執行力アル正本又ハ債權證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且配當額ノ支拂證書ヲ交付スルト同時ニ其債權者ヨリ右金額ノ受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付スヘク期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ之ヲ供託スヘシ尙ホ此手續ヲ爲シタルトキハ其事實ヲ調書ニ記載シテ明確ニスヘキモノトス(第六條)

第二款 不動産ニ對スル強制執行

不動産ニ對スル強制執行モ前款ト同ク金錢債權ノ辨濟ヲ得セシムルノ執行手

續ナリ不動産ノ意義如何ハ民法ニ因ル立木モ明治四十二年法律第四十二號ニ依リ不動産ト看做サル而シテ不動産ニ對スル強制執行ハ動産ニ對スル強制執行ト異ナリ其手續ヲ嚴格ニセスンハ不動産ノ融通ヲ害シテ社會ノ公益ニ妨害ヲ與フルコト尠カラス故ニ詳密ノ規定ヲ設ケテ之カ保護ヲ爲セリ

不動産ニ對スル強制執行ハ法律ニ依リ差押ヲ禁シタル物ヲ目的ト爲スヲ得ス故ニ華族ノ世襲財産ノ如キハ目的物ト爲スヲ得ス(華族世襲財産法參照)

第一項 不動産ニ對スル強制執行ノ方法及ヒ管轄裁判所

不動産ニ對スル強制執行ノ方法ニ二種アリ債權者ハ之カ選擇ヲ爲シ得ルノ權利アルノミナラス二種併セテ之カ實行ヲ求ムルノ權利アリ(第六四條)其方法左ノ如シ

第一 強制競賣

強制競賣ハ不動産其モノハ公賣シ其換價額ヲ以テ債權ハ辨濟ニ充ツル執行方法ナリ強制競賣ハ民法上ノ賣買ニ非ス裁判所カ債權者ノ不動産ヲ賣却ス

ルモノナリ又裁判所ハ債權者ノ代理人トシテ賣却スルニ非ス職權行爲ヲ以テ賣却スルモノナリ然レトモ賣主ハ債權者ニシテ競落許可ニ因リ競落人ト債務者トノ間ニ私法的効力ヲ生スルモノナリ競賣ノ性質ニ付テハ動産ノ競賣ト異ナル

第二 強制管理

強制管理ハ不動産ハ賣却ヲ爲サスシテ其不動産ヨリ生スル收益ヲ以テ債權ハ辨濟ニ充ツル執行方法ナリ 收益ハ金錢其レ自身ナルコトアリ又物件ナルコトアリ若シ物件ナルトキハ換價方法ニ因リ金錢ト爲シ孰レモ債權ノ辨濟ニ充ツルモノトス收益ノ物件ナルトキトハ地所ヲ賃貸シテ小作米ヲ獲取スル場合ノ如シ

假差押ヲ爲ス場合ニハ未確定ノ債權ノ爲メ假ニ不動産ヲ差押ヘテ後日辨濟ヲ免レシメサル執行保全ノ方法ヲ取ルニ過キサレハ不動産ヲ賣却スヘキ強制競賣ノ方法ニ依ルコトヲ得ス然レトモ強制管理ノ方法ニ從ヒテ其收益ヲ收得シ之ヲ供託スルコトヲ得(第六四條)

不動産ニ對スル強制執行ハ執行機關ハ裁判所ニシテ不動産所在地ノ區裁判所ヲ執行裁判所トス若シ執行セントスル不動産カ數多ノ區裁判所管轄區域内ニ散在スルトキ同時ニ差押ヲ爲サントスル場合ニハ其強制執行ノ申立人ハ直近上級裁判所ニ管轄裁判所ノ指定ヲ請求スヘキモノナリ(第六四條)
右ノ管轄區裁判所ハ專屬管轄ニシテ當事者ノ合意ヲ以テスルモ之カ變更ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(第五六條)

第二項 強制競賣

第一 強制競賣開始ノ要件

- 一 債權者債務者及ヒ裁判所ノ表示
 - 二 不動産ノ表示
 - 三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ執行シ得ヘキ一定ノ債務名義
- 以上ノ主タル要件ノ外尙ホ執行權アルコト差押フヘキ不動産ノ債務者ノ所

有ナルコト其不動産ノ現在スルコト等ヲ確實ニスル爲メニ左ノ書類ヲ提出セサルヘカラス(第六四條)

- (一) 執行力アル正本
- (二) 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書 認證書トハ登記法ニ所謂謄本又ハ抄本ノ類ヲ謂フ
- (三) 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證スヘキ證書
- (四) 地所ニ付テハ國郡市町村字番地地目反別若クハ坪數土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ムヘキ一年間ノ租稅其他ノ公課ヲ證明スヘキ證書
- (五) 建物ニ付テハ國郡市町村字番地構造ノ種類木造石造瓦葺茅葺等ノ區別ノ如シ建坪及ヒ其建物ニ付キ一年間ニ納ムヘキ公課ヲ證スヘキ證書
- (六) 地所建物ニ付キ貸借アルトキハ其期限及ヒ借賃ヲ證スヘキ證書
- 右(三)(四)(五)ニ所謂證明書ハ私署證書ヲ以テスルモ敢テ不可ナシト雖モ私署證

書ノ如キハ往々信憑力ヲ缺クノ惧アルヲ以テ法律ハ公正證書ヲ以テ證明スヘキモノトセリ而シテ右等ノ公簿ヲ主管スル官廳ニ債權者ハ右數項ノ事實ヲ證明セントスルノ理由ヲ以テ證明書ノ下付ヲ請求スルコトヲ得ヘシ其官廳ハ地所建物ニ關スル公簿ヲ主管スル所ニシテ例ヘハ稅務署郡役所村役場區役所ノ如シ(第六四三條第二項)

又右(五)ノ事實ヲ證明スルコトヲ得サル場合ニハ債權者ヨリ競賣ノ申立ト同時ニ其取調方ヲ執行裁判所ニ請求スヘシ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシメサルヘカラス(第六四三條第三項)

競賣ノ申立ヲ爲ス以前ニ既ニ同一ノ不動産ニ對シ強制管理ノ申立ヲ爲シ之カ差押アリタル場合ニハ其執行記録中ニ前記(二)乃至(六)ノ要件明白ト爲リ居ルニ付キ之カ書類ノ添付ヲ要セス(第六四三條第四項)

第二 強制競賣開始決定

債權者ヨリ前述ノ要件ヲ具ヘ強制競賣ノ申立ヲ爲ストキハ執行裁判所ハ口頭辯論ヲ開カス申立人ヨリ提出シタル書類ヲ審査シ理由ナキカ又ハ要件ヲ

具備セサルトキハ之ヲ却下シ申立ヲ適法ニシテ理由アリトスルトキハ強制競賣ノ開始決定ヲ爲シ此決定中ニハ債權者ハ爲メ不動産ヲ差押フヘキ旨ヲ宣言スヘシ(第六四四條第一項)

競賣開始決定ハ強制競賣ノ手續ヲ開始スルコトヲ命シタル裁判ナリ右ノ決定ハ執行ノ方法ニ屬スル裁判ナルヲ以テ此決定ニ對シ債務者カ不服ナルトキハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第六四五條第四項) 抗告ハ之ヲ許サス申立ヲ却下ス

ル決定ニ對シテハ債權者ハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ主張スルヲ得ヘシ(第六四六條第五項) 執行裁判所ハ開始決定ヲ爲スニ際リ職權ヲ以テ登記判事ニ對シ不動産ニ付キ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ登記スヘキ旨囑託スヘク登記判事ハ

之カ登記ヲ爲シテ其登記簿ノ謄本ヲ執行裁判所ニ送付スヘキモノトス(第六四七條第二項) 而シテ登記判事ハ其不動産ニ關シ質權抵當權等ノ設定アリテ權利者ヨリ提出シタル各種ノ證書等存在スルコトヲ發見スルトキハ此等證書ノ抄本ヲ執行裁判所ニ送付シテ競賣手續ヲ續行シ得ルヤ否ヤノ參考ニ供スヘキモノト

ス(第六五)又裁判所ハ競賣開始決定ヲ爲シタル後公租公課ヲ司トル稅務署郡役所村役場區役所ニ對シ不動産ノ負擔スル債務ノ有無及ヒ限度ヲ或一定ノ期間ニ申出ツヘキ旨ノ催告ヲ爲スヘキモノトス(第六五)

第三 差押ハ效力及ヒ其消滅

(一) 執行裁判所ハ職權ヲ以テ競賣開始決定ヲ債務者ニ送達スヘク其送達ニ因リ差押ハ效力ヲ生ス(第六四)債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ開始決定ノ送達ヲ必要トセス(第五四)差押ノ效力ハ開始決定ヲ爲シタルトキニ發生スルモノナリ差押ニ因リ當事者及ヒ第三者ニ及ホス效果ハ左ノ如シ

(イ) 債務者ハ差押ニ因リ不動産ハ處分ヲ禁止セラレ又差押債權者ヲ害スヘキ負擔ヲ加フルコトヲ得ス然レトモ債務者ハ依然不動産ノ所有者タルコトヲ失ハサルニ因リ其不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨ケス例ヘハ家屋ヲ修繕スルカ如キ又ハ其不動産ヨリ收益ヲ爲スノ行爲ヲ行フコトヲ得ヘシ(第六四)利用及ヒ管理ノ文詞ニ拘泥シ差押後ト雖モ債

務者ハ不動産ニ付キ地上權抵當權賃借權等ヲ設定シ其權利ハ競落人ニ對シテモ對抗スルコトヲ得ヘシト言フ者アリ是レ差押ノ效力ヲ無視シタルモノト言ハサルヘカラス強制競賣ハ開始決定ノ效力ヲ生シタル當時ノ狀態ニ於テ不動産所有權ヲ競落人ニ移轉スルコトヲ目的トスルモノナレハ債務者ハ地上權賃借權等ヲ設定スルヲ得ルモ其權利ハ競落人ニ對抗スルヲ得サルモノト爲スヘキナリ最低競賣價額ノ規定ニ徴スルモ之ヲ知ルヲ得ヘシ

債務者ハ差押ニ因リ不動産ノ處分ヲ禁止セラルト雖モ其禁止タルヤ債權者保護ノ目的ニ出ツルモノニシテ債務者ノ處分ハ債權者竝ニ競落人ニ對シテ無効タルニ止マル不動産ノ差押ノ效力ニ付キ論述セル處ヲ參照スヘシ故ニ差押ノ登記後其不動産ニ付キ抵當權賃借權等ノ登記申請アリタルトキハ登記判事ハ其登記ヲ拒ムヲ得サルモノトス(不動產登記法)或ハ曰ハン差押後ニ登記ヲ許スモノトセハ新ニ配當加入者ヲ増加スルニ至ルヘシト然レトモ差押ノ效力トシテ不動産ハ差押當時ノ狀態ニ於